

津波対策として議論された臼杵小学校移転統合問題における PTA および地域住民としての取り組みについて

塩崎洋一

(臼杵小学校前 PTA 会長)

淵ノ上英樹

(立命館アジア太平洋大学准教授)

(広島大学平和科学研究センター客員研究員)

第1節 はじめに

本資料は、2012年（平成24年）7月から2013年（平成25年）1月にかけて議論された、大分県臼杵市立臼杵小学校の移転統合問題に関する臼杵小学校 PTA の資料をまとめたものである。大分県臼杵市は人口約4万人¹、大分県の東南沿岸部にあり、豊予海峡から続く太平洋に面している。臼杵市の市街地は、臼杵市内を流れる臼杵川の河口付近の低地にあり、臼杵小学校もその市街地に立地している。この沿岸低地部に立地する臼杵小学校を、近隣の高台にある福良ヶ丘小学校に移転統合する案が、2012年7月に臼杵市から臼杵小学校 PTA 役員に示された。

内閣府（2012）によれば、南海トラフの巨大地震で想定される臼杵市の津波の高さは最大で7mである²。この南海トラフの巨大地震で想定される津波被害を主な移転統合理由として議論された本件は、「移転しなくて良い」という意見が約9割を占めた臼杵小学校 PTA の臨時総会の投票結果も踏まえ、2013年1月に臼杵市が移転案の撤回を決定した。本件は、南海トラフの巨大地震による津波対策を主な移転理由とした、国内で最初の事例である。東日本大震災を経験し、その教訓から被災地の一部では施設や街全体の高台移転が進む中、臼杵市

¹ 臼杵市役所ホームページ（URL: <http://www.city.usuki.oita.jp/>）

² 内閣府（2012）「資料1-2 都道府県別ケース別最大津波高さ」平成24年8月29日発表、pp.6.

のケースでは、なぜ小学校の高台移転に住民は反対したのであろうか。今後、西日本の太平洋沿岸部に位置する地域において、津波対策を視野に入れたこれと類似の案件が発生することが考えられる。

本件に関わる臼杵小学校 PTA の活動の記録は、国内初の津波対策を主眼とした移転統合問題の経緯を知る上で非常に重要な資料である。また、臼杵市と同様の津波被害が想定されている西日本の太平洋沿岸部の地方自治体や住民が、防災・減災・レジリエンス（復元力）³構築などの災害対策を進める上で貴重な資料にもなると考えた。具体的には、建設的な議論を住民と行うためにはどのような下準備が必要か、住民に対するアプローチはどのように行うべきか、住民はどのようなことを優先事項として考えるのか、最終的な決定の仕方はどのような形が望ましいのか、矢面に立たされる住民側のリーダーが抱える葛藤とはどのようなものか、といった貴重な知見を、行政や住民が対策を練る際に参考にできる貴重な資料である。

この活動の記録を残すことで、そうした地域で行政と住民、または住民同士が、意見や見解の相違によって対立するようなことを事前に回避し、将来に向けた建設的な議論が進むようになれば、両者にとって有益である。また既に移転案の撤回がなされた臼杵市の場合には、それぞれの主張について詳細に分析し、状況を改善していく超越案を、今後、提示していく必要がある。その為にも臼杵小学校 PTA 側の資料も何らかの形で残しておかなければならない。意見の相違や対立をいかに回避または超越して、両者にとって好ましい状況を作るかという課題は、まさにガルトゥング平和学の希求する核心部分である。

よって議事録、アンケート集計結果、市やマスコミとやり取りした文書といった具体的な一次資料を、経緯説明とともにこのような形で残すこととした。こうした資料は、同様の問題が他の地域で発生した際、行政との交渉に不慣れな住民側が、どのような文書を作成・提出すれば良いか、どのように記録を残しておけばよいか、アンケートの実施や集計、記録をどのように行えばよいか、自分たちの意見集約や意思表示をどのようなプロセスで行えばよいか、といった点を学ぶことのできる重要な資料でもある。

³ Aldrich, DP. (2012) *Building Resilience*. The University of Chicago Press, pp.252、および朝日新聞 2013 年 4 月 30 日朝刊「生活を復元する力 ダニエル・アルドリッチさん」より、レジリエンス(resilience)の和訳を「復元力」としている。

一見、単なる防災対策の一記録のように見える本件を、平和学の観点で取り上げるに至った経緯については、若干の説明を要するであろう。そもそも、本資料は、2008年に刊行された IPSHU 研究報告シリーズ 40 の淵ノ上英樹著「平和モニュメントと復興」を起点とした、一連の研究の流れの中で作成されたものである。淵ノ上（2008）では、原爆遺構としての原爆ドームの象徴する意味が時代とともにどう変化したのかを報告した⁴。その中で、遺構の存置を巡る有識者、広島市長、広島市民の意見やその変化も報告した。

この研究を通して、遺構とその存置問題が地域に与える影響に筆者は興味を持った。そこで、2011年3月11日に発生した東日本大震災による津波によってできた遺構と、その存置問題について調査を行っていた。特に宮城県の南三陸町にある防災対策庁舎の存置に関して、南三陸町議会での議論や、語り部の意見などをまとめていた。

この調査・研究を進める中で、こうした遺構を巡る議論は、数多くの被災地で発生していることがわかった⁵。そして場所によっては、それが住民間や、行政と住民の深刻な対立や不信を生んでいたり、被害者や遺族の心に大きな影を落としていたりする原因になっていることがわかった⁶。このように津波の被災地では遺構問題が一般的に発生しており、復興に影響を与えている実態が観察された。

これを踏まえ、我々西日本の太平洋沿岸に暮らすものは、津波被害を受ければ遺構問題が一般的に発生するという事を前提にして、対策を事前に練る必要があるのかもしれないと考えるに至った。そこで、西日本の太平洋沿岸部の自治体が、どのような点に力点を置いて津波対策を行っているのか調査を始めた。その際に出会ったのが、今回の大分県臼杵市の事例であった。

こうした一連の調査を進めていた折、期せずして前述の淵ノ上（2008）が、国立民族学博物館の研究者の目に留まり、2014年1月18日に開催された、公開

⁴ 淵ノ上英樹（2008）「平和モニュメントと復興」『現代平和構築活動の視点から見た広島の戦後復興史』、IPSHU 研究報告シリーズ 40、pp.25-63.

⁵ 国立民族学博物館ホームページ「東日本大震災に関連する震災遺構」（2013年3月15日掲載 URL: <http://www.minpaku.ac.jp/common/20110311east-j/index>）

⁶ 南三陸町（2011-2013）南三陸町議会議事録、南三陸町東日本大震災特別委員会会議録、宮城県（2013,2014）宮城県震災遺構有識者会議議事録（URL: <http://www.pref.miyagi.jp/site/hukkousien/ikoukaigi.html>）など。

フォーラム「負の文化遺産の保存と展示をめぐって」での講演を依頼された⁷。このフォーラムは東日本大震災で生じた遺構の今後の取り扱いについて議論する場であったが、そこで広島市の事例と合わせて、南三陸町や臼杵市の事例も紹介した。先にも本資料の重要性については述べたが、このフォーラムでの議論も含めて、あらためて本資料を記録・保存する重要性について認識した。そこで、当時、臼杵小学校のPTA会長として活動された塩崎氏に、筆者から資料集としての執筆をお願いし、了承していただいた。

上述した重要性から、今回、関連資料を記録・保存することを本稿の第一義の目的とした。ただし、資料だけでは経緯の把握が困難であることを考え、問題の経緯について塩崎氏に整理していただいた。その中には、行政との細かなやり取りも含まれるが、その詳細を記録することで住民側の不信感がどのようにして生じたのか、実際の行政と住民とのやり取りの実態というものはどのようなものなのか、といった点を伺い知ることができる。

本稿は他の地域のPTA参加者も読者となりうることを想定し、臼杵市の家庭では本件を通してどのような会話や取り組みがなされたのかということも提示している。これはPTA活動ならではということになるが、読者がそれぞれの家庭で参考にできるような材料を提供している。また、本件を通して塩崎氏が学んだ教訓や、前述の問題意識についての主観的な見解も含めて、まとめていただいた。

筆者自身は、第1節の執筆、第2節の塩崎氏の執筆部分の校正、第3節以降に掲載されている膨大な資料の打ち直し作業や校正を担当させていただいた。また本稿は、広島大学平和科学研究センターに草稿を提出する前の2014年5月中旬に、関係者に事前閲覧していただき、貴重なコメントや修正点などを頂いた。その際、一部の事前閲覧先とのやり取りは、全て筆者が担当した。

今後、本資料を参考にしながら、西日本の太平洋沿岸地域の行政や住民にどのような提言ができるかを筆者自身は検討していきたいと考えている。具体的には、南三陸町の志津川小学校と戸倉小学校の事例を調査し、高台にあった志津川小学校と、沿岸部で被災した戸倉小学校において、被災後のレジリエンス

⁷ 国立民族学博物館ホームページ 公開フォーラム「負の文化遺産の保存と展示をめぐって」(URL: <http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/corp/20140118>)

の観点からどのような差が生じたのかという点について調査したい。そうした事例の調査も踏まえて、臼杵市のケースの議論の中で欠けていた観点などを提示し、考察を加えたいと考えている。また新しい観点を提供することができれば、臼杵市だけに限らず、他の地域や国においても、行政と住民が協力して取り組む新たな対策の構築に寄与できるかもしれない。本稿にはそうした社会的意義もある。

次節では、まず問題の経緯について塩崎氏に整理していただき、本件を通して得た教訓や、冒頭に記した問題意識についての塩崎氏の意見などをまとめている。第3節で資料目録を提示し、第4節で議事録、質問状とその回答、アンケート結果、文書といった資料を公開する。

(文責：淵ノ上)

第2節 問題の経緯と主張

1. 臼杵小学校の移転統合問題

臼杵小学校 PTA では、平成 24 年（2012 年）7 月から、校舎の耐震工事時期到来を機に、南海トラフの巨大地震発生に伴う津波対策として、臼杵小学校の高台への移転統合が検討された。これは、同時期に建て替え新築工事を行う高台の福良ヶ丘小学校（以下「福良ヶ丘小」）の件に併せて、臼杵市と臼杵市教育委員会から提案がされたものである。そして約半年後の翌平成 25 年（2013 年）1 月 30 日、移転統合案の撤回という市行政の結論を得て終えた。

このようなことは通常の PTA 活動ではあまり生じない活動だと思われる。単に学校が移転統合するという子どもたちの教育環境の変化だけについて、保護者が検討するものであれば時々ある。しかし、津波対策という自然災害について地域住民としてどのような対応を講じていくかも合わせてのこととなれば、極めて稀なケースであろう。

つまり、今回の一連の出来事を中心は、単なる PTA 活動としてではなく、沿岸部の地域住民として防災対策をどうするかにあった。それも学校、子どもの教育という長期的な視野に立って考えねばならないことを踏まえての行動が要求されるものだった。

そして、こうした一連の取り組みの中で、単に地震や津波に対する防災減災だけを捉えて行動していくのではなく、事前復興とまちづくりの意義を地域住民として考えて行動しなければ、防災・減災・レジリエンス（復元力）構築をハードの面からだけで捉えても、そのハードの効果が十分に発揮されないということである。

今回このような機会を頂き、私たちの経験が記録として残されることに深く感謝申し上げる次第である。

2. 突然の提案

平成 24 年 7 月 23 日、臼杵小学校北校舎耐震工事の件で PTA 会長および副会長、そして PTA 事務局として臼杵小教頭が校長室に集まった。教育委員会からは次長および担当者が出席していた。耐震工事の説明とだけ聞かされていたの

で手ぶらで参加したが、説明が始まって数分後には、移転の話となった。協議の中で移転に関して PTA として保護者として思いつく限りの意見を出した。その場で担当者の方に記録をお願いし、これを議事録として後日、私達にも校正させて頂くようお願いした。それは、今後、その議事録が基となって行政側の議論が展開されると考えたからだ。

そして、後日、記録(資料1 教育委員会からの7月23日の当初議事録、p.21)を拝見したが、やはり、PTA 役員が移転しても良いと考えているように伺える記述があった。PTA 会長名の文書で訂正をお願いした(資料2 当初議事録への校正依頼文書、p.26)が、最初の校正でこちらの意向が反映された記述(資料3 教育委員会から校正された議事録、p.28)にはなりそうもなかったのも、二度目の校正は依頼もしなかった。また、その校正・記述で PTA として良いか否かの返事もなかった。この時点では、まだ私たちからは移転賛成も反対も意思表示をするものでもなかったのは言うまでも無い。

3. 保護者への説明 (その1)

7月に説明を受けたが議事録の校正の件もあり、しばらくは静観していた。8月19日の小学校早朝清掃作業の際に、副会長からいくつかの情報があった。そこで、すぐに福良ヶ丘小 PTA 役員と会うこととした。福良ヶ丘小 PTA 役員と話をしてみると、福良ヶ丘小 PTA では11月中には結論が出るとの認識だった。

7月23日の私たちへの説明でも、設計の都合などを勘案し、12月の議会までには答えが欲しいと言われていた。そこで、8月20日に PTA 評議員会があったので協議した。そして、評議員会の結果、各クラスの代表役員が9月の PTA 学級懇談会の場で各保護者へ説明することとなった。ところが、これだけの問題であるからとのことで、PTA 会長自身が説明することとなり、低中高学年の3回(9月6, 11, 13日)に分けて保護者へ説明(資料4 学級懇談会での PTA 会長説明文、p.33)した。

これは、保護者の皆さんに対して、今回の移転賛否の判断をしてもらおうとすれば、こうした手順を踏み、状況を理解して納得した上で自らの意向を示してもらった必要があった。それは、何らかの結論が出た段階においては、賛否のいずれであったとしても、PTA の組織として協力が求められるからであった。今

回の経験から、説明する側は、組織の全体に対して統一性のある伝達手段をとる必要があると考えている。

また、12月議会に間に合わせるため、学校と協議して11月3日の学校公開日の際にPTA臨時総会を開催し、移転統合の賛否を総会の場で決めることとした。しかし、これ程の問題について臼杵小学校PTAとして結論を出すには、あまりにも短期間だった。

臼杵市ではこれまでに沿岸部の小中学校で統廃合がされており、その子どもたちは臼杵小学校へ通学している。このことから、その統廃合された校区の保護者から、市役所からの説明が欲しいとの意見が出された。これを受けて、予定されている11月3日の臨時総会までに、保護者説明会を開催することとした。

4. 保護者への説明（その2）

11月3日から逆算して10月5日に市を招いてPTA主催の説明会を行うこととした。事前の10月3日にはPTA三役会を開き、会場設営の準備と開会から終了までの録画担当などを決め、教育委員会担当者と協議しながら当日を迎えた。

10月5日の説明会は、宮城県の震災状況の録画上映から始まった。その後、耐震工事の計画や福良ヶ丘小の建て替え工事の件が出されたが、阪神淡路大震災以降の全国的な学校の耐震工事の経過などと併せて、市からは、この津波から子どもの命を守るために高台移転をとの話であった。保護者側から様々な意見も出されたが、PTA会長としては「感情的にただ反対というのではなく、移転しないならしないで覚悟が必要だ」と保護者側に訴えた。

なお、説明会の会場では、これまでの経過説明に併せて、PTA三役が7月に説明があった際に出した意見(資料5 平成24年10月5日PTA主催の説明会でPTAが配布した資料、p.37)などをまとめて配布した。また会長として個人的なものではあるが、同じく資料(資料6 同日説明会会場で配布したPTA会長の意見、p.43)のとおり伝えさせて頂いた。資料5は、三役からの質問意見であるが、三役が既に移転には反対をしているように取れる。しかし、前述のとおり、PTAの組織としての意向ではない。しかし、会場で出される保護者からの意見やその場の雰囲気は、移転反対と思われるものが既に多かったこともあり、PTA会長としては安易に反対を叫ばないように呼びかける意味合いもあった。

臼杵小学校 PTA から案内はしていなかったが西日本新聞の担当記者が来場しており、取材許可を求められたので市が良ければ良いと答えた。その取材記事は翌日掲載された。また、参加者の中には大分合同新聞の記者も居り、こちらも記事となった。

市の説明では、津波被害の悲惨な状況だけが紹介された。しかし、幼稚園や保育園での犠牲者がでなかった取り組みなど、震災が発生しても犠牲者が出なかった事例やそうした防災の取り組みについての紹介はされなかった。そのため、私としては市の提示する内容は、何かの前提があり、そこから筋書きが始まっているように思えてならなかった。それは、市側の説明にあった「登校日の昼間に津波を伴う大震災が発生した際、少なくとも子どもたちの命は守られている状態」（資料 10 質問 (18) (19) に対する市の回答、p.92) というものである。つまり、学校の授業中（子どもたちが学校の監督下）、言い換えれば何かあった時には行政の責任になる時、その間だけでも安全ならば、という前提ではないか、と私には思えたのだ。

説明会の後日、大分合同新聞の記事を見て、このことを初めて知った地元区長会からは、すぐに移転反対の声が上がり、区長会長からも私へ色々な意見が寄せられた。そして、10月12日付けで、説明会に出された意見や質問を47項目にまとめて(資料7 市長宛で提出した47項目、p.45)市長宛で提出し、書面による回答を求めた。なお、こうしたPTA会長としての市行政とのやりとりは、すべてPTA会員に開示しながら進めた。

5. 保護者へのアンケート実施

10月5日の説明会を受けて、11月3日の臨時総会へ向けた動きが始まった。私自身としては、どのようにしてPTAの総意としてまとめていくかが最も重要であった。しかし、まとめるには時間が足りないと判断し、10月12日付けで保護者へアンケートを実施した。

これに並行して以前、市の給食センターを設置する際のPTAでの議論の経過を知る保護者からは、色々な御意見を下さった方もいた。御意見の中には行政は市民の生の声を集約されるのを嫌がるというものもあった。さらには、そうしたアンケートが、直接市民の側で地道に行われて、結果が出されるのを嫌が

るという意味合いのことも伺った。

私達 PTA としては、時間も無い中でいかにして全 PTA 会員に周知し、このことについて真剣に考えてもらうかということが重要だった。その為にはアンケートで PTA 会員の意向を把握する以外に手段が無かった(資料 8 保護者へのアンケート配布文書、p. 59)。

その結果は別添のとおりである(資料 9 アンケート結果、p. 63)。ほとんどが移転反対の主旨の回答であった。また、前述したとおり、沿岸部に在住し、小中学校での統廃合、しかも、その際の行政側から地元住民へのアプローチを経験してきた保護者からは、市行政や教育委員会に対して不信感を持っているという意見が多数見られた。これは、地域の防災を考える上では地域住民と行政の信頼関係が重要であるが、それが良好と言えるか否かを示唆するものでもあった。

また、このアンケート結果についても報道関係各社へ送付させて頂いており、各紙それぞれに記事として紹介して頂いた。なお、市との協議などでは PTA 会長が前面にでるので、アンケート結果の集計については、全て私自身が保護者の意見に目を通して集約した。アンケート原本も全て私が保管している。

これは、私自身が今回の件は市行政側から PTA 組織に対して投げかけられたことを受けた交渉であると位置づけていたからであり、住民の世論を盛り上げるような移転反対運動のようなものとは異なると考えたからでもある。

6. 臼杵小学校移転の行政側の意向

10 月にアンケートを実施してその結果を集約した中で、保護者の一応の意向は把握できた。こうした中で市の関係者とも色々なやりとりを PTA 会長として行った。

そして、平成 24 年 10 月 19 日付け臼教委総第 1019006 号で、先述の 47 項目の質問に対する回答があった(資料 10 市長宛に提出した 47 項目の回答、p. 87)。その回答は 10 月 22 日付けで全 PTA 会員に配布し、市の回答に対する意見を求めた(資料 11 47 項目の市の回答に対する意見、p. 107)。また、市からはこの回答に関しての協議を求められたので、10 月 26 日付けで何について協議するかを明確にするように求めた(資料 12 47 項目について何を協議したいのか市

への質問、p.109)。その上で、10月29日にPTA三役と市の総務部長との協議の場を持つこととした。

その協議の場では、始めに移転ありきではなく、臼杵小学校を取り巻く地域全体の防災の観点からの議論が先であるとの、市行政側の意向が示された。つまり、これまでの3.11以降の津波対策を踏まえて、避難訓練などに対する自治会の意識なども併せて、行政として地域に対して懸念があり、そうした地域の防災を考える上での一つの案が小学校の移転であることが示された。

また、校区内のほとんどが、津波被害が想定される危険な場所と評価されているような情報も得ていた。それならば、単に教育問題として学校移転の賛否を問うのではないのだから、窓口は総務部と教育委員会の二カ所ではなく、防災を担当する総務部一つにしてもらいようをお願いした。

加えて、おおよそその協議内容は伺っていたので、PTAがその地域の防災力を高めるような働きをすれば、お互いの問題解決になるのではないかと考え、10月29日付けでPTA会長の公文ではないが、『臼杵小学校と周辺地域とを併せた観点からの防災についての意見』（資料13 平成25年10月29日付け『臼杵小学校と周辺地域とを併せた観点からの防災についての意見』、p.110)を協議の場で提案し総務部長へ手渡した。

7. 臨時総会での採決延期

10月31日にはPTA三役会、評議員会を開催し、10月29日の協議までの経過や提示した資料について、PTA役員の認識共有を行った。そして、臨時総会の役割を決めて散会した。

この時点においても私自身は、果たしてどうするのが本当に全体のためになるのか悩んでいた。全体というのは、市行政も教育委員会も、子どもたちも地域の住民の皆さんも含めて、皆にとって良い方向に持って行くという意味での全体である。これは、小学校が移転するか否か、どちらになったとしても、将来にわたってはお互いにこの地域に暮らしていくのだから、反対派・賛成派で地域の皆さんを巻き込んでの対立構図となつては、この全体を捉えてのより良い結論は導きにくいと考えた。しかし、PTA単独組織に対する市行政からの投げかけであったことから、最終的なPTAの意向に反する行政の判断がされること

を危惧した。会長としてはそうした考えに立ち、単に小学校だけの問題、単に PTA だけの問題としてではなく、地域の問題としてこれを議論し、現時点での一つの結論としていくことにしなければならない、と考えていた。従って、PTA 内や地域住民の間での賛成反対という関係だけで無く、住民と行政の関係においても同様だと意識していたことは言うまでもない。

要は PTA として移転するか否かを定めるだけのことだが、このまま臨時総会で決を採ることが、その全体のためになるのか。また、今回のことは、仮に移転の有無にかかわらず、その結果の評価、判断の成否は 20 年 30 年後の将来において裁かれる。もしかすると、自分の子どもが「お前の父親が PTA 会長の時にこうしたからだ」と色々と非難されるかもしれない、というような重圧に悩んでいた。一方で、PTA 保護者の中には「会長が暴走している」と言っている人がいるとの情報も入ってきた。

また、市より区長会長に渡された津波対策避難場所台帳に、移転を検討している白杵小学校が掲載(作成者不明、2012 年 8 月 17 日測定の記載有、「津波対策避難場所台帳」台帳番号 41, p. 41)されていた。説明会の際、この点について私から質問したが、該当部分について過誤であるとの説明がなされた。この一連のやり取りから、市も津波対策について明確に整理はできておらず、かつ、部署間で情報が共有されていないのではないかと私には思えた。

つまり、関係している誰しものが、正解を持っているわけではない状況ではないかと感じ取れた。そこで、私は、11 月 2 日に、臨時総会での採決を延期する決断をした。理由は総会の議事録第 3 号議案(資料 14 平成 24 年 11 月 3 日 PTA 臨時総会議事録、p. 114)にも残しているとおりである。臨時総会当日、評議員には緊急の会合を開いて周知した。総会の後、会場の外では「会長が市に丸め込まれた」との声も出たが、決してそうではない。

8. 意見交換会の実施

臨時総会での採決を延期し、早速、PTA と市の意見交換会を行うこととした。PTA 主催か市主催か、PTA 以外の地元住民は参加させるのかというようなことまで事前協議された。PTA 側は、とにかく再度、市全体の防災対策の上からとの主旨を明確にするよう求めた。また、日程が急であったので、仕事の都合の付か

ない保護者のために同じ内容で2回(11月23日および28日)行うことを求めた。3回目は市が主催、4回目は市が主催であったが地元の住民まで参集範囲を広げたと記憶している。

市側は参加人数も多く、記録をとると推測した。こちらは会長が一人で前面に出ていく状況に加えて、主な役員も意見を出すであろうから、記録は録画で行うこととした。4回の意見交換会を終えて、PTA 会員に対しては、意見交換会の参加の有無と、参加者には内容についての感想を求めたが、一様に納得したような感想ではなかった(資料 15 意見交換会終了後のアンケート、p. 119)。中には、やはり無駄だと判ったという意味でやって良かった、という内容のものも見られた。

市長が参加した 12 月 7 日、3 回目の意見交換会で、司会が会を閉じたにも関わらず私は意見を出した。これまで、単に移転するか否かだけでなく、地域の防災の観点から積み重ねてきた議論であった。しかし、市長の最後のあいさつでは、津波は大変だから移転しましょう、という意味合いに受け取れる部分があった。意見交換会では、単に移転するか否かではなく、地域全体として防災を考える必要がある、との内容も出てきてその上で小学校の問題を考えようとしているのにだ。PTA(住民)との議論の積み重ねが、市長に的確に伝わっていないのかと直感したからだ。この場面は、録画記録にも残されている。

9. まちづくりの観点から

市の主催で行う 3 回目の意見交換会の前準備会合で、意見交換会の中で大分大学の小林先生の講演を聞いて欲しいとの要望が市の総務部長からあり了承した。すると、小林先生から、事前に PTA の皆さんと意見交換を行いたいとの話があった。そこで、12 月 5 日、臼杵小学校にて小林先生を迎えての研修会を行った。

そこで、まちづくりの観点からは学校が無くなるのは好ましくないこと、一方で今回の場合高台に移転するのは行政としては当然のオプションであること。防災、特に津波対策についてはハードには限界があることなどを伺った。実のところ、市からの提案による研修だったので、当初は「移転をしないと大変だ」という話でもされるとばかり思っていた。ところが、話の内容は私達も客観的

に受け止められる内容であった。

私からこれまでの経過、特にこちらから求めた質問に対する回答の状況なども話した後、参加者で色々な意見交換を行った。

10. 二度目の臨時総会にて採決

年が明けて、平成 25 年（2013 年）1 月 17 日を臨時総会とした。そして、これまでの経過から、今回の問題を客観的に考えて、かつ、誰が考えても道理の通った考え方で整理できないかと考えた。そこで、移転した場合としなかった場合での危機管理の上から検討した。これは、『臼杵小学校の移転に関して、津波被害に対する危機管理上の一考察』（資料 16 p.141）として PTA 会長名で全 PTA 会員へ配布した。これは、地震と津波がいつ発生するかは誰にも解らないという前提と、親にとっては子どもが一人の時に発生するのが最悪の場面であるとの前提から私自身で検討したものである。

会長としては、これまでの議論の経過から、有事の際にはまずは自助が最重要であり、公助として行政が機能するのは、ほとんどの場合事態発生後しばらくしてからだと考えた。一言で言えば、その瞬間に行政は頼れない、結局は自分自身と家庭、次に年間 20%程度の時間において学校での対応が重要であるということをも PTA 各会員に訴えておきたかったのである。その上で、皆さんが投票してどのような結果になったとしても、それを受け止めなければならないと決意した。

投票の結果は、

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ①臼杵小学校 PTA 会員数（家庭数） | 247 戸 |
| （委任状を含めて、2/3（165 戸）以上の参加で総会が成立） | |
| ②臨時総会に参加をして投票した総数 | 117 票 |
| ③臨時総会会場での結果に従うこととする委任状 | 81 通 |
| 【上記の状況で投票した内訳】 | |
| ④臼杵小学校は、移転しても良い とした数 | 8 票 |
| ⑤臼杵小学校は、移転しなくて良い とした数 | 107 票 |
| ⑥白紙で無効とされた数 | 2 票 |

となった。これについても周囲の方々からは、PTAとして決定したという報告ではなく、投票の結果こうなったという事実の伝達にとどめておき、これを参考にして市が判断をした、そういう決定のされ方でなければいけない、との意見があった。つまり、小学校の移転について、PTAが決めたから移転した・しなかった、では公共施設である小学校の移転問題をPTAが決定したとなる。そうではなくて、PTAの意向を参考にして、移転するか否かを決定したのはあくまで行政側、市長である、とされなければならない、というものである。こうした保護者の意見もあったので、投票用紙の文言は「移転に賛成か反対」ではなく、「移転しても良い、移転しなくて良い」とした。

私達の事例は戦後の復興や東日本大震災、福島原発被害のように、実際に何らかの災害が発生したところからの取り組みではない。地震津波という自然災害を「発生するのが当然だと」PTAとして受けとめて、行政の提示するハード対策をどうするか議論であった。そしてこの議論を活かして、地域住民が意識を高め、かつ、市行政側との信頼関係構築を目指し、将来に向けた対策をPTAが中心となって図ろうとしたのが、私の会長としての考えだった。

そうすると、このソフト面での対策について、単に住民に対する研修会を行ったとか、啓発活動を行った、訓練を何度行った、というような事例だけを集めて、果たして将来のためと言えるだろうか。「住民の側は訓練や研修をやっているから大丈夫、行政側はハード対策をやったから後は何かあっても想定外だ」と、住民と行政が十分にコミュニケーションを図れないまま行うまとまりの無い「まちづくり」では、レジリエンスなど構築できはしない。つまり、防災上の事前復興の考え方も検討する中で出てきたが、資材の備蓄など短期的部分的な取り組みはできるかもしれない。しかし、今回の議論で求められてきた防災に強いまちづくりなど、長期的な視野に立つ必要があるものは、まちを構成する地域住民や行政、学校や場面によっては地元企業なども含めて、それを構成している「人（ひと）」の繋がりが、コミュニケーションの不足が故に脆弱なままでは、いつまで経っても確立できないのではないかと考えさせられた。

11. 協定の締結と今後の対策について

区長会からの提案もあり、市、地元自治会、小学校、PTAで、子どもの命を守

るための取り組みを継続していくための協定を結ぶこととなった。臨時総会の結果は翌18日には市長宛てに送付（市へ持参）（資料17 市長宛1月17日PTA臨時総会結果連絡文書、p.148）はしていたが、市長が正式な判断を表明するまでに、何も協議しないはずは無いと思っていた。するとやはり、総務部長から市長が一度協議したいとの打診を受けたので、平成25年1月24日、PTA三役と市長とで協議することとなった。

こちら、紙切れ一枚の返事だけで終わらせるつもりはなかった。PTAとしての今後の取り組みなどについて、(1)私達の防災対策イメージ、(2)臼杵小学校PTAの防災対策取り組み案、(3)これまでに出示された意見や今後の検討材料となる考え方や意見について（資料18 1月24日付けで市長へ手渡した、PTAの取り組み(1)(2)(3)、p.150）として既にまとめていることを総務部長には伝えておいた。24日の市長との協議の場で、そうした取り組みを行っていく協定を結ばないかと、こちらから提案した。また、この場において『臼杵小学校の移転に関して、津波被害に対する危機管理上の一考察』（資料16 p.141）をPTA会長の公文として市長へ手渡した。

そこで、協定書の文面について検討を重ねたが、市からの文案に対して、「今回検討した限りにおいては」や「現時点において」といった意味合いの文言を入れて欲しいと市へ要請したが、受け入れられなかった。これは、そうした文言を入れないと、未来永劫に渡り、どのように社会情勢が変化しても、臼杵小学校を現在地に存在させるような意味合いになると考えたからである。最終的に協定書の文面は資料19（四者協定書、p.156）のようになった。

20年30年先の将来に対しては、市も地域住民も誰も責任は負えないのだから、当然、現時点での一過性的な意味合いの協議結果であると考えるのが妥当であろう。そうでないと、将来は市も困ることがあるのではないかとまで私は主張した。しかし、市からは、それでは、PTAは何のためにやったのか、移転せずにやっていくという意志表示が薄れるとの趣旨の回答があった。

そこで、「平成25年4月1日から施行される『臼杵市まちづくり基本条例』に基づいて取り組むこととし」との文言を入れるように校正をお願いした。これにより、将来において何かあったとしても、市行政と私達住民（市民）が一緒になって臼杵小学校や地域の防災について議論し、行動できるはずだからであ

る。

先述のとおり、私は PTA 会長という組織のリーダーとして、子どもたちも保護者も、学校も地域住民も、また市行政も含めて、また、白杵のまちづくりも含めて、全体としてどのようにするのが現時点で一番良い結果となるか、それを一貫して考えながら行動したのである。その中では、市行政との対立の構図だけは避けねばならないと思っていたが、そうは思っては頂けなかったのかもしれない。

12. おわりに

私達が立ち向かう相手は、地震や津波といった大自然である。これに対して、このまちに住んでいる以上、その被害からは逃げられない。だからお互いが信頼関係をより強いものとして確立し、協力していかなければならないのであるが、いかがだろうか。今回の PTA としての取り組みは、多くの皆さんの協力を得て、将来に向けた対策を講じる礎の一つにはなれたと確信している。

しかし、どのように考えても防災対策の第一歩は自助からであり、その瞬間、自分の命を守れるか否かは、大人も子どももある意味において平等である。ある市の方に、「これは関わっている人それぞれの死生観によっても対応は変わりますよ」と話したことがある。

家庭内では、「地震津波が来たら身体は一目散に走って逃げなければならない。しかし、心が逃げ腰では駄目だ。そこから恐怖心が生じて身体も動かなくなる。すると、恐怖心から物事を考えるようになり、行動の優先順位を間違えることにもなる。冷静な判断、危機管理が出来なくなってしまう。」との意味合いの話もした。実際に防災の研修会においても、子どもたちに対する防災教育は恐怖心からでは続かない、効果的ではないとも伺った。また、PTA という組織の性格上、「家庭ではこのようなことをやった」といった事例の紹介などは、組織内構成員の意識向上には有効な手段で有ることは、PTA 活動経験者であればそう異論は無いはずである。つまり、こうした現場の意見や住民の意識を拾い上げずに防災対策などを論じるのであれば、それこそ何かの前提、想定を基にした机上の理論でしかないと、私は今回の取り組みを通じて痛感している。

今回、移転をしないという一つの結論に至ったのは、ハード対策を選択しな

かったということでもある。平成 25 年 1 月 17 日の臨時総会の頃だったと思うが、釜石市根浜地区での取り組みを特集した NHK の番組（時論公論『避難を中心に復興を目指す』2013 年 2 月 18 日(月)）を見た。これを見て、私達の選択も防災・減災対策として全くの不適切な判断ではなかったと確認もできた。

今回の実際の取り組みをとおして、いかなる物理的なハードの対策も、結局は人がどのような意識で行動するかにより、その効果は異なる評価を受けるとの考えに至った。であれば、様々な対策はその地に暮らす人の意識、心理的な動機をもとに検討されなければならない。そうでなければ、地域住民として、また子どもの親として最悪な災害が発生したとしても、何の検証もされないまま、将来へ活かされないまま、「想定外だった」で終わってしまうとのリスクは必然的に拡大すると考えられる。

最後に、前段の「はじめに」で提示された「建設的な議論を住民と行うためにはどのような下準備が必要か、住民に対するアプローチはどのように行うべきか、住民はどのようなことを優先事項として考えるのか、最終的な決定の仕方はどのような形が望ましいのか、矢面に立たされる住民側のリーダーが抱える葛藤とはどういうものか」という問題点について整理する。

今回のような広く地域や住民に判断が求められる件を、よりスムーズに合意形成していくためには、特に行政側から提案がされる場合、過去に同様な議論がされていれば、その経過を踏まえて、議論の切り口や投げかける対象者、進め方を決めていく必要があるのではないか。以前、私達の地域では、小中学校の統廃合が実施され、給食センター設置の議論がなされた経験がある。PTA の保護者と市行政、教育委員会とが協議をし、PTA として意思表示を求められたという同じような実体験があった。そうした経験が、今回、活かされたかどうかの検証が必要であろう。

様々な状況で生活をしているという現実問題を考慮して小学校の移転を考える場合と、単に防災の観点から小学校の移転を考えるのでは、移転の意味合いが異なってくる。これを踏まえておかないと、行政施策に対して住民のニーズがマッチしない状況が生まれ、ひいては将来に向けて好ましくない対立の構図となるのではないか。私達の議論では、結果的には行政のハードの提案に対して議論がなされ、地域防災の意識が高まる方向、つまりソフトによる解決を優

先したということでもある。これは、当初は津波対策で小学校を移転するか否かの議論であったが、その実は地域の防災力の向上が目的であったとする市行政側の意向に沿った方向へ進んだことにもなる。あるいは、PTA（住民）側の直接の利害（日々の生活）に関わるどころへ、ダイレクトに投げかけられた問題であったから、PTA（住民）側は、より真剣に考えて議論することができ、今回のような結果となった、という側面もあると考えられる。

前段でも述べたが、今回の私の活動や判断により、将来、自分の子どもや子孫が非難される事態が発生するかもしれないという重圧があった。それでも今回の件を可能な限り地域全体の問題として捉え判断し行動した。

PTA 会長という立場で今回の件に取り組んだが、PTA（住民）の代表としては、問題を単に多数決で解決して良いものかどうか悩んだ。ことは子どもの生命に関わることでもある。特に防災に関しては少数意見を安易には無視出来ない。であれば、少なくとも今回は PTA 組織の構成員、保護者の全体としてどうすることがより良い方向となるのかという観点が、リーダーとしての重要な意識だと考えた。多数決で決めるだけであれば、投票の場を設けるだけでも事足りるかもしれない。しかし、教育環境だけでなく、子どもたちの生命に関わるようなことを、そのような感覚で捉えては将来のためにはならないと考え行動した。

問題解決のプロセスとして、住民の都合であれ行政の都合であれ、総論各論、マクロ的ミクロ的な要因を十分に比較検討し、発生してくる事象の因果関係などをより全体像の上から把握して、次のステップに進めていく必要がある。議論や検証、検討をする上で、何かの前提や想定があればある程、そうした考え方や煩雑と思える問題解決のプロセスは排除されがちとなり、安易な解りやすい回答だけを求めてしまうのは、子どもたちを守るための危機管理の観点からは好ましくないと考えて取り組んだ。だからこそ、様々な行政とのやり取りや組織構成員から出てくる意見、様々な場面での変化などを大きくかつ詳しく捉えて柔軟な対応をして行かねばならないと常に意識し、その詳細な記録を残した。まずは人の生命を守り、その上で将来に向けてまちや国を存続させていくのが復興ならば、地域住民も行政も同じ方向を向いて行かねば結局は互いにとって望ましい結果は得られないのではなかろうか。

（文責 塩崎、 校正 淵ノ上）

第3節 資料目録

資料1	教育委員会からの7月23日の当初議事録	・・・21
資料2	当初議事録への校正依頼文書	・・・26
資料3	教育委員会から校正された議事録	・・・28
資料4	学級懇談会でのPTA会長説明文	・・・33
資料5	平成24年10月5日PTA主催の説明会でPTAが配布した資料	・・・37
資料6	同日説明会会場で配布したPTA会長の意見	・・・43
資料7	市長宛で提出した47項目	・・・45
資料8	保護者へのアンケート配布文書	・・・59
資料9	アンケート結果	・・・63
資料10	市長宛に提出した47項目の回答	・・・87
資料11	47項目の市の回答に対する意見	・・・107
資料12	47項目について何を協議したいのか市への質問	・・・109
資料13	平成25年10月29日付け『臼杵小学校と周辺地域とを併せた観点からの防災についての意見』	・・・110
資料14	平成24年11月3日PTA臨時総会議事録	・・・114
資料15	意見交換会終了後のアンケート	・・・119
資料16	臼杵小学校の移転に関して、津波被害に対する危機管理上の一考察	・・・141
資料17	市長宛1月17日PTA臨時総会結果連絡文書	・・・148
資料18	1月24日付けで市長へ手渡した、PTAの取り組み(1)(2)(3)	・・・150
資料19	四者協定書	・・・156

第4節 資料

資料1 教育委員会からの7月23日の当初議事録

2012-7-30;01:21PM; (FAX 日付)

打合議事録

名称	福良ヶ丘小学校校舎耐震化事業と臼杵小学校の津波対策について 記録者：〇〇
日時	平成24年7月23日(月) 19:00~20:50
場所	臼杵小学校校長室
出席者	臼杵小学校 PTA 塩崎会長、〇△副会長、△△副会長、△□副会長 臼杵小学校 □□教頭 教育委員会 □◇教育次長、〇〇統括課長代理

議事確認事項

項目	内容
挨拶自己紹介	・□◇教育次長兼教育総務課長、〇〇教育総務課総括課長代理
耐震化事業について	□◇教育次長概要説明 ・学校耐震化工事について、耐震指標のIs値の低い建物から耐震工事を行っている。 ・震度6強で倒壊の危険性が高いとされている耐震指標Is値0.3未満の建物については、平成24年度で耐震化工事が完了する。文部科学省基準のIs値0.7未満建物については、平成27年度末までに整備する計画となっている。
	臼杵小学校の耐震化について ・臼杵小の北校舎については、Is値が0.52で平成26年度に耐震化工事を予定している。 ・屋内運動場は平成23年度に施工済みで、校舎は平成3年の建築で耐震基準を満たしている。
	福良ヶ丘小学校の耐震化について

	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の Is 値は 0.3 で最優先で耐震化の対象となっており、建築後 56 年を経過し老朽化が進んでいるので耐震補強ではなく、建て替えを計画している。 ・建替え工事については、平成 26 年度から 27 年度にかけて実施する予定である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、福良ヶ丘小学校校舎の建替えを検討する中で、3.11 の東日本大震災により津波被害の対策として、低地部の臼杵小学校と福良ヶ丘小学校を統合して現福良ヶ丘小学校の場所に建替える案があがっている。 ・この案について、臼杵小 PTA の役員の方々の意見を聞きたいので、今回の場を設けてもらった。 ・個人的な意見でも良いので、お聞かせ願いたい。
質疑・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・福良ヶ丘小学校の海拔はどのくらいか？ →20m を超えている（約 24m） ・福良ヶ丘小と臼杵小が一緒になると面積的にも狭いのでは、 →校舎については、4,5 階になると予想している。 ・通学路が狭い。車の通行には注意が必要となる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年や幼稚園の保護者の意見を聞く必要があると思う。 ・現在の状況だけでなく、2, 30 年の長いスパンで考えるべきである。 ・臼杵小の高台への移転を検討する中で、福良ヶ丘小との統合を考えるべきである。 ・工事年度が 26 年から着工ということは、設計期間を考えると既に予算ありきで進めているのではないか？議会には、この話は出ているのか？議論が必要である。 →（市教）議会へはまだ説明をしていない。福良ヶ丘小の校長には事前に相談をしているが保護者にはしていないので、夏休み中に話をする場を設ける予定である。 ・統合となれば多額の費用がかかると思うが、大きな予算をかけないで出来ることを検討すべきである。 ・祇園洲柳原線の歩道橋撤去については、土木事務所の予算の関係で、そ

	<p>の説明が不十分のまま撤去されてしまった。そういう事にならないように、しっかりと説明してもらいたい。</p>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・高台への移転ならば、第一希望として距離の近い臼杵公園に小学校を建ててもらいたい。 ・福良ヶ丘小は、遠くて通学路も狭く不便である。 ・臼杵小付近では、高齢者が多く、避難情報も伝わりにくい。子ども達が避難すれば、高齢者も気付いて一緒に避難するようになるのではないかと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の耐震化、津波対策だけでなく、臼杵市の防災計画との整合性を取るべきである。 ・保護者の立場からとしては、高い所に移転するのは良いと思う。 ・統廃合の話をする前に複雑になっている福良ヶ丘小の通学路の問題を解決すべきである。
副会長(女性)	<ul style="list-style-type: none"> ・上浦小との統合する時に、校区の見直しの話になったが、市より地価や行政区の問題から出来ないとの回答があった。 ・通学区を行政区で決めるのではなく、距離的に近い学校に通学したいので見直してほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合と併せて校区の見直しをしてほしい。 ・本町は臼杵小校区だが、辻から入った進木医院あたりは二王座なので福良小校区になる。距離的には臼杵小の方が近い。 ・校区外の通学もあるようだが、どのようになっているのか。 →申請された理由によっては、校区外通学を認めている場合がある。 ・下南小を含めて福良ヶ丘と臼杵小の統合を検討したらどうか。西中校区の児童は下南小に行き、東中校区の児童と臼杵小を現福良小に行くようにする等の案はどうか。 →臼杵小と市浜小は考慮していたが、下南小は検討していなかった。下南小を含めて検討してみる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路が長くなるとリスクが多くなる。学校にいる時間帯は、学校の管理下で安全だが、通学時間が長くなると危険な時間が長くなるということ

	になる。
	→ (市教) 福良地区の道路拡張については、平清水地区から要望もあがっている。担当課で狭い区間の部分的な拡幅などを検討している。
副会長	・福良ヶ丘小と下南小で野村の台に新設できないか。必要となる。
副会長	・保育園の保護者の意見が分からない。 ・小学校の事情が分からないので、意見が出てこないのではと思う。 ・小学校に兄弟がいる家庭ならば、意見が出てくるのでは。 ・アンケートなどで意見を聞く方法があると思う。
会長	・福良ヶ丘小の校舎の事を考えると早くしなければならないと思うが、市防災計画の中での学校整備の計画が見えてこない。十分に計画を説明してもらって検討したい。予算ありきの計画では、設計を進められない。
会長	・いづれにしても平成 26 年工事着手となると協議の時間が無い。 ・全体の計画について説明して、意見を求めてもらいたい。
副会長	・7/20 に雷による悪天候で学校から子どものお迎えの連絡があったが、大渋滞が起こった。 ・臼杵小でもその様なことになるのに、福良ヶ丘では道路も狭く大変なことになると思う。
副会長	・臼杵小の運動会では、市役所の駐車場も使わせてもらっている。統合した場合の福良ヶ丘小を考えると、学校行事の駐車場の不足が心配される。 ・運動会だけでなく、PTA などの行事が多くあるので、駐車場の検討も必要である。
副会長	・臼杵小の校舎の勾配屋根を陸屋根にすれば、避難に時間のかかる低学年や車椅子の児童の避難場所となると思う。
副会長	・臼杵小を臼杵公園に移転し、その際防災施設を併設すれば避難所として利用できる。 →臼杵公園は、県指定史跡「臼杵城跡」として文化財指定されている。施設を設置する場合は、県の許可が必要となる。文化財にふさわしくない施設については設置が難しくなっている。
会長	協議の進め方として、

	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会が 8/20（月） 19:00～、1 時間 30 分程度の予定で運動会についての議題で開催される。 ・ 8/20 の評議員会の時に事前に問題提起し、9 月に臨時の評議員会を開催し協議する方法は良いのではないかと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 双方の意見を聞くため、臼杵小と福良ヶ丘小の PTA3 役を対象に合同の説明会を開催してもらいたい。 ・ 自治会への説明は PTA 後にしてもらいたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福良ヶ丘小には、この件について話しをしているのか？ →（市教）夏休み中に予定をしている。
会長	<p>今回の計画に対して個人的な意見として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福良ヶ丘小だけを建て替えをする。・ 校区の見直しをする。・ 臼杵小はそのまま存続する。 <p>以上の案が通りやすいのではないかと思う。</p>
	<p>福良ヶ丘小と統合して後々の問題を残すのは良くない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事（運動会、PTA など）の駐車スペースや狭い通学路の問題。 ・ 津波だけで判断するべきでない。現実的でない。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福良小から、臼杵小と一緒に人数多くなると、児童に目が届かなくなるとの意見もあるのではないかと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の出した意見について、内容の確認の為、記録を見せてもらいたい。 →今月中に学校経由（教頭先生）で提出するので、確認をお願いしたい。
□◇次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盆までに、福良ヶ丘小 PTA 役員に意見を聞くように予定したい。 ・ 今回の話については事前検討の段階なので、外部にはまだ伏せてもらいたい。 ・ 今後の進め方等については、市長部局とも協議し、PTA 会長に連絡させていただく。

注) この打合議事録の原本は F A X 文書であり、塩崎が保管している。本資料はその F A X 文書原本を打ち直したものである。

資料2 当初議事録への校正依頼文書

平成24年8月7日

臼杵市教育委員会 御中

(教育次長気付)

臼杵小学校 PTA 会長 塩崎洋一

平成24年7月23日に、臼杵小学校校長室で、臼杵市教育委員会と臼杵小学校 PTA 三役で協議を行った、臼杵小学校北校舎の耐震補強工事の件についての議事録「福良ヶ丘小学校校舎耐震化事業と臼杵小学校の津波対策について」への意見、訂正要望等について

上記の件について、以下、提示のあった議事録の記載順に揚げます。

(1)

当初、会合の参集の意図は臼杵小学校の北校舎耐震化工事の件であったが、表題では「臼杵小学校の津波対策」となっています。耐震工事と津波対策は、意味合いが異なりますので、訂正して頂きたい。津波対策であるが故に移転するという意味合いに誘導されるように受け取れます。

(2)

冒頭、互いの自己紹介はありませんでした。

(3)

臼杵小 PTA 会長の発言として「臼杵小の高台への移転を検討する中で、福良ヶ丘小との統合を考えるべきである」との記述がありますが、これは、臼杵小の高台への移転を進めるように考えているように受け取れます。これについては、臼杵小の津波対策を最第一に考えるのであれば、臼杵小を高台に移転させるのがまず優先であり、福良ヶ丘小との統合を引き合いに考えての発言ではありません。誤解を生じるので、訂正するか、削除を求めます。

(4)

臼杵小 PTA 会長の意見として「通学路が長くなるとリスクが多くなる。学校にいる時間帯は、学校の管理下で安全だが、通学時間が長くなると危険な時間

が長くなるということになる。」とあり、これに対して「(市教) 福良地区の道路拡張については、平清水地区から要望もあがっている。担当課で狭い区間の部分的な拡張などを検討している」とあります。これは、津波や地震の被害を受けた時に、通学時間が長くなれば、子供達が家庭からも学校からも目の届かない時間が増加し、その為に被害に遭遇するリスクが増加するという意味合いで述べたものです。つまり、臼杵小の津波対策として移転をした場合に、しかも、それが福良ヶ丘へ統合された場合にそうなるということを行った内容です。これに対する市教の回答としては、噛み合ったものになりません。

(5)

臼杵小 PTA 会長の発言として「いずれにしても平成 26 年工事着手となると協議の時間が無い。全体の計画について説明して、意見を求めてもらいたい」とありますが、これは、臼杵小と福良ヶ丘小の統合をして 26 年着手を容認するような意味合いに受け取れます。決して相ではありません。誤解を生じる記述になります。これについては、教育次長の「25 年に実施設計、26 年に着工」という発言があり、そうであるならば、時間が無いという意味です。しかし、これは福良ヶ丘小の耐震対策として、補強工事などではなく、建て替える、ということだけに対することです。建て替える条件に臼杵小との統合があるのか否か、の質問については、そうではない、との回答でしたので、この記述については校正して誤解の無いようにして頂きたい。

(6)

臼杵小 PTA 会長の発言として「今回の計画に対して個人的な意見として、福良ヶ丘小だけを立て替えをする。校区の見直しをする。臼杵小はそのまま存続する。以上の案が通りやすいのではないかと思う。」とありますが、これでは、PTA 会長としては計画に賛同しているように受け取れます。「個人的な意見として」の部分は、会長の発言としては一切ありませんでした。

以上、市教委から 7 月末までとの約束で提示のあった議事録について、あくまで主なものを揚げました。上記(1)～(6)についての訂正や詳細な補足説明などが無いままに、この議事録を元に今後、種々の議論を進めることには、了承できないことを申し添えます。

資料3 教育委員会から校正された議事録

2012-8-16:02:00PM; (FAX 日付)

打合議事録

名称	福良ヶ丘小学校校舎耐震化事業と臼杵小学校の津波対策について 記録者：〇〇
日時	平成 24 年 7 月 23 日 (月) 19:00～20:50
場所	臼杵小学校校長室
出席者	臼杵小学校 PTA 塩崎会長、〇△副会長、△△副会長、△□副会長 臼杵小学校 □□教頭 教育委員会 □◇教育次長、〇〇統括課長代理

議事確認事項

項目	内容
挨拶自己紹介	・□◇教育次長兼教育総務課長
耐震化事業について	□◇教育次長概要説明 ・学校の耐震化工事について、耐震指標の Is 値の低い建物から耐震工事を行っている。 ・震度 6 強で倒壊の危険性が高いとされている耐震指標 Is 値 0.3 未満の建物については、平成 24 年度で耐震化工事が完了する。文部科学省基準の Is 値 0.7 未満建物については、平成 27 年度末までに整備する計画となっている。
	臼杵小学校の耐震化について ・臼杵小の北校舎については、Is 値が 0.52 で平成 26 年度に耐震化工事を予定している。 ・屋内運動場は平成 23 年度に施工済みで、校舎は平成 3 年の建築で耐震基準を満たしている。
	福良ヶ丘小学校の耐震化について ・校舎の Is 値は 0.3 で最優先で耐震化の対象となっており、建築後 56 年を経過し老朽化が進んでいるので耐震補強ではなく、建て替えを計画して

	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建替え工事については、平成 26 年度から 27 年度にかけて実施する予定である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、福良ヶ丘小学校校舎の建替えを検討する中で、3.11 の東日本大震災により津波被害の対策として、低地部の臼杵小学校と福良ヶ丘小学校を統合して現福良ヶ丘小学校の場所に建替える案があがっている。 ・この案について、臼杵小 PTA の役員の方々の意見を聞きたいので、今回の場を設けてもらった。 ・個人的な意見でも良いので、お聞かせ願いたい。
質疑・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・福良小学校の海拔はどのくらいか？ →20m を超えている（約 24m） ・福良ヶ丘小と臼杵小が一緒になると面積的にも狭いのでは、 →校舎については、4,5 階になると予想している。 ・通学路が狭い。車の通行には注意が必要となる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年や幼稚園の保護者の意見を聞く必要があると思う。 ・現在の状況だけでなく、2, 30 年の長いスパンで考えるべきである。 ・臼杵小の津波対策を第一に考えるのであれば、高台に移転させるのがまず優先である。 ・工事年度が 26 年から着工ということは、設計期間を考えると既に予算ありきで進めているのではないか？議会には、この話は出ているのか？議論が必要である。 →（市教）議会へはまだ説明をしていない。福良ヶ丘小の校長には事前に相談をしているが保護者にはしていないので、夏休み中に話をする場を設ける予定である。 ・統合となれば多額の費用がかかると思うが、大きな予算をかけないで出来ることを検討すべきである。 ・祇園洲柳原線の歩道橋撤去については、土木事務所の予算の関係で、その説明が不十分のまま撤去されてしまった。そういう事にならない様に、しっかりと説明してもらいたい。

副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・高台への移転ならば、第一希望として距離の近い臼杵公園に小学校を建ててもらいたい。 ・福良ヶ丘小は、遠くて通学路も狭く不便である。 ・臼杵小付近では、高齢者が多く、避難情報も伝わりにくい。子ども達が避難すれば、高齢者も気付いて一緒に避難するようになるのではないかと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の耐震化、津波対策だけでなく、臼杵市の防災計画との整合性を取るべきである。 ・保護者の立場からとしては、高い所に移転するのは良いと思う。 ・統廃合の話をする前に複雑になっている福良ヶ丘小の通学路の問題を解決すべきである。
副会長（女性）	<ul style="list-style-type: none"> ・上浦小との統合する時に、校区の見直しの話になったが、市より地価や行政区の問題から出来ないと回答があった。 ・通学区を行政区で決めるのではなく、距離的に近い学校に通学したいので見直してほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合と併せて校区の見直しをしてほしい。 ・本町は臼杵小校区だが、辻から入った進木医院あたりは二王座なので福良小校区になる。距離的には臼杵小の方が近い。 ・校区外の通学もあるようだが、どのようになっているのか。 →申請された理由によっては、校区外通学を認めている場合がある。 ・下南小を含めて福良ヶ丘と臼杵小の統合を検討したらどうか。西中校区の児童は下南小に行き、東中校区の児童と臼杵小を現福良ヶ丘小に行くようにする等の案はどうか。 →臼杵小と市浜小は考慮していたが、下南小は検討していなかった。下南小を含めて検討してみる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路が長くなると、子ども達が学校からも家庭からも目が届かない時間が長くなり、その為被害に遭遇するリスクが増加する。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・福良ヶ丘小と下南小で野村の台に新設できないか。必要となる。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の保護者の意見が分からない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の事情が分からないので、意見が出てこないのではと思う。 ・小学校に兄弟がいる家庭ならば、意見が出てくるのでは。 ・アンケートなどで意見を聞く方法があると思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・福良ヶ丘小の校舎のことを考えると早くしなければならないと思うが、市防災計画の中での学校整備の計画が見えてこない。十分に計画を説明してもらって検討したい。予算ありきの計画では、設計を進められない。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・福良ヶ丘小の校舎の建替えの条件に、臼杵小との統合があるのか？ →統合は条件ではない。 ・全体の計画について説明して、意見を求めてもらいたい。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・7/20に雷による悪天候で学校から子供のお迎えの連絡があったが、大渋滞が起こった。 ・臼杵小でもその様なことになるのに、福良ヶ丘では道路も狭く大変なことになると思う。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・臼杵小の運動会では、市役所の駐車場も使わせてもらっている。統合した場合の福良ヶ丘小を考えると、学校行事の駐車場の不足が心配される。 ・運動会だけでなく、PTAなどの行事が多くあるので、駐車場の検討も必要である。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・臼杵小の校舎の勾配屋根を陸屋根にすれば、避難に時間のかかる低学年や車椅子の児童の避難場所となると思う。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・臼杵小を臼杵公園に移転し、その際防災施設を併設すれば避難所として利用できる。 →臼杵公園は、県指定史跡「臼杵城跡」として文化財指定されている。施設を設置する場合は、県の許可が必要となる。文化財にふさわしくない施設については設置が難しくなっている。
会長	<p>協議の進め方として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評議員会が8/20（月）19:00～、1時間30分程度の予定で運動会についての議題で開催される。 ・8/20の評議員会の時に事前に問題提起し、9月に臨時評議員会を開催し協議する方法は良いのではないかと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・双方の意見を聞くため、臼杵小と福良ヶ丘小の PTA3 役を対象に合同の説明会を開催してもらいたい。 ・自治会への説明は PTA 後にしてもらいたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・福良ヶ丘小には、この件について話しをしているのか？ →（市教）夏休み中に予定をしている。
	<p>福良ヶ丘小と統合して後々の問題を残すのは良くない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（運動会、PTA など）の駐車スペースや狭い通学路の問題。 ・津波だけで判断するべきでない。現実的でない。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・福良小から、臼杵小と一緒に人数多くなると、児童に目が届かなくなるとの意見もあるのではないかと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の出した意見について、内容の確認の為、記録を見せてもらいたい。 →今月中に学校経由（教頭先生）で提出するので、確認をお願いしたい。
□◇次長	<ul style="list-style-type: none"> ・盆までに、福良ヶ丘小 PTA 役員に意見を聞くように予定したい。 ・今回の話については事前検討の段階なので、外部にはまだ伏せていてもらいたい。 ・今後の進め方等については、市長部局とも協議し、PTA 会長に連絡させていただく。

注) この打合議事録の原本は F A X 文書であり、塩崎が保管している。本資料はその F A X 文書原本を打ち直したものである。

資料4 学級懇談会でのPTA会長説明文

臼杵小学校北校舎の耐震補強工事などについての説明会

平成24年 9月6・11・13日

臼杵小学校PTA会長 塩崎洋一

PTA会員の皆様におかれましては、平素からPTA活動に御協力頂き、ありがとうございます。

さて、この度、臼杵小学校北校舎の耐震補強工事の件につきまして、先般8月20日のPTA評議員会において、臼杵市教育委員会から説明がありました。

そして、その際に、予算の都合などからいくつかの提案がありましたので、これについて説明させていただきます。

また、後日、あらためて皆さんの意見を集約するために、アンケートも行いたいと思いますので、御協力をお願いします。

そして、この説明会に参加できなかったPTA会員の方も居ますので、教育委員会からの提案につきましては、概略、お手元にお配りしましたとおり、アンケートのお願いする文書に掲載します。

それでは、説明します。まず、お手元のお配りした資料を御覧ください。

臼杵小学校北校舎の耐震補強工事は平成26年度に実施する予定ですが、同じく26年度に、福良ヶ丘小学校の建て替え工事を行う予定です。そこで、以下のとおりの方法が検討されています。

(1)としまして、

福良ヶ丘小学校の建て替え工事に伴い、臼杵小学校と福良ヶ丘小学校を統合して、現在の福良ヶ丘小学校の敷地に新校舎を建設する。この場合、臼杵小学校の北校舎の耐震補強工事は行わない。

(2)としまして、

臼杵小学校は臼杵小学校で北校舎の耐震補強工事を行い、福良ヶ丘小学校は福良ヶ丘小学校で建て替え工事を行う。この場合両校の統合は行わない。

とありますが、概略、以上のような事です。

冒頭にありますように、教育委員会からは、北校舎の耐震補強工事の説明を受けたわけですが、要は、臼杵小学校の北校舎耐震補強工事を行う同じ 26 年度に、福良ヶ丘小学校の工事も行うように予定がされている、ということです。

ところが、福良ヶ丘は、現在の校舎が建築後 55 年を経えており、老朽化のために、建て替えた方が良く、とのこと。そうしますと、25 年度、つまり、来年度にはその設計図を作らなければなりません。そうしますと、その設計図を作る前に、どのような校舎を建てるか、決めなければならない、ということです。そして、その答えを 24 年 11 月には出さなければならないとのこと。

これは、臼杵市全体の小中学校の耐震状況を計算して、一定の基準に到達していないところから順に補強工事をしたり、建て替えていくようになっているからです。その順序が臼杵小学校の場合は、体育館の方が先になったということでもあります。

そこで、昨年 3 月の東日本大震災を受けて、臼杵小学校は津波の被害対策を考えれば、高台に移転するのが望ましい、これは、誰が考えてもそう思いますが、それで、この際、福良ヶ丘小学校と一緒に建て替えて、福良の高台に移転してはどうか、という提案が、(1)です。

そして、小学校の統合をしない場合が、(2)になるということです。

保護者の皆様の中には、これまでに学校の統廃合に関わった方も居るかと思えます。色々な考え方や意見があるかと思えますので、先程申しましたように、アンケートにご回答願えればと思えます。

そこで、PTA 会長として、私自身の考えを述べておきます。先般来、三役会や評議員会で説明を受け、その際に質問をしたことなどを踏まえて、述べさせていただきます。

まず、津波の対策だけを考えれば、高台に移転することが良いということになります。もっと、広く大きく考えれば、そうはいつでもこの 100 年を超える歴史と伝統ある小学校が、地域からは無くなるということです。また、当然、いつ発生するか誰にも解らない津波のことだけを考えると、1 年 365 日、6 年間の子供達の学校生活の場が変化する、ということでもあります。また、わずか数年の内に臼杵小学校に統合された、上浦や深江の皆さんは、また、福良へ引越すことになるわけでもあります。

ところで、臼杵小学校でも昨年は、津波対策の一つとして、臼杵公園に避難するために歩道橋を撤去しないで欲しいという意見が出されたのは御存知かと思います。一方で、聖母幼稚園は現在地に立て替えを行っています。仮に臼杵小学校が移転するとしても、地震や津波が移転する前に来るかもしれませんが、誰にも解りません。

皆さん、テレビなどで御存知のとおり、あれだけの大津波が来ても、一人も被害を出さなかった幼稚園や保育園、小学校がいくらでもありました。一方で言葉に尽くせない状況になったところもあります。これは、助かった子供達については、テレビでも報道されていましたが、どのような環境に居たのかでは無くて、どのような教育を受け、具体的にはどのような訓練やしつけを受けてきたのか、を考えなければいけない、ということでしょう。果たして、高台に移転することが、本当に子供にとって良い選択肢と言えるのか、私たちは将来のために真剣に考えなければならない、と思います。

臼杵市では、子供の教育環境の整備が打ち出されていて、その環境整備の一つに津波対策のための臼杵小学校の高台移転があるのかもしれませんが。私自身が公的に確認したわけではありませんが、果たして、津波に対して安心な高い場所に移れば、環境整備かどうかは、よくよく考えておく必要があります。

具体的には、東中学校に進学すれば、どうなるのでしょうか。小学校時代の6年間が高台であっても東中学校は海の横です。当然、小学校が高台に移転した場合は、小学校時代に津波からの避難訓練を全くしないまま、中学校に行くことにもなります。臼杵の町中に住んでいる子供が、遊びに出ていて、津波が来たらどうでしょう。今現在は、小学校では避難することを習っています、訓練もしています、立てないような地震が来たら臼杵公園に走れ、というようにです。

高台に移転してしまうということは、そういう訓練はしなくなります。また、通学距離が長くなるということは、それだけ、親の目の届かない時間、学校の先生の目の届かない時間は長くなるということでしょう。地震や津波が、子供が学校に居るときに来るのであれば、よいでしょう、想定どおりです。しかし、東日本大震災は、「想定外」のことばかりでした。

こうした防災対策の上からだけではなく、入学式や卒業式、PTA や運動会など、

臼杵小学校の児童や家族が集まると、車や人の出入りなど、福良ヶ丘地域の状況で、現実的にスムーズにできるものなのでしょうか。

本当に色々なことを、よく考えていかなければならないと思うのは、私、会長個人だけなのでしょうか。

最後になりますが、私の考え方はいかにも統廃合、移転には反対であるように受け取れるかもしれませんが、私は、高台に移転することに反対かと問われれば、全くの反対であるとは考えていません。本当に子供達のためを思い、将来のためを思ってきちんと話し合いをして、単に津波対策だけの理由で、行政の都合で早急に物事を進めるのではなく、全体的な視野に立って考えたときに、どのようにすればよいか、と考えている次第です。

極端に言えば、臼杵小学校の子供達や臼杵市の歴史や文化、絶対に断絶してはならない郷土の価値観を思うときに、移転先で臼杵小学校の看板を掲げて、臼杵小学校の校歌を歌えるのであれば、移転しても良いかもしれない、とは思っています。

以上

資料5 平成24年10月5日PTA主催の説明会でPTAが配布した資料

臼杵小学校北校舎耐震工事関連保護者説明会

平成24年10月5日 臼杵小学校PTA会長 塩崎洋一

1. 経過説明

臼杵小学校北校舎耐震工事関連について、これまでの経過は以下のとおりです。

7月23日 市教委からの説明 PTA三役・〇〇教頭先生

8月20日 PTA評議員会にて市教委からの説明

9月6、11、13日 各学年毎に、PTA会長から説明

上記、9月6日の説明をした後「PTA全体を対象にして説明会をして欲しい」との意見がありましたので、本日、この場を設けた次第です。そして、時間的な経過は上記のとおりですがその間に、具体的にはどのようなことがあったかも説明させていただきます。

7月23日のPTA三役への説明会があった際に市教委からは、「まずは、保護者の意見を伺いたい」ということでしたので、三役からも色々な意見や質問を自由に出させて頂きました。そして、市教委の方からその場で回答もありました。そしてその際に「本日の議事録を作成して、私達三役の方にもその議事録の記載内容を確認させてください」とお願いをしました。これは、当初は北校舎の耐震工事についての説明と伺って集まったのですが、それだけではなく、福良ヶ丘小学校の建て替え工事に併せて、津波対策で臼杵小学校の移転の話にもなったので、議事録作成と確認を会長としてお願いしたものです。

その後、7月30日付けFAXで頂いた議事録を三役で見まして、記載内容の校正をPTA会長名の文書で依頼しました。そして8月16日付けのFAXで校正された議事録を頂きました。この2回目の議事録に対しては、校正依頼はさせて頂きませんでしたでしたが、その記述で良いか否かの返事もしませんでした。

続いて、8月20日の評議員会で市教委からの説明会を行いましたでしたが、その場では特に質疑応答は設けませんでした。そして、各学級での説明を評議員さんからしてください、とお願いはしましたが、やはりそれは皆さんが大変だろうと思い、私PTA会長が説明をすることとしました。それで、9月に入り6日以降、7月23日に受けた説明や三役から出された質問や意見を基に、各学年毎に説明

をさせて頂き、本日の会合を行うに至った次第です。

そこで、7月23日の市教委とPTA三役の説明会の際に、三役の方から出した質問や意見について、先日10月3日に再度三役会を開催し、三役も保護者の立場としてまとめさせて頂きました。これは、7月23日の説明会の後に市教委が作成した議事録の記述では、やはり、私達三役の保護者としての意見や気持ちが適切に記載されてなかったり、内容に対する認識の違いがあったからです。本日は、限られた時間での会合にもなるかと思い、箇条書きにして番号も入れております。御参加の保護者の皆様には、この他にも意見や質問があれば、出して頂きたいと考えております。

また、市役所、教育委員会からはお忙しいところお越し頂き、ありがとうございます。ただ今経過説明しましたとおり、本日は保護者の意見を先ずはしっかりと聞いて頂く場として位置づけて開催しました。この記載したものや他にも出される質問や意見に対して、文書で御回答して頂き、次の検討の場に繋げさせて頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

2. PTA三役会からの意見や質問

(1)

要は、臼杵小学校として移転するか否かを決めなければならない、ということですね。

(2)

市教委の話を聞いた印象では、もう移転することが決まっているような印象を受けましたが、予算や方向性はすでに決まっているのではないですか。また、財源として国の補助金などを使うのであれば、統廃合することが条件になっていたりするのではないですか。

(3)

移転しない場合、臼杵小学校は臼杵小学校（以下「臼杵小」）で北校舎の耐震補強工事を平成26年度に行い、福良ヶ丘小学校は福良ヶ丘小学校（以下「福良小」）で建て替え工事を行う、ということですね。7月23日の説明では、それでも良い、と伺いました。

(4)

臼杵小として移転するか否か、いつまでに決めれば良いのですか。7月23日

の三役会の説明では、12月の市の予算編成か25年3月の議会までには、との説明もありました。それとも、もっと時間をかけて良いのでしょうか。

(5)

もしも津波対策で移転する場合、移転先は福良小だけでしょうか。臼杵公園はどうですか。また、臼杵公園に東中も一緒に移転してはどうでしょうか。

(6)

下南小学校と福良小が一緒になっても良いのでは。昔、石仏や障子岩まで津波が来たという話もあるので、下南小学校と福良小の間の高台に建て替えるのもよいのでは。実際、下南小学校と福良小の児童がすれ違いながら登下校しているそうですから、小学校区の見直しも含めて検討してはどうでしょうか。また、中学校区の見直しもしてはどうでしょうか、福良小から東中へは数名しか進学していない状況もありますので。

(7)

現在の福良小の周辺は、手狭であり、色々な学校行事の際には、今の道路状況では相当の混雑が発生するのは明らかだと思います。臼杵小学校のPTA家庭数で学年別授業参観でも70~80台の車が入り込みます。運動会など全体行事ではその数倍になるかだと思います。とても、いつ起こるか解らない津波のことだけで移転するのは、現実的ではないと考えます。

(8)

深江や上浦からのバス通学については、そうした平清水周辺から福良の道路事情の中でどのように考えますか。

(9)

臼杵小はすでに体育館の耐震補強工事を終えましたが、移転した場合はこうした費用は無駄になるのですね。福良小は福良小で立て替えをし、臼杵小は臼杵小で北校舎を耐震補強工事した方が、税金の無駄使いにならないと思います。

(10)

福良小が西中の校区内で、市浜小学校と下南小学校に分ければ良いのでは。その方がさらに経費の節約になるのでは。

(11)

学校の再編統合などは、30年50年の長期で考えなければと思うが、そうした

中で、臼杵小や福良小の児童数の推移をどのように見込んでいるのか。

(12)

小学校など学校施設は、どこの自治体でも防災施設として位置づけられていると思うが、現在の臼杵市の防災計画の中で、臼杵小や福良小は、どのように位置づけられているのか。

(13)

防災拠点として、福良小は高台にある点を活かし、臼杵小は平地にあることを活かして検討してはどうか。津波対策だけを前面に出して臼杵小の移転を検討するのは、防災計画や市財政、地域住民の都合等を考慮した総合的な検討には思えない。

(14)

大分県中部地震のように、内陸を震源とした地震もあるので、津波だけを前提にすることが本当に防災対策と言えるのか。

(15)

聖母幼稚園は現在地に立て替えをしている。東中とのことを考えれば、昨年度に撤去した辻口の歩道橋に代わるものを設置することの方が先ではないか。

(16)

臼杵小北校舎の耐震補強工事を行うのであれば、併せて校舎の屋根を全て平らにして、屋上を避難場所としても使えるようにしてはどうか。現在臼杵小周辺在住の高齢者は、近隣のマンションなどが津波避難場所になっている方も居る。こうした方々も、手狭なマンションよりも小学校の屋上の方が利用しやすいのではないかと。また、小学校に避難してきた場合には目につきやすいので、周囲の人も高齢者を手助けしやすいのではないかと。

(17)

深江や上浦からのバス通学については、登下校道中での避難場所などを決めているのか。

(18)

千年に一度、百数十年に一度の津波を想定して移転しても、子供が学校に居る時に地震が発生して津波が来るという確証はない。子供が学校以外に居る時間の方が遙かに多いが、そうなる親の気持ちとしては、必ずしも「学校が高

台だから安心」とはならない。

(19)

東北の津波では、高台になくとも犠牲者を出さなかった保育園幼稚園小学校はいくらでもありました。この助かった子供達は、施設が高台にあるという環境の問題ではなくて、危機管理を躰けられて訓練されていたから助かった、というのが理由であることはテレビなどでも紹介されました。親の気持ちとしては、自分の子供がどこに居ようとも、地震が来たらどうするか、判断して行動できる子供でなければならない、と考えますが、どうでしょうか。最終的には、学校設備がどこにあるかの問題ではありません。

(20)

小学校が高台にあれば、普通は津波の避難訓練はしないと思いますが、東中が現在地にあるのでは、小学校でそうした訓練経験を持たないまま、進学することになるのではないのでしょうか。それで果たして子供のためだと言えるのでしょうか。

(21)

もしも移転した場合、放課後の児童クラブも移転することになるとと思いますが、健全育成協議会との調整や利用している保護者の利便性など、どうなるのでしょうか。そうした放課後の時間帯に何かあった場合に、保護者が学校に駆けつける環境も変わりますが、どのように考えますか。

(22)

辻周辺の道路整備に伴い、新たな一方通行や信号の状況が変わりました。その為、事件発生時や気象状況の急変などで、学校へ保護者が子供を迎えに行くことになった際、今までに無い渋滞混雑が発生しました。このような状況を思うと、現在の平清水周辺から福良小周辺の道路状況では、そうした緊急時のスムーズな対応ができるとは思えません。

(23)

親として子供の命を守りたいとは思いますが、いつも親が子供の側に居るではありません。学校が高台で津波に被災しなかったとしても、自宅が流されてしまうことはあります。育った風景が一変するでしょう。先日、津波や原発に被災しなかった子供達は、東北のそうした困難を乗り越えた子供達と、今後

は社会に出て競争しなくてはならなくなる、というお話も伺いました。東北の惨状をみると、結局はそうした災害時には、子供の命を守るのは子供自身ではないのか、とも思いました。仮に移転するとして、ならば、移転するまでの2年間に、津波が来ないとの想定をしているのですか。教育環境の整備とは単に施設の整備をいうのですか。そのような考え方は親としては全く安心はできません。

(24)

臼杵小学校では年に数回の津波避難訓練を行っています。こうしたことを子供の時から訓練することは、社会に出てからも役に立つことだと考えますが、その環境を変えることが、子供にとって本当に良いことなのでしょう。登下校時や遊びに出ている時、学校の先生や親の目の届かない時、子供達は自分で判断しなければならないと思いますが、こうした人間的な力を付けることが大切かと思いますが、どのように考えていますか。

(25)

先日の運動会では、小雨が降る中でも、開会式の前から本部席横のテントに、高齢者の方達が座って開会を待たれていました。結局は雨で延期になりましたが、中には自分のお孫さんなどが出てなくても、楽しみにして訪れた方も居るようです。いつ来るか解らない津波を気にして移転してしまっただけでは、地域の方々に対するこうした場も無くなりますが、どう思われますか。そのような方達がわざわざ福良まで運動会を見に来るのでしょうか。一方で子供は地域で育てよう、とも叫ばれています。これは、その地域に根ざした小学校であればこそできることなのかもしれない、と考えますが、いかがでしょうか。

(26)

今子供が低学年に在学中の保護者の方、また、これから小学校に進学する子供が居る保護者の方達の意見を良く聞く必要があるのではないのでしょうか。

(27)

臼杵小が移転せずに北校舎の耐震補強工事を行うか、それともどこかに移転するのか、の判断、意思決定等については、臼杵小のPTA総会で議決しますが、その議決されたことが最も重要な意思決定として位置づけられ、そして最優先に実行されるのですね。

資料6 同日説明会会場で配布したPTA会長の意見

平成24年10月5日

臼杵小学校PTA会長 塩崎洋一

平成24年10月5日開催の臼杵小学校北校舎耐震工事関連保護者説明会において、臼杵小学校PTA会長として、子供の親として、地域住民として、以下のとおり私の考え、思いを述べさせていただきます。

今回の臼杵小学校が津波対策という理由で移転するか否かの判断について、市や市教委としては、津波が押し寄せてくるのは、平日の授業がある時、子供達が学校に居る時間帯であるという想定で、種々の判断、計画を進めていくのでしょうか。

これは、1年365日、1日24時間という時間の中で、子供達が学校に居る間だけでも安全であればよい、というリスク軽減の観点からであれば確かにそのとおりです。

しかしながら、同様の考え方で親の立場からは、学校敷地内に居ない登下校中も含めて、学校が休みの日、親の目の届かないところに子供達がいる時間は、それ以上にあるのですから、親としては私自身、学校だけが高台にあれば安心であるとは、簡単には思えません。納得もいたしておりません。

昨今のマスコミに登場する行政の姿を思うとき、子供達が学校に居るときは、津波に対して安全である。だから、特に行政の責任は問われない。同様に考えて、子供達が学校の外にあるときは何かあっても、市も市教委も行政としては責任を負わない、ということを暗に示しているようにも受け取れるのですが、これは、あくまで私の気持ちであります。

子供には、普段は「困難から逃げるな、立ち向かえ」という意味を込めて話をするのは、気象災害に限らずのことですが、同様に、「海に近い小学校は他にもある、自分たちだけが安全なところにいつも居るようなことでよいと思うか」とも問いかけています。

臼杵市からは、これまでに様々な人材を輩出してきた歴史的な背景もありま

すが、真の人材育成、子供を鍛える教育を考えると、今回の判断は、単に津波の対策だけを取り上げて安易に決断するものではない、と本当に感じております。

以上のように思えば、防災対策や子供に対する教育もさることながら、地域における小学校の多面的な役割、例えば、運動会を楽しみにしている近隣の高齢者の気持ちに応えることなどまで考えれば、私達大人が本当に子供に伝えて、鍛え上げていかねばならないことは何か、と思う次第です。

私の自宅の基礎レベルは、臼杵湾の満潮線から1mほどです。子供とは一緒に臼杵公園のジャングルジムまで走って見ました。「地震があったら、ここに来い、そしてじっと待っていること。必ずお父さんは迎えに来るから」と時々話しております。

他にも思いや考えはありますが、こうした検討の場は今後もあることと思いますので、本日はいくつかの私の一人の親としての思いをお話しすることにしておきます。

以上

資料7 市長宛で提出した47項目

平成24年10月12日

白杵市長 中野五郎 殿

(教育委員会気付)

白杵小学校 PTA 会長 塩崎洋一

白杵小学校北校舎耐震工事に併せて提示された福良ヶ丘への移転問題について

標記の件に関しまして、平成24年10月5日に開催された説明会で市、市教委に対して出された、白杵小学校 PTA からの意見や質問について、別添のとおり送らせて頂きます。ただし、当日配布した資料に、回答が明快になるよう、趣旨内容を変更しないよう校正を加え、当日出された意見や質問と、その後 PTA 三役会や評議員会を開催してまとめさせて頂いたものを併せて添付しております。

以上のようなことから、質問や意見の数が増えており御手数をおかけしますが、全ての項目、(1)～(47)についての見解や反論、良否や可不可などについて、市長名の担当部局の公文書で御回答頂きますよう、お願いいたします。

また、回答の作成の際には、質問や意見の文面は記載せずとも番号を明記して頂ければ構いません。

以上、お忙しい中とは存じますが、白杵小学校内 PTA 事務局宛て、10月19日までに送付頂きますよう、重ねてお願いいたします。

1. PTA 三役会からの意見や質問

(1)

要は、白杵小学校(以下「白杵小」として、移転するか否かを決めなければならない、ということですね。

(2)

当初市教委の話聞いた際に、すでに移転することが決まっているような印

象を受けましたが、予算や方向性はすでに決まっているのではないですか。また、財源として国の補助金などを使うのであれば、統合することが条件になっていたりするのではないですか。

(3)

7月23日の説明では、移転するか否か両方の選択肢があります、と伺いました。臼杵小が移転しない場合、臼杵小は臼杵小で北校舎の耐震補強工事を平成26年度に行い、福良ヶ丘小学校（以下「福良小」）は福良小で建て替え工事を行う、ということですね。

(4)

臼杵小として移転するか否か、いつまでに決めれば良いのですか。7月23日の三役会の説明では、今年12月の市の予算編成時期か25年3月の議会までには、どの説明もありました。それとも、もっと時間をかけて良いのでしょうか。

(5)

もしも津波対策で移転する場合、移転先は福良小だけでしょうか。臼杵公園はどうですか。また、臼杵公園に東中も一緒に移転してはどうでしょうか。

(6)

下南小学校と福良小が一緒になっても良いのでは。昔、石仏や障子岩まで津波が来たという話もあるので、下南小学校と福良小の間の高台に建て替えるのもよいのでは。実際、下南小学校と福良小の児童がすれ違いながら登下校しているそうですから、小学校区の見直しも含めて検討してはどうでしょうか。また、中学校区の見直しもしてはどうでしょうか、福良小から東中へは数名しか進学していない状況もありますので。

(7)

現在の福良小の周辺は、手狭であり、色々な学校行事の際には、今の道路状況では相当の混雑が発生するのは明らかと思います。臼杵小のPTA家庭数で学年別授業参観でも70～80台の車が出入りします。運動会など全体行事ではその数倍になるかと思います。とても、いつ起こるか解らない津波のことだけで移転するのは、現実的ではないと考えますが、これについてどのように考えていますか。

(8)

深江や上浦からのバス通学については、そうした平清水周辺から福良の道路事情の中でどのように考えますか。

(9)

臼杵小はすでに体育館の耐震補強工事を終えましたが、移転した場合はこうした費用は無駄になるのですね。福良小は福良小で立て替えをし、臼杵小は臼杵小で北校舎を耐震補強工事した方が、税金の無駄使いにならないと思いますが、どのように考えますか。

(10)

福良小が西中の校区内で、市浜小学校と下南小学校に分かれば良いのでは。その方がさらに経費の節約になるのではないですか。

(11)

学校の再編統合などは、30年50年の長期で考えなければと思うが、そうした中で、臼杵小や福良小の児童数の推移をどのように見込んでいるのですか。

(12)

小学校など学校施設は、どこの自治体でも防災施設として位置づけられていると思いますが、現在の臼杵市の防災計画の中で、臼杵小や福良小は、どのように位置づけられているのですか。

(13)

防災拠点として、福良小は高台にある点を活かし、臼杵小は平地にあることを活かして検討してはどうですか。津波対策だけを前面に出して臼杵小の移転を検討するのは、防災計画や市財政、地域住民の都合等を考慮した総合的な検討には思えませんが、これについてどのように考えますか。

(14)

大分県中部地震のように、内陸を震源とした地震もあるので、津波だけを前提にすることが本当に防災対策と言えるのですか。

(15)

聖母幼稚園は現在地に立て替えをしています。東中とのかことを考えれば、昨年度に撤去した辻口の歩道橋に代わるものを設置することの方が先ではないでしょうか、どのように考えますか。

(16)

白杵小北校舎の耐震補強工事を行うのであれば、併せて校舎の屋根を全て平らにして、屋上を避難場所としても使えるようにしてはどうですか。現在白杵小周辺在住の高齢者は、近隣のマンションなどが津波避難場所になっている方も居ます。こうした方々も、手狭な個人住居であるマンションよりも、公共施設としての小学校の屋上の方が利用しやすいのではないのでしょうか。また、小学校に避難してきた場合には目につきやすいので、周囲の人も高齢者を手助けしやすいのではないのでしょうか。

(17)

深江や上浦からのバス通学については、登下校道中での避難場所などを決めていますか。

(18)

千年に一度、百数十年に一度の津波を想定して移転しても、子供が学校に居る時に地震が発生して津波が来るという確証はありません。子供が学校以外に居る時間の方が遙かに多いですが、そうになると親の気持ちとしては、必ずしも「学校が高台だから安心」とはならないのですが、どのように考えますか。

(19)

東北の津波では、高台になくとも犠牲者を出さなかった保育園幼稚園小学校はいくらでもありました。この助かった子供達は、施設が高台にあるという環境の問題ではなくて、危機管理を躰けられて訓練されていたから助かった、というのが理由であることはテレビなどでも紹介されました。親の気持ちとしては、自分の子供がどこに居ようとも、地震が来たらどうするか、判断して行動できる子供でなければならない、と考えます。

従って、最終的には、学校設備がどこにあるかの問題ではない、と考えますが、これについてはどのように考えますか。

(20)

小学校が高台にあれば、普通は津波の避難訓練はしないと思いますが、東中が現在地にあるのでは、小学校でそうした訓練経験を持たないまま、進学することになるのではないのでしょうか。それで果たして子供のためだと言えるのでしょうか。どのように考えますか。

(21)

もしも移転した場合、放課後の児童クラブも移転することになるとと思いますが、健全育成協議会との調整や利用している保護者の利便性など、どうなるのでしょうか。そうした放課後の時間帯に何かあった場合に、保護者が学校に駆けつける環境も変わりますが、どのように考えますか。

(22)

辻周辺の道路整備に伴い、新たな一方通行や信号の状況が変わりました。その為、事件発生時や気象状況の急変などで、学校へ保護者が子供を迎えに行くことになった際、今までに無い渋滞混雑が発生しました。このような状況を思うと、現在の平清水周辺から福良小周辺の道路状況では、そうした緊急時のスムーズな対応ができるとは思えません。これについてどのように考えますか。

(23)

親として子供の命を守りたいとは思いますが、いつも親が子供の側に居るではありません。学校が高台で津波に被災しなかったとしても、自宅が流されてしまうことはあります。育った風景が一変するでしょう。先日、津波や原発に被災しなかった子供達は、東北のそうした困難を乗り越えた子供達と、今後は社会に出て競争しなくてはならなくなる、というお話も伺いました。東北の惨状をみると、結局はそうした災害時には、子供の命を守るのは子供自身ではないのか、とも思いました。仮に移転するとして、ならば、移転するまでの2年間に、津波が来ないとの想定をしているのですか。教育環境の整備とは単に施設の整備をいうのですか。そのような考え方では親としては全く安心はできません。このようなことについて、どのように考えていますか。

(24)

臼杵小学校では年に数回の津波避難訓練を行っています。こうしたことを子供の時から訓練することは、社会に出てからも役に立つことだと考えますが、その環境を変えることが、子供にとって本当に良いことなのでしょうか。登下校時や遊びに出ている時、学校の先生や親の目の届かない時、子供達は自分で判断しなければならないと思いますが、こうした人間的な力を付けることが大切かと思いますが、どのように考えていますか。

(25)

先日の運動会では、小雨が降る中でも、開会式の前から本部席横のテントに、高齢者の方達が座って開会を待たれていました。結局は雨で延期になりましたが、中には自分のお孫さんなどが出てなくても、楽しみにして訪れた方も居るようです。いつ来るか解らない津波を気にして移転してしまっただけでは、地域の方々に対するこうした場も無くなりますが、どう思われますか。そのような方達がわざわざ福良まで運動会を見に来るのでしょうか。一方で子供は地域で育てよう、とも叫ばれています。これは、その地域に根ざした小学校であればこそできることなのかもしれない、と考えますが、どう思われますか。

(26)

今子供が低学年に在学中の保護者の方、また、これから小学校に進学する子供が居る保護者の方達の意見を良く聞く必要があるのではないのでしょうか。

(27)

臼杵小が移転せずに北校舎の耐震補強工事を行うか、それともどこかに移転するのか、の判断、意思決定等については、臼杵小のPTA総会で議決しますが、その議決されたことが最も重要な意思決定として位置づけられ、そして最優先に実行される、ということによろしいのですね。

2. 10月5日の説明会会場で保護者から出された意見や質問

※10月8日開催の三役会、10月11日開催のPTA評議員会で整理したもの

(28)

東中学校の耐震工事の計画もあるようですが、東中は移転しないのですか。現在、臼杵小学校に通う子供達は、もし移転すれば、小学校時代は福良に通い、中学校ではこちらに戻ってくる、ということですね。幼稚園も有りますが、これも考えれば、歩道橋が必要なのではないのでしょうか。また、移転して多額のお金を使うよりは、しっかりした歩道橋を作る方が、幼稚園小学校中学校、地域の方々のことまでを含めて、有効ではないのでしょうか。そすると、対策としては、保護者が常々子供を教育し訓練していけば、わざわざ学校自体を高台に移転させることは、必要ないのではないのでしょうか。

(29)

福良の保護者の方とも話しましたが、今現在、車が離合する場所がないと言われました。現状の福良だけでもそうですが、臼杵小が行くと、さらに大変では。道路の拡張など、できないのではないですか。具体的な案がないのでは。そうした道路拡張にまで予算を使うのであれば、その分で、臼杵小学校の対策や歩道橋、臼杵公園に上がるための確実な対策をやって頂いた方が良いのでは。

(30)

臼杵公園に4千人の方が避難するようになると言われていましたが、そうであればなおさらのこと、臼杵小学校を移転せずに、屋上を改築して避難場所として活用した方が、津波対策で地域住民のためにもなりますし、学校もしっかりしたものになるし、どのように考えますか。

(31)

資料の(27)については、どう考えていますか。市役所さんは、こうした場は持たれますが、結局は押し通します。先程から話を聞いていると、移転をするという方向ばかりに話が向かうように、聞こえます。どのように考えていますか。

(32)

私は小中学校のことも考えて城北に家を建てました。臼杵市は海岸線にずいぶんと家がありますが、そうした市民を守ることに、どのように考えていますか。市民を守ることが、結果的に学校での子供も守ることになるのではないのでしょうか。これについてもどのように考えますか。

(33)

もし、臼杵小の意見として、合併はしない、移転はしないと意思決定した場合に、どうなるのですか。(3)のようになるのですか。との意見に対して、副市長さんは、「市の意見も聞いたけども、何かあったときは走って逃げることで良い、このままで良い、と言うのであれば、市はそれに従います、強引にやるつもりはありません」と言われましたが、これは、「臼杵小が移転するか否かの市の最終決定については、臼杵小保護者の意思決定に従う」とのこと、よろしいですか。

(34)

子供が学校に居る間は、市行政や教育委員会も、子供に対してその監督指導の責任があるでしょうが、保護者としては、子供が学校にいるときだけでは無い、1年365日を考えています。

副市長さんの説明で先程、DVDを見ましたが、このような悲惨なDVDを見るのであれば、逆に保育園児を一人も死なせなかった保母さん方の取り組みなども、見せなければならぬのではないですか。

保護者としては、子供がどこに居ても、命を守ることができるかが問題であり、そうなると、これは、教育の問題です。私は、自分の子供と一緒に臼杵公園のジャングルジムまで走って見ました。「地震があつたら、ここに来い、そしてじっと待っていること。必ずお父さんは迎えに来るから」と話しました。その場面を思い浮かべた時に、果たして自分は迎えに来れるのか。母親も父親も流されて、子供だけが臼杵公園に助かっているかもしれない。そういうことも考えての、本当に子供のための教育とは何なのか、です。

ですから、私達保護者は、移転をしないならしない、でも、自分たちが子供を守ることにについて、強い自覚を持たなければなりません。移転せずにやるならばやる、という強い覚悟をもって子供達を鍛えていかねばならない。このような意見について、どのように考えますか。

3. 10月5日の説明会を終えて、10月8日に開催した三役会、10月11日に開催したPTA評議員会でまとめた意見や質問について

(35)

教育長さんは、中国四川省の地震での被害を引き合いに話をされていました。「10万人の犠牲者の内、子供達が2万人とも言われ、これは学校の倒壊による」との趣旨を話されました。しかし、マスコミでも報道されましたが、日本の私達からみれば、あのような手抜き工事とも思えるような建築技術の構築物での被害を容易に引き合いにして、日本でも大変だというような説明では、事例の引用に無理があるのではないですか。ですから、いたずらに、また、意図的に、保護者の危機感を増長しているようにも思われます。こうした海外の事例を受けて国が何かを打ち出すのは、国の立場としてはもっともなことでしょうが、

地方自治体が直接市民に説明するとき、その被害数字だけを引き合いに出すのは、どのような考えがあつてのことなのでしょうか。

(36)

教育長さんは福良小の耐震工事について、23年度から本格的に検討を始めた、と説明されました。そして、その最中に東日本大震災が発生した、と話されましたが、東日本大震災は平成23年3月11日、これは、22年度の出来事になります。臼杵市内小中学校の耐震化計画や実施実績は、10月5日の説明会で示された市の資料を見ますと、四川省大地震が発生した2008年（平成20年）からの推移が示されていました。

それでは、仮に「23年度ではなく23年から、です」と訂正されるのであれば、なぜ、1年以上も経過して24年度に入り、今のような時期になって、しかも当事者である臼杵小の私達に対して表沙汰になってくるのでしょうか。理由を説明してください。

以上から、臼杵小保護者としては、「東日本大震災の後、23年度には、福良小の耐震工事に併せて臼杵小学校の移転は検討されていた」と認識しますが、よろしいですね。

そして、本来であれば、そのような検討を始める時点で、保護者や地域の自治会などに打診すべきではなかったのかと考えますが、いかがですか。

こうした、小学校が移転するか否かという、学校関係者だけでなく地域の自治会や住民の皆さんの意向も考慮しなければならないような事項について、口頭とはいえ、東日本大震災が23年度に発生したというような説明を教育長さんがするようでは、市民感情としては全く市のやり方に対する不信感はぬぐえません。東日本大震災の発生は、臼杵小が津波対策で移転するか否かを提示した、市や市教委の最大の論拠ではないのですか。10月5日の説明会では、まさに津波対策の一点で説明されたようにも受けとめました。

従いまして、この度の臼杵小移転、福良小との統合の問題に関連して、将来の参考にするため、これまで臼杵市が行ってきた一連の学校の統廃合について、どのような形で市教育委員会として統廃合を進めてきたのか、その地元への打診の前後を含めて、深江小や上浦小の事例を明確に説明してください。これについては、現在深江小や上浦小から統合されて臼杵小学校へ通学されてい

る児童の保護者の皆さんが納得する形で説明すると同時に、文書での説明を求めます。説明の機会は別途、設けますが、よろしいですね。

(37)

教育長さんの説明では、今年の4月2日の庁内会議で「福良小は25年度の最優先で建て替えを行うという案と、臼杵小が統合して枠を広げた形で建て替えをする、という案に絞り込みました」という趣旨のものでしたが、これは、前者は福良小の建て替えをいつ行うかということで、後者は臼杵小が移転して福良小と統合して福良小を建て替える、という意味で受け取れます。しかし、今臼杵小に示されているのは、移転せずに現在地で北校舎を耐震工事するのか、福良に移転するのか、どちらにするのか、が示されていると認識しています。市と市教育委員会の方針は、明確にはどのようになっているのですか。

これは、すでに臼杵小の移転は保護者の意向は関係なく決まっている、ということですか。そうした臼杵小と福良小の一連の耐震工事に関しての方針について、何がどのようにいつ決められたのか、どのようなプロセスで決められてきたのか文書で示してください。

7月23日の市教育委員会次長さんが、PTA三役にされた話では「臼杵小が移転するか否か、まだ決まったわけではない、それで、まずは保護者の意見を伺いたい」と言うことでした。実際は、結局は市民の気持ち、ましてや当該校の保護者の気持ちや地域住民の気持ちは関係なく方針が打ち出されて、実行されていくのではないですか。

(38)

副市長さんは「津波のリスクを排除するために、市は何ができるか」と話されましたが、学校に子供が居る昼間のことだけを考えればそうなのかもしれませんが、地域の住民としては、小学校が有った方が、防災の観点からは良いのは明白ではないでしょうか、臼杵公園の海拔高度を考えれば、臼杵小学校の屋上と大差ない場所として、避難先を確保できます。このことをきちんと言わずして「子供の命を守る」ということだけで話を進めるのは、子供の両親祖父母は別、地域住民は別、という考え方になるのですか。

おおよそですが、子供が通学するのは、年間約200日で年間の55%程の日数です、時間では朝の8時から4時までの8時間ほどですから、1日の3分の1、

33%程です。従って子供が学校に居るであろう時間は、1年間の時間数で見れば、18%にしかありません。保護者は、1年間365日8760時間のうちの18%だけが問題なのではなく、365日、どこにあっても、自分の命を自分で守れるかが重要なのです。ですから、本当にお金を使うのであれば、避難経路の確保や、今の校舎を改築するというような、より現実的と思われる意見が出されているのではないのでしょうか。この18%の時間に「津波が発生するかもしれない、それを想定してのリスクの排除だ、これが移転する理由です」と市に示されても、保護者として容易に安心できないのは、当然のことかと思えます。これについて、どのようにお考えですか。

(39)

副市長さんは、「福良小周辺の道路事情が悪く、住宅事情などからみて現実的に拡張などできないのではないか」との質問に対して「私はそうは思わない、もし移転するとなれば、来年度以降、市としては最重要課題の事業になる、大きな一大事業として取り組みますからそういうことも真剣に考えていきます、具体的には今は言えないですが」と言われました。普通車も離合できないような道路状況ですから、臼杵小が移転せずに福良小の規模だけ建て替えるとしても、今時の工事車両の都合など考えれば、大変なことかと思えます。つまり、副市長さんの話では、福良小周辺の道路拡張などは、臼杵小が移転することだけが前提での一大事業であり、福良小のみでの建て替え工事をするのは、考えていないということですか。

現時点で移転するか否かの選択肢を提示された私達としては、「臼杵小が福良へ行かなくても、福良小建て替え工事の都合がありますから、工事車両の関係で道路拡張などは検討しています」とでも回答されるのかと思いました。関連して保護者から「奥歯に物が挟まったような言い方だ」とも意見が出ましたが、実際はどのように考えているのですか。

(40)

上記(39)に関連しますが、現状の福良小周辺は、普通車での離合がままならないような状況です。これは、地域としては特に地震などが発生しなくても、日常生活の中で緊急車両の通行などに不便が生じていることになりませんか。つまり、臼杵小が福良へ移転するか否かに関わらず、市としては何らかの対策

を講じなければならない問題ではないのですか。

そうであるならば、福良小の建て替えに併せて福良地区のそうした問題を解決するのは、なお一層、臼杵小の移転に関係なく実施する必要があるのではないですか。

(41)

コミュニティ防災課長さんは、地域の防災について、施設の建て替えなどについて、「地域のコンセンサスやお金の問題など、大きな課題である」との趣旨を話されました。ところで、臼杵小学校の屋上を整備すれば高さは4階程になりますが、これは臼杵公園の海拔高度に匹敵します。移転する程のコストを要しないと思いますが、この地区で地震や津波の避難場所として有効と思われる小学校を移転させるという計画が、市の防災計画の中でいつどのようにして、地域のコンセンサスを得たというのか、明確に示してください。

(42)

上記(41)に関連して、コミュニティ防災課長に伺います。津波からの避難は迅速が第一と考えるのは、論を待たないと思います。であれば、臼杵小の移転が防災対策の中で子供を津波から守ることだけの理由で行われるのであれば、地域住民の一時避難先として十分に機能しうるものをわざわざ無くし、明らかに地区住民のリスクは高めているとしか思えません。これについて市の防災の観点からどのように考えますか。小学校の屋上は、当然子供の避難先としても機能するのですが、それでも福良に移転というのであれば、子供達は助けるが大人に対して、特に高齢者にはリスクを背負いなさい、とのことですか。

臼杵小がIS値などを考慮して明らかに全面的に建て替えなければならないのであれば、もちろん話は別だと考えますが、そうであれば、住民のコンセンサスも得ずに、わざわざ住民のリスクを高めた上に、移転事業に大きなコストをかけようとする、自語相違のような説明が理解できません。

小学校を移転させない方が地域住民の命を守ることとなり、さらに、子供の命を守ることに繋がりませんか。加えて、365日の内80%に及ぶ、子供が学校の外に居る時間の津波リスクを、大きく軽減させることになりましたが、これについて、考え方を明確にしてください。

(43)

上記(42)に関連して、コミュニティ防災課長さんからは、今回の場合であれば福良小の建て替えに併せて、そうした防災対策の市の考え方、選択肢を示している、そして、さらに検討していきたい、と受け取れる趣旨の話をされました。しかし、私達としては、そうした案や方針が出来上がるまでのプロセスにおいて、なぜ、地域住民や当事者である臼杵小 PTA などの意見が、反映もされずに方針が作られていくのか、不思議でなりません。何らかの方法で行ったのであれば、その経過など、明確にしてください。

(44)

説明の中で、「小学校移転した場合に、その後、中学生については、もしもの場合は走って逃げてください」という趣旨の説明がありました。東中に通う息子に話すと、「俺たちには死ねというのか」と言っておりました。臼杵公園への避難対象者が 4 千人と言われておりましたが、津波が到達するまでの時間を考えれば、今の臼杵公園へのアクセスでは、4 千人の避難は困難が予想されます。やはり、聖母幼稚園をはじめとする児童生徒、臼杵公園北側の地域住民のことを考えても、やはり、歩道橋が必要になるかと思えます。

(45)

聖母幼稚園について、市の管轄ではないからとの趣旨の説明があり、その後、何かあった時は、市の職員が駆けつけるようにしています、との説明でした。津波の発生するような地震では、市役所の中も相当なダメージを受けるかと思えますが、その様な対応が具体的にはどのような仕組みになっているのか、説明してください。また、市の管轄では無いと言われると、本当に市民、子供のことなど考えていないのか、と思いましたが、これについて、どのように考えていますか。

(46)

教育長さんは、(27)に関連して「学校の統廃合は、保護者の総意で決定します」と言われましたが、これは「今回の臼杵小学校が移転するか否かについて、臼杵市としては、臼杵小学校 PTA の総会議決結果に従う」と解釈してよろしいですね。

(47)

白杵小 PTA の意思決定結果については、正式に白杵小学校 PTA として公文書でお伝えしますが、その文書の日付をもって、正式回答の日時としますが、よろしいですか。

以上

資料8 保護者へのアンケート配布文書

平成24年10月12日

臼杵小学校 PTA 会員 各位

臼杵小学校 PTA 会長 塩崎洋一

臼杵小学校の移転問題に関するアンケートについて

PTA 会員の皆様におかれましては、平素から PTA 活動に御協力頂き、ありがとうございます。

さて、この度、臼杵小学校北校舎の耐震補強工事に関連して、臼杵小の福良への移転の計画案について、先般10月5日には、臼杵市、臼杵市教育委員会から1回目の説明も頂いたところです。

それまでの経過については、10月5日の説明会でもお伝えいたしましたが、説明会に参加できなかった保護者におかれましては、臼杵小 PTA の側からどのような意見や質問を出しているか、別添の資料の冒頭にある経過説明を参考にして頂ければと存じます。

また、10月5日の説明会当日に出された意見や質問については、10月8日に三役会を開催し、10月11日には臨時評議員会を開催して、別紙の(28)以降にまとめました。そして市教委へ(1)～(27)の意見質問と併せて、公文書での回答を求めていくこととしております。

以上のような状況ですが、今後の検討の参考にしたいと思いますので、別紙のとおり、アンケートに御協力頂ければ、幸いです。

なお、別途御案内いたしますが、臨時総会を開催する計画です。この臨時総会は、臼杵小学校が移転するか否かについて、臼杵小学校の PTA 保護者の意思統一する場でもありますので、全保護者の参加をお待ちしております。

終わりに、当初は市教育委員会からも「北校舎の耐震工事に関して」というタイトルでの協議でしたので、これまで私達もその様にしてきましたが、今後は「臼杵小学校の移転問題」として明確に位置づけます。これについては、誤解が生じていたというお話も伺いました。ご迷惑をおかけしました。

※アンケートの提出は、10月19日（金）までをお願いします

臼杵小学校の福良への移転に関するアンケートについて

回答日 平成 24 年 10 月 日

1. 子供の学年は (1 年 2 年 3 年 4 年 5 年 6 年)
2 人以上在学の場合は、それぞれの学年に○をしてください

2. 御自宅の住所 臼杵市 () 番地などは不要です

3. 市、市教育委員会からの提案について伺います。

※(1)か(2)を○で囲んでください。

(1) 臼杵小学校の移転には、反対です。

(2) 臼杵小学校は、福良へ移転してもよい。

上記の理由や意見などがあれば、下記にお願いします。

また、上記の回答ではあるが、このようにも考える、というような意見でもかまいません。

4. 別添の市教委に当てた意見や質問について、関心のある番号を記入してください。

いくつでも構いません。その理由など記入して頂いても良いです。

臼杵小学校北校舎耐震工事に併せて市から提示された福良ヶ丘への移転問題について

平成 24 年 7 月 23 日から 10 月 11 日までの経過について

1. 経過説明

臼杵小学校北校舎耐震工事関連について、これまでの経過は以下のとおりです。

7 月 23 日 市教委からの説明 PTA 三役・□□教頭先生

8 月 20 日 PTA 評議員会にて市教委からの説明

9 月 6、11、13 日 各学年毎に、PTA 会長から説明

上記、9 月 6 日の説明をした後「PTA 全体を対象にして説明会をして欲しい」との意見がありましたので、本日、この場を設けた次第です。そして、時間的な経過は上記のとおりですがその間に、具体的にはどのようなことがあったかも説明させていただきます。

7 月 23 日の PTA 三役への説明会があった際に市教委からは、「まずは、保護者の意見を伺いたい」ということでしたので、三役からも色々な意見や質問を自由に出させて頂きました。そして、市教委の方からその場で回答もありました。そしてその際に「本日の議事録を作成して、私達三役の方にもその議事録の記載内容を確認させてください」とお願いをしました。これは、当初は北校舎の耐震工事についての説明と伺って集まったのですが、それだけではなく、福良ヶ丘小学校の建て替え工事に併せて、津波対策で臼杵小学校の移転の話にもなったので、議事録作成と確認を会長としてお願いしたものです。

その後、7 月 30 日付け FAX で頂いた議事録を三役で見まして、記載内容の校正を PTA 会長名の文書で依頼しました。そして 8 月 16 日付けの FAX で校正された議事録を頂きました。この 2 回目の議事録に対しては、校正依頼はさせて頂きませんでしたでしたが、その記述で良いか否かの返事もしませんでした。

続いて、8 月 20 日の評議員会で市教委からの説明会を行いました。その場では特に質疑応答は設けませんでした。そして、各学級での説明を評議員さんからしてください、とお願いはしましたが、やはりそれは皆さんが大変だろうと思い、私 PTA 会長が説明をすることとしました。それで、9 月に入り 6 日以降、7 月 23 日に受けた説明や三役から出された質問や意見を基に、各学年毎に説明

をさせて頂き、本日の会合を行うに至った次第です。

そこで、7月23日の市教委とPTA三役の説明会の際に、三役の方から出した質問や意見について、先日10月3日に再度三役会を開催し、三役も保護者の立場としてまとめさせて頂きました。これは、7月23日の説明会の後に市教委が作成した議事録の記述では、やはり、私達三役の保護者としての意見や気持ちが適切に記載されてなかったり、内容に対する認識の違いがあったからです。本日は、限られた時間での会合にもなるかと思い、箇条書きにして番号も入れております。御参加の保護者の皆様には、この他にも意見や質問があれば、出して頂きたいと考えております。

また、市役所、教育委員会からはお忙しいところお越し頂き、ありがとうございます。ただ今経過説明しましたとおり、本日は保護者の意見を先ずはしっかりと聞いて頂く場として位置づけて開催しました。この記載したものや他にも出される質問や意見に対して、文書で御回答して頂き、次の検討の場に繋げさせて頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上のような経過説明を、10月5日の説明会冒頭に行いました。そして、説明会においては、意見や質問の(1)～(27)を読み上げました。

説明会を終えて、10月8日に三役会を開き、11日に評議員会を開催して、(28)～(47)について、役員で合意し、市役所へPTA会長名で12日に送付しました。

そこで今回、アンケート実施に当たって、PTAとしてどのようなことを市や市教委へ投げかけているのかを参考にして頂きたく、次のとおり、お知らせする次第です。

(これに資料7を添付して配布)

資料9 アンケート結果

資料(2)

臼杵小学校北校舎耐震工事に併せて臼杵市から提案された
福良ヶ丘への移転について

平成24年10月12日～19日に行った、
臼杵小学校全家庭対象のアンケート結果について

(1) 結果概要

(2) 集計①：移転の賛否について

集計②：PTAから市に宛てた意見や質問について、賛同するもの

(3) 寄せられた意見など

※分類については、PTA評議員会を開催して検討した

(1) 結果概要

【 集計① について 】

■10月5日にPTA主催で開催した説明会において、PTA会員247名に対して70名程の参加で、この問題に対する保護者の認識が薄いのではないかという声が聞かれたが、アンケートの回収状況や寄せられた意見を見る限り、保護者の皆さんは、非常に興味を持っていると思われた。

■結果として、「移転してもよい」「どちらでもよい」「移転には反対」のそれぞれの意見が寄せられたが、その意見についてA～Eの5つに分類した。意見の記述が長文であったので、それぞれの回答文の中に、どのような趣旨の意見が述べられているかを仕分けし、その意見を延べ数で整理した。

■そうした中で注意しなければならないと思われたのは、例えば分類Aにおいては、「通学路の安全確保」については、特に道路の状況をいうものが多いのだが、福良小周辺をいうものがあれば、そこに行くまでの市街地の状況を指すものもある。あるいは、「登下校中の安全確保」について、交通安全の意味にとれ

るものもあれば、登下校中の津波被害に対するものと解釈できる回答もあった。

■分類Bでは、保護者としての防災対策についての意見である一方、地域住民としての考えや、臼杵市民としての意見と受け取れるものもあった。

■分類Cでは、保護者として子供に対する防災教育を強化するといった、直接子供に対する意見や、中学校区の見直し提案までを考慮してのものなど、防災教育の内容的なものから市としての体制に対するものなどがあつた。

■分類Dについては、これまでの学校の統廃合に対する取り組みなど、行われた結果そのものに対する意見よりも、そうしたことを行政が行う際のプロセスや、行政組織としての意思決定過程の不透明感に対するものが多いと思われた。また、この分類ではやはり、保護者というよりも市民としての意見、という傾向が強いようにも思われた。

■分類Eは、A～Dに属さないと思われる意見を集約した。保護者や親としてのライフプランに関わるものや、臼杵小の卒業生としての感情的な訴え、あるいは、地域住民としてのものなどである。中には「小学校が移転するならば、これ以上は子供は産まない」というような切実な訴えもあった。

■「移転してもよい」「どちらでもよい」の回答者においては、分類のB、Cにあたる意見が、少ないようにも思われた。

【 集計② について 】

■10月12日付けでPTAから臼杵市へ宛てた意見や質問について、賛同するものを複数回答可として集約した。これにより、今回の問題に対する、PTA会員の皆さんの認識をより高めることができたと思われた。

■移転の賛否を問わず、共通するものもあったが、やはり、移転反対の回答者から、より多くの選択がされていたように思われる。それだけ今回の問題に対して強く意識を持たれていると思われた。

集計①

臼杵小学校の福良への移転に関するアンケート

24年10月12日配布

配布数（P家庭）	247	回収率
回収	233	94.3%
回収の内、無回答	2	
有効回答数	231	

有効回答数	231	有効回答数比率	配布数比率
移転に反対	205	88.7%	83.0%
うち意見要望など記述無し	33		
移転しても良い	20	8.7%	8.1%
うち意見要望など記述無し	4		
どちらでも良い	6	2.6%	2.4%
うち意見要望など記述無し	1		

分類A	福良周辺やそこまでの道路事情が悪いといった通学路の件や、登下校時間が長くなるなどの、通学環境に関するもの
分類B	臼杵小だけでなく、周辺地域も含めた、津波だけに限らず、防災に関するもの
分類C	校区見直しや統廃合、防災教育なども含めた、子供に対する教育環境や教育内容に関するもの
分類D	これまでの学校の統廃合などを踏まえての、事業推進のあり方や予算について、市に対して抱いている感情論や要望に関するもの
分類E	地域住民として、臼杵小OBとしての気持ちや、子供をもつ親としてのライフプラン、子供のメンタル面などに関するものや、その他A～Dに入らないもの

「移転反対」の意見

回答数		205		
意見記入内容数		449	左記率	
分類	A	88	19.6%	
	B	151	33.6%	B+C= 45.2%
	C	52	11.6%	
	D	104	23.2%	
	E	54	12.0%	

「移転しても良い」の意見

回答数		20		
意見記入内容数		34	左記率	
分類	A	6	17.6%	
	B	12	35.3%	
	C	6	17.6%	
	D	1	2.9%	
	E	9	26.5%	

「どちらでも良い」の意見

回答数		6		
意見記入内容数		17	左記率	
分類	A	3	17.6%	
	B	6	35.3%	
	C	0	0.0%	
	D	5	29.4%	
	E	3	17.6%	

「移転反対」の回答者の意見

	分類	内容	件数	アンケート用紙番号
1	A	上浦、深江の児童について、バスやタクシーの発着はどうするのか	1	33
2	A	福良の道路事情では厳しい、これが解決しない限りは移転は考えられない	24	33,34,36,40,42,43,49,51,52,59,60,66,67,75,79,91,95,96,99,144,148,152,162, 226
3	A	福良では駐車場ができるのか、敷地が手狭？PTAにも行かなくなる	7	34,65,66,80,83,91,99
4	A	通学路が延びて危険は増加する	6	111,134,155,168,171,177
5	A	福良の道が狭隘、遠くなる、行事の際の駐車場や、緊急時にはどうするのか	15	112,113,114,115,122,125,133,135,155,156,160,161,165,172,228
6	A	福良では、周辺状況から、緊急時には保護者の対応も大変になる。	2	121,160
7	A	通学路は福良周辺部だけでなく危険箇所はある	4	123,132,226,230
8	A	福良になると、通学が長くなり大変な地区が出てくる	17	28,42,47,58,60,81,115,117,123,125,133,153,160,166,169,172,227
9	A	福良で遠くなると、朝が早くなる、今より早くなるのは困る	1	34
10	A	深江からは移転するとなおさら通学時間が長くなり、子供の負担は増加する、今の場所で対策を考えた方が良い	2	35,52
11	A	登下校の安全確保の方が心配だ	5	71,79,90,104,163
12	A	移転すると子供は適応していくかもしれないが、親は不便になる	1	83
13	A	津波よりも移転後の事故などの方が心配	1	92

14	A	登下校時のリスクが考えられていない現在の提案には反対	1	107
15	A	登下校が心配	1	232
16	B	市として市民のことを考えているなら、文化財だからというだけで否定せずに、臼杵公園をきちんと整備してはどうか	1	30
17	B	地区住民のことを考えれば、臼杵小学校の校舎が祇園地区の避難場所として整備された方が良いのでは、むしろ移転のメリットは少ない	21	30,50,51,56,69,74,75,79,86,88,100,111,137,139,152,162,168,175,181,227,231
18	B	子供と地域の安全が第一、併せて考えて欲しい	3	32,125,179
19	B	深江上浦からは登下校中は高波に遭う、今でも道路整備されていない	1	37
20	B	臼杵小周辺地区の防災が気になります	2	40,144
21	B	避難場所としての臼杵公園があるではないか	1	92
22	B	耐震工事と同時に屋上を改修して避難場所に	1	110
23	B	現在の校舎を4階建てにできないか、地域住民のためにもなる	2	112,225
24	B	歩道橋の撤去は、避難経路を無くしている、設置して欲しい	4	128,150,159,225
25	B	東日本大震災では、信号が機能しなかった。臼杵でも同じ事が言える。東中の生徒は5分で行けたと言うが、あくまでも訓練だ。実際に発生してパニックになっている時、どうか。同じく聖母幼稚園も、その状態で見ず知らぬ大人が来てもパニックだ	1	130

		ろう。子供のことを考えているふりをするな。確実な避難路の確保をすべきだ。		
26	B	臼杵公園への移転なら、福良校区にも賛成者はいる、臼杵公園での避難施設としても使える	1	226
27	B	津波以外の避難場所が無くなると困る	1	228
28	B	津波や災害のことを考えれば、現在地の方が防災意識は高まる	1	28
29	B	津波がいつ来るというのか	8	45,107,116,117,124,129,156,157
30	B	臼杵公園に移転するのが良い、東中も一緒にどうか	6	47,75,82,101,125,226
31	B	現状校区内の高台に移転は賛成、地域の防災拠点としても有効だ	1	53
32	B	高台は高台で色々な災害もあるのでは	1	61
33	B	学校が移転しても自宅は海の側だ、何も変わらない気がする	2	89,127
34	B	東北の震災でもきちんと訓練して助かっている。もっと市民全体のことを考えて欲しい	1	128
35	B	学校周辺の地域住民も一緒に、夜間避難訓練などしましょう	1	167
36	B	臼杵小保護者だけでなく、地域住民も含めた問題	1	170
37	B	総合的に最適な防災システムが構築されるよう、考えていきたい	1	178
38	B	東中、聖母幼稚園はそのままなのに、小学校だけを移転させるのか	6	34,36,45,109,144,157
39	B	東中は移転しないというのが理解できな	5	38,45,64,65,228

		い		
40	B	移転して遠くなると、親の目、先生の目が届かない時間が増える	3	39,55,155
41	B	子供の命のことを考えている市教委の気持ちも解るが、東中、聖母幼稚園のことも考えると、現状のまま、歩道橋も含めて臼杵公園への避難をスムーズに行う最善策を	11	41,47,52,56,59,67,77,78,86,123,225
42	B	津波対策について、避難訓練をするなど、子供達を鍛えた方が良い	10	42,106,107,116,137,139,140 150,158,181
43	B	子供の安全を親が真剣に議論するときだ	1	46
44	B	移転することが津波対策、防災対策、とは考えていない	4	48,68,76,176
45	B	登下校中に津波に遭うこともある、学校以外で被災の可能性の方が大きい	4	51,68,75,177
46	B	東日本大震災の後、臼杵小、東中に通わせるのは不安があるが、学校は地域の中心にあるべきだ。3・11があったからこそ、臼杵小を残していくべき	2	53,86
47	B	高台にあれば安心ではあるが、移転は無理だ	2	55,128
48	B	津波対策だけが防災対策とは思えない	2	60,97
49	B	小学校は移転しても中学は東中だ、先のことを考えているのか	8	63,75,102,104,111,132,156,165
50	B	大人や社会の都合ではなく、どうすれば子供にとって最善なのか。移転せずに対策を考える方が、現時点では適切なようだ	2	73,77
51	B	福良は不審者事件など起きていて、物騒だ	3	96,133,160
52	B	移転しないとすれば、子供の命は自分たち	2	100,124

		で守るという覚悟だ		
53	B	登下校中に大地震が来たらどうするか、と子供に聞いたが答えられなかった。親はこれが一番気になる。学校でも対策を	2	107,116
54	B	高台に移転したからといって安心ではない、高台移転だけの安易な提案には反対	1	120
55	B	校区が広がると、放課後の子供の把握が困難になる	1	126
56	B	子供と一緒に避難訓練をします	1	136
57	B	小学校だけの問題では無い。あれだけの津波が来たら、家も職場も駄目だ。福良に移転しても絶対的な安心は無い。	1	141
58	B	移転しなければ臼杵公園が避難場所で、親がすぐに行けなくても誰か知り合いもいる。実家も離れている。	1	145
59	B	災害発生後のメンタル面も考えて欲しい。ただ避難できれば良いというものではない、小学校だけ移転しても命は守れない	1	145
60	B	100年に1度来るか来ないかの津波を心配して、日常生活が不便になるよりも、訓練をしっかりやった方が良い	2	158,159
61	B	移転した場合に、登下校中や遊びに出かけている場合、臼杵公園への避難も考えなければならなくなる。移転のメリットは少ない	1	227
62	B	保護者としては移転したからと言って安心では無い	1	227
63	B	移転以外に津波対策があるのでは	1	38
64	B	天災は津波だけでは無い、あまりにも津波	1	57

		を強調しすぎている		
65	B	福良小を学校機能以外の用途も含めて建て替えた方が良いのでは	1	57
66	B	1年間の時間の18%だけが安全でも、どれだけ安全というのか判らない	2	109,225
67	B	海辺小学校、東中、豊洋中はどうなのか	1	152
68	B	中学生は走れ、という時点で生命第1ではない、高齢者のことも考えて	1	161
69	B	親は、学校にいるから安心、ではない。役所仕事でやらないで欲しい	1	181
70	B	臼杵市が沿岸部の街で、これ自体のことを考えれば、臼杵小だけを移転させるのはナンセンス、東中も移転なら、まだ解る	1	225
71	B	昼間だけでも安全、と考えると迷う選択だ	1	46
72	B	沿岸部に住む住民の安全と小学校の耐震は別にした方が良い	1	63
73	B	津波からの避難の現実を考えれば、移転もありか	1	114
74	C	臼杵小が無くなると、祇園地区の活性化にならない、子供は地域で育てるべきだ	5	28,75,106,111,120
75	C	福良に統合すると、小学校1に対して中学は2になる。これは無いと話していたが、どう考えるか	1	29
76	C	学校の移転統合が、津波対策の理由のみでされるのはいかがか、子供の毎日のことを考えれば、移転は反対だ	7	30,54,58,84,93,126,134
77	C	移転統合すると、子供に良くない、なじむのに1年かかる子供もいる	1	31
78	C	福良は建て替えるよりも、東中学校区の見	3	41,78,167

		直しも含めて、市浜小や臼杵小に振り分けた方が良いのでは、東中も生徒数が減っている。そして建て替え予算を避難路の整備に充てた方が良いのでは		
79	C	津波が来たら自分の命を自分でいかに守るか、日頃の訓練の方が大切	14	52,56,72,75,80,85,86,87,103 111,120,127,146,165
80	C	十分な児童数があるのに、小さい学校と統合するのか	1	53
81	C	臼杵小、福良小の児童数が5～10年で激減するとでもいうのなら、統合もありうる	1	54
82	C	津波以外の色々な天災から身を守る教育が大事	1	57
83	C	福良小の子供達が臼杵小や市浜小に分かれて、一緒に津波対策などを訓練した方が良いのでは、移転すれば津波は関係ないと思うことの方が怖い	1	57
84	C	これまでは「適正規模」を連呼していたのに、今回は耐震工事と建て替え時期が同じだから、というのは理解に苦しむ	1	71
85	C	児童数300人の学校が、元分校に行くのか、福良が臼杵に来るべき	5	80,125,143,146,169
86	C	児童クラブはどうなるのか	2	81,83
87	C	いじめなど起きないか	1	125
88	C	近くに学校が無くなると、放課後の時間が有意義で無くなる	1	126
89	C	臼杵小、福良小だけでなく、東中も一緒に考えるべき。合併して小中一貫にしてはどうか	2	138,229
90	C	小学校は児童が歩いて通える場所にある	1	139

		べき		
91	C	少子化を考えれば、福良を建て替えるのは無駄	1	162
92	C	福良小校区が中学校区では分かれている。統一した方が良い	1	226
93	C	支援員が必要な子供には、移転しても支援員がつくのか	1	228
94	C	福良は西中校区がほとんど、市浜と下南に分かれた方が予算も含めて妥当	1	230
95	D	深江の時は生徒数も少なく、統合に賛成したが、臼杵小はそれは無い	1	28
96	D	保護者の子供を思う気持ちを利用して、いるような気持ちになった	1	71
97	D	10月5日の説明会では、市はあくまでも保護者の意見に従うと言っていたが、深江の時もその様に話していた	1	28
98	D	一度は統廃合を経験したが、市の話は、もう決まっていることを納得させる方向で話し合っているようだ	2	29,63
99	D	10月6日にはテレビや新聞に報道されたが、もう移転するような、しかも詳しい報道だった、市教委の考えが解らない	5	29, 93,137,140,149
100	D	市役所は話は聞くが、こちらの言い分は取り入れてくれない様に思える	1	31
101	D	また移転するのは考えられない、計画や設計など理想論ばかりで答えを出さないで欲しい	2	32,181
102	D	教育長、市の職員は、本当に現状を把握しているのか、上浦の時もそうだった	1	39

103	D	歩道橋の時でさえ十分な話し合いの時間があつたが、今回は性急だ	5	40,61,121,137,161
104	D	文書回答を迅速にして、正直に実情を伝えないことには、話し合いは進まない	1	40
105	D	本当に PTA で決定したことに従って欲しい	1	42
106	D	今回の提案は、これまで地域住民をまじえて検討してきた、というよりも、耐震工事にかこつけた、統合ではないか、市の施策や方針ならば、なぜもっと早い時期に保護者や地域住民の理解や同意を得るような方法でないのか	4	44,61,62,176
107	D	体育館は耐震工事をしたのに、なぜ移転か、そのお金は何だったのか	6	45, 58,121,122,132,157
108	D	市役所の移転の方が先ではないか	2	45,88
109	D	白杵小の移転は決まっているのでは	9	45,75,102,129,140,143,157,167,225
110	D	予算面（教育予算削減）からだけの統合検討は止めて欲しい	3	53,142,182
111	D	市の予算の都合上、津波対策で帳尻あわせの話を聞かされているようだ	1	63
112	D	津波対策という以外に移転する理由が無い	4	67,142,147,168
113	D	移転しない前提で考えられないのか	3	70,129,146
114	D	反対意見がこれだけあるのに、市役所は移転をいうのか、子供を含めて市民全体のための市役所ではないのか	1	70
115	D	福良の道路拡張の予算を白杵小の耐震工事にした方が良い	1	80

116	D	説明会であったが、具体的に言えないことを副市長は進めているのか	1	80
117	D	市内の他の沿岸部の学校はどうなるのか	1	84
118	D	何故、と、あきれている	1	94
119	D	福良小だけを建て替えるのは、児童数が少なくてやりにくいから、議員も一緒になって、話を作っているのでは、という噂もある	1	96
120	D	福良の建て替えが無ければ臼杵の移転案も出なかった。臼杵が移転しない場合、福良のあり方を再検討すべき。耐震基準での建て替えは解るが、児童数などを考えると、本当に福良は必要か。中学校の配置から見ても、市浜と臼杵がある。高台にこだわるなら市浜がある。	1	105
121	D	市は保護者の意見を無視するな、あんな不便なところに行くなら、いちいち迎えにもPTAにも行かない	2	108,113
122	D	問題がたくさんあるのに、一つ一つ解決できないままの移転には絶対反対	1	110
123	D	何が一番、子供や地域住民にとって優先すべき事か、考えて欲しい	1	110
124	D	副市長は福良の道路を拡張すると言っていたが信じられない	2	115,133
125	D	10月5日は説明会ではなく報告会ではないか。内容も保護者や地域住民の気持ちを踏みにじるのか	1	120
126	D	教育長の説明には不信感、防災課長の説明には不安、副市長の説明では、すでに工事	2	120,140

		業者も決まっているのではないかとさえ 思います。		
127	D	市民の意見を聞かずして市の将来はない	1	120
128	D	このような問題を数ヶ月で結論を出せと いうのか	1	121
129	D	福良周辺の道路整備の予算を臼杵小の整 備などに回した方が良い	2	123,133
130	D	10月5日の説明会に参加したが、市役所 は本当に市民のことを考えていない、と思 った。防災をいうのであれば、住民と切り 離しては考えられない。常に重要課題は、 津波が来たときに市民を守ることではな いのか。移転と防災と切り離して考えるか ら税金の無駄遣いになる。	1	130
131	D	歩道橋は結局撤去された、矛盾している。 今回はどうなのか、県や市に不満や怒りが ある	5	131,150,152,156,225
132	D	このような計画が出た時点でなぜ表面化 させなかったのか。PTAに移転の話があ り、意思決定までに期間は短い。教育委員 会では話ができているのでは無いかとい う不信感がある	1	138
133	D	PTAだけでなく、地域には話しているの か	1	138
134	D	10月5日の市の説明は、聞いていておか しい、納得できない、誠意が無いように感 じた、もっと色々な視点での回答を期待し ていた	2	140,173
135	D	他の地域はどうなのか、知りたい	1	141

136	D	移転するなら最重点課題と言うが信用できない	1	143
137	D	納得できる回答を期待するが、今は不信感しかない	2	145,151
138	D	インフラ整備は未定です、ただ移転してください、と聞こえた	1	149
139	D	道路拡張については具体案も無く、これ以上話しても無駄	1	153
140	D	臼杵小がこのままで、将来津波の被害が出たときに、移転の案はありました、という教育委員会の責任逃れの提案かと思う	1	161
141	D	市民全体、観光客まで見据えた対策など、臼杵小移転以前にやるのが有るのでは	1	162
142	D	十分な計画と議論を	1	164
143	D	すでに決まっていることに対して議論するのは無駄、行動を起こして役所を動かした方が良い。	1	167
144	D	東日本大震災では、子供だけが犠牲になったのではない、小学生は体力が無く、中学生は走って逃げろ、など、行政の都合の良い説明ではないか	1	168
145	D	市の防災や予算の使い方など納得がいかない	1	171
146	D	聖母幼稚園は市の管轄では無いなど、市民の安全を考えているのか	1	171
147	D	本当に道路拡張できるのか、非常に難しいのでは	1	173
148	D	PTAの議決結果を受け入れてもらいたい	1	174
149	D	事前に市民の意見を集約しての計画か、疑	1	176

		問だ、行政の都合優先では。市全体に目を向けた取り組みを希望		
150	D	耐震工事の時期が同じだと言って統合するのか。	1	181
151	D	小学校の統合による予算の都合であり、防災的教育的観点はない、これで移転統合は暴挙だ	1	225
152	D	10月5日の説明会で市が見せたDVDは、津波に対する恐怖感を煽り、高台移転への誘導を図るものだ	1	225
153	D	福良の道路拡張は余分な経費だ	1	230
154	D	よそから来て、臼杵の市政に対しておかしいと思うことが多い。場当たりすぎる。町づくりの青写真も、わざわざ市役所に行かないと見れなかった。今回も10月6日の記事を見て、移転は決まっているかのように思えた。事前に住民に知らせるなど、できたはず。	1	152
155	E	親として学校に全てを任せる気はさらさら無い	1	56
156	E	子供は福良には行きたくない、と言っている、登校拒否するかもしれない	4	123,124,152,226
157	E	子供が環境変化に弱いので不安	1	163
158	E	福良小の地下には防空壕跡があり、津波の前に地震が心配	1	34
159	E	これから入学する子供を持つ保護者や地域住民の意見を聞く場を設けて欲しい	4	37,61,129,149
160	E	福良小、福良地域の意見も聞きたい	2	37,66
161	E	臼杵小ができて100年を超えるのに、今	1	45

		になって津波対策か		
162	E	母校が無くなるのは嫌だ	9	45,59,68,74,93,132,141,226,231
163	E	10月5日の説明会の参加者が少なかった、意識が低い印象を与えた	2	46,75
164	E	統合するとしても「臼杵小」の名前は残して欲しい、校歌は	3	46,118,226
165	E	スーパー堤防の整備	1	56
166	E	臼杵小が移転した後は、何に使うのか、地域から人が少なくなる	4	61,106,132,149
167	E	小学校の地域での存在意義や地域との関わりを無視して、その場しのぎの単発的な発想ではないか、長期的なビジョンも見えない、もっと議論する時間が必要	1	62
168	E	福良との統合に反対ではなく、臼杵小の移転に反対している	1	64
169	E	歴史と伝統ある臼杵小は残して欲しい	5	71,86,95,96,231
170	E	耐震工事には賛成、移転には反対	1	97
171	E	東中、聖母幼稚園はそのまま、小学校だけ移転では、地域離れしてしまう	1	98
172	E	移転賛成の人がいるのですか	1	108
173	E	予測できない津波に対して、子供のことを考えるとどちらとも言えないところもある	1	109
174	E	深江や上浦の子供達がまた移転するのはかわいそう	1	111
175	E	現在の情報で移転賛成は困難	1	119
176	E	消防署も移転し、市役所も商業高校跡地に行くのか、子供達だけを残していくのは不	1	119

		安		
177	E	福良小の卒業だが、津波のことだけで移転する意味があるのか疑問だ	1	133
178	E	今回の移転話を流すことはできないか	1	143
179	E	近所の未就学児をもつ親も、福良には無理、と言っている	1	152
180	E	家を引っ越ししたばかり	1	154
181	E	小学校が無くなるなら、まだ子供を産みたいと思っていたが、止めます	1	157
182	E	母親が車を持たないので、不便になる	1	163
183	E	卒業した子供がショックを受けている	1	170

「移転しても良い」の回答者の意見

	分類	内容	件数	アンケート用紙番号
1	A	学校への寄りつきの不便さは今後考えて欲しい	1	1
2	A	自宅からの距離は大して変わらないので	1	2
3	A	福良の道路は、合併するにせよしないにせよ、整備すべき	1	8
4	A	福良小から何km離れたら、スクールバスが必要となるのか	1	9
5	A	福良の通学路は狭いので、インフラ整備ができてからが良い	1	13
6	A	道が狭いのは困る	1	14
7	B	津波のことを考えれば離れても不安は解消される	1	1
8	B	学校に行っている間だけでも安心	1	3
9	B	1年生の足では臼杵公園への避難は厳しいと思う	1	3
10	B	数年後に津波が来ると予測しているのだから	1	5
11	B	津波対策になるので良い	1	6
12	B	津波のことを考えれば移転しても良い	2	9,12
13	B	耐震だけであれば、現在のままでよい	1	9
14	B	働く親としては、昼間は子供を守れないので、自分の都合だけでは(2)	1	11

15	B	災害時の安全性を最優先した方が良い	1	13
16	B	少し距離は長くなるが、もしもの時は高台の方が安心	1	14
17	B	子供達を津波から守るための選択肢の一つとして移転もあり	1	15
18	C	(移転するか否か) どちらにせよ何年か先なので、段階的に子供の安全だけでなく、教育環境を市全体で考えていくことが大切	1	8
19	C	臼杵小の生徒を全部動かすのではなく、校区の見直しで人数を減らし、将来的には1棟の校舎でまかなえる人数とし、校舎を防災施設として作りかえる。など、もっと話し合いを重ねるべき。	1	8
20	C	いずれ人数も減少していく	1	12
21	C	少子化で子供が少ない、多い人数の中で生活させた方が将来社会に出たときに対応が早い	1	13
22	C	移転した場合、子供の教育環境の変化に対して、教育委員会がどのように考えているのか全く解らない	1	15
23	C	防災対策だけでなく、子供の教育について、どのように考えているのか、移転することでの教育上のメリットデメリットについて教えて欲しい	1	15
24	D	先生方の人員削減で期待できる公費の削減	1	13
25	E	母校が無くなるのは残念	1	1
26	E	主人は移転反対	1	1
27	E	他の地域の方のことを考えればそのままが良い	1	2
28	E	移転するかしないかだけを考えれば(2)でも良い	1	4
29	E	臼杵小学校の名前が残ると良い	1	7
30	E	移転も良いが、保護者が全員納得した上での実行をお願いします	1	10
31	E	5年生であと1年で卒業なので、この判断がどのような影響があるか、解らない	1	11
32	E	多様な意見の中、この判断が正しいのか否か、解らない	1	11
33	E	臼杵に来て5年、初めての小学校で、福良小がどこにあるかも知らないし、道も解らない。何とも言えないが、安全第一	1	16

「どちらでも良い」の回答者の意見

	分類	内容	件数	アンケート用紙番号
1	A	福良小では狭すぎて、大きい行事では困る	1	24
2	A	毎日の通学時間が倍になるのは可哀想に思う。バスがあれば良い	1	26
3	A	福良の狭い道、行事の際の駐車場が心配	1	26
4	B	子供達が安全で、安心できる環境づくりをして頂きたい	1	21
5	B	災害は津波だけでは無い、臼杵の街周辺の災害対策を万全にする方が、臼杵小の子供だけでなく、周辺地域の人も助かる	1	22
6	B	臼杵公園も高さがあるとはいえ、火山灰からできた防空壕だらけのところ、当てにしても、地震で駄目になるのでは無いか	1	22
7	B	臼杵小を残して街の防災を強化して欲しい、臼杵小を卒業すれば東中ですし	1	22
8	B	いつ来るか解らない津波に振り回されるのはおかしい	1	24
9	B	学校にいる間だけでも津波に遭う確率が減るのは安心。	1	26
10	D	市や教育委員会の説明が納得できるものなら特に反対することはないが、現実的に可能か否か	1	21
11	D	防災面について考慮した上でものか、学校統合を見据えた移転なのか明確にして頂きたい	1	21
12	D	今までの経過を解り易くまとめて欲しい	1	21
13	D	津波が起きてしまえば「やっぱり移転しておけば被害が少なくて良かった」となるのか	1	22
14	D	役所の思惑が見え見え	1	23
15	E	卒業していなくなるので、これから臼杵小に通う家庭の意見を最優先してください	2	22,23
16	E	安全を考えれば高台が良いと思いますが、移転時期には子供が卒業しているので、選択は控えます	1	25

※アンケート原本は塩崎が保管

集計②

PTA から市へ投げかけた、(1)～(47)項目の意見や質問について、どれに賛同するか、という問いに対する答えの集計

質問項目番号	移転反対	%	移転してもよい	どちらでもよい	計	%
1	13	11.0	0	0	13	10.3
2	30	25.4	0	1	31	24.6
3	16	13.6	0	1	17	13.5
4	16	13.6	0	0	16	12.7
5	24	20.3	1	1	26	20.6
6	28	23.7	2	1	31	24.6
7	68	57.6	3	2	73	57.9
8	24	20.3	0	0	24	19.0
9	38	32.2	2	1	41	32.5
10	23	19.5	1	0	24	19.0
11	15	12.7	1	1	17	13.5
12	19	16.1	1	1	21	16.7
13	27	22.9	0	1	28	22.2
14	22	18.6	0	0	22	17.5
15	38	32.2	1	2	41	32.5
16	54	45.8	3	0	57	45.2
17	18	15.3	0	0	18	14.3
18	32	27.1	0	0	32	25.4
19	44	37.3	2	0	46	36.5
20	28	23.7	1	0	29	23.0
21	21	17.8	0	0	21	16.7
22	42	35.6	0	0	42	33.3
23	26	22.0	1	0	27	21.4
24	34	28.8	0	0	34	27.0

25	29	24.6	1	0	30	23.8
26	26	22.0	1	0	27	21.4
27	29	24.6	0	1	30	23.8
28	44	37.3	1	1	46	36.5
29	45	38.1	2	1	48	38.1
30	40	33.9	1	0	41	32.5
31	23	19.5	0	0	23	18.3
32	23	19.5	0	0	23	18.3
33	28	23.7	0	1	29	23.0
34	34	28.8	1	0	35	27.8
35	20	16.9	0	0	20	15.9
36	29	24.6	0	0	29	23.0
37	25	21.2	0	1	26	20.6
38	40	33.9	1	2	43	34.1
39	30	25.4	1	1	32	25.4
40	31	26.3	0	1	32	25.4
41	31	26.3	0	0	31	24.6
42	38	32.2	0	0	38	30.2
43	27	22.9	0	1	28	22.2
44	39	33.1	3	0	42	33.3
45	30	25.4	0	0	30	23.8
46	31	26.3	0	1	32	25.4
47	16	13.6	0	0	16	12.7
回答者数	118		5	3	126	
のべ計	1408		19	12	1439	

※上記回答者数は、賛同意見があると答えた回答数であり、アンケートの回答数ではない。

※下記、回答毎に賛同する意見を集計

・「移転してもよい」と「移転反対」と「どちらでもよい」の全ての回答者に共通して賛同する質問項目：7, 9, 15, 28, 29, 38, 39

・「移転してもよい」と「移転反対」の回答者で共通して賛同する質問項目：16, 19, 30, 34, 44 (+上記の質問項目)

・「移転反対」の回答者で賛同する質問項目

30%以上の方が賛同するもの：7, 9, 15, 16, 19, 22, 28, 29, 30, 38, 42, 44

25-29.9%の方が賛同するもの：2, 18, 24, 34, 39, 40, 41, 45, 46

資料 10 市長宛に提出した 47 項目の回答

(平成 24 年 10 月 19 日付け 白教委総第 1019006 号)

白杵小学校北校舎耐震工事に併せて提示された福良ヶ丘への移転問題について
(回答)

(1)

要は、白杵小学校（以下「白杵小」）として、移転するか否かを決めなければならない、ということですね。

(回答)

お見込みのとおりです。

(2)

当初市教委の話聞いた際に、すでに移転することが決まっているような印象を受けましたが、予算や方向性はすでに決まっているのではないですか。また、財源として国の補助金などを使うのであれば、統合することが条件になっていたりするのではないですか。

(回答)

何度でも申し上げますが、移転ありきでの話し合いではありません。これから白杵小の保護者の皆さんと一緒に協働作業を行いたいと考えています。また、国の補助金等の如何によって移転の話をしているわけではありません。

(3)

7 月 23 日の説明では、移転するか否か両方の選択肢があります、と伺いました。白杵小が移転しない場合、白杵小は白杵小で北校舎の耐震補強工事を平成 26 年度に行い、福良ヶ丘小学校(以下「福良小」)は福良小で建て替え工事を行う、ということですね。

(回答)

子どもたちの命を守るという観点から白杵小の福良ヶ丘小学校への移転についてご理解を頂けるよう最大限の努力を行うつもりですので、保護者の皆様におかれましても、十分にご検討をいただきたいと存じます。市といたしましては、保護者の意志を尊重し、最終的には市で判断し、決定したいと考えています。

(4)

臼杵小として移転するか否か、いつまでに決めれば良いのですか。7月23日の三役会の説明では、今年12月の侑の予算編成時期か25年3月の議会までには、との説明もありました。それとも もっと時間をかけて良いのでしょうか。

(回答)

福良ヶ丘小学校の建て替えに係る来年度の予算に合わせることを考えますと、最終回答は来年の1月末で結構です。

(5)

もしも津波対策で移転する場合、移転先は福良小だけでしょうか。臼杵公園はどうですか。また、臼杵公園に東中も一緒に移転してはどうでしょうか。

(回答)

臼杵公園での建て替えについては、臼杵公園全体が県の文化財であること、また西側は護国神社の所有地であること、加えて現在の臼杵小の必要面積を勘案すると、臼杵公園東側の桜の木を相当数伐採する必要があること、そのためには臼杵公園が、市民全員の憩いの場である中、市民全員の合意を得る必要があること等を踏まえますと、臼杵公園への移転は考えられません。

(6)

下南小学校と福良小が一緒になっても良いのでは。昔、石仏や障子岩まで津波が来たという話もあるので、下南小学校と福良小の間の高台に建て替えるのもよいのでは。実際、下南小学校と福良小の児童がすれ違いながら登下校しているそうですから、小学校区の見直しも含めて検討してはどうでしょうか。また、中学校区の見直しもしてはどうでしょうか、福良小から東中へは数名しか進学してない状況もありますので。

(回答)

統廃合については、臼杵市立幼稚園・小学校・中学校の適正規模・配置（後期計画）に基づき進めています。下南小学校は統廃合の対象となっていません。

通学区の見直しについては、統廃合の経過も考慮しながら、市内全体で取り組む課題と認識しています。

(7)

現在の福良小の周辺は、手狭であり、色々な学校行事の際には、今の道路状況

では相当の混雑が発生するのは明らかだと思います。臼杵小の PTA 家庭数で学年別授業参観でも 70~80 台の車が入り出します。運動会など全体行事ではその数倍になるかと思いますが。とても、いつ起こるか解らない津波のことだけで移転するのは、現実的ではないと考えますが、これについてどのように考えていますか。

(回答)

福良ヶ丘小学校への移転について合意を頂けたなら、この事業は来年度以降、本市の重点事業という位置づけになると考えられます。このような位置づけになれば、福良ヶ丘小へのアクセス道路や駐車場についても本市の重要事業として最大限の努力を行うこととなります。

(8)

深江や上浦からのバス通学については、そうした平清水周辺から福良の道路事情の中でどのように考えますか。

(回答)

スクールバスの発着場については、上臼杵駅周辺を含めて、児童が安全に昇降できる場所を検討したいと考えています。

(9)

臼杵小はすでに体育館の耐震補強工事を終えましたが、移転した場合はこうした費用は無駄になるのですね。福良小は福良小で立て替えをし、臼杵小は臼杵小で北校舎を耐震補強工事した方が、税金の無駄使いにならないと思いますが、どのように考えますか。

(回答)

3.11 東日本大震災以降、公共施設の建て替えに併せて津波などの震災に対して、できる限りそのリスクを排除する必要があると考えています。子どもたちの命を守るという観点からは必要なことだと考えています。

(10)

福良小が西中の校区内で、市浜小学校と下南小学校に分ければ良いのでは。その方がさらに経費の節約になるのではないですか。

(回答)

福良ヶ丘小学校は、現在の適正規模・配置の統廃合の対象となっていません。

(11)

学校の再編統合などは、30年50年の長期で考えなければと思うが、こうした中で、臼杵小や福良小の児童数の推移をどのように見込んでいるのですか。

(回答)

現在の適正規模・配置については、児童生徒数の推移等を考慮し検討しています。臼杵小学校と福良ヶ丘小学校の20年後の予想児童数は減少します。

(12)

小学校など学校施設は、どこの自治体でも防災施設として位置づけられていると思いますが、現在の臼杵市の防災計画の中で、臼杵小や福良小は、どのように位置づけられているのですか。

(回答)

臼杵小は台風、大雨等災害時の避難所として位置づけられておりますが、東日本大震災以降は、津波災害時には使用できない可能性があることを臼杵市防災マニュアルでお知らせしています。市では、「津波避難場所マップ」を作成し、地震による津波が予想される場合は、臼杵公園等の高台に避難するようお知らせをしています。

(13)

防災拠点として、福良小は高台にある点を活かし、臼杵小は平地にあることを活かして検討してはどうですか。津波対策だけを前面に出して臼杵小の移転を検討するのは、防災計画や市財政、地域住民の都合等を考慮した総合的な検討には思えません。これについてどのように考えますか。

(回答)

3.11 東日本大震災以降は市の行政のあり方も津波災害からできる限りそのリスクを排除することが重要だと考えています。

(14)

大分県中部地震のように、内陸を震源とした地震もあるので、津波だけを前提にすることが本当に防災対策と言えるのですか。

(回答)

東日本大震災において津波災害を受けている市町村の地形は、臼杵市の地形に似かよっており、南海トラフの巨大地震が発生すれば、臼杵川河口部に位置

する臼杵小学校も同じことが起きることが懸念されます。全ての小中学校について耐震化対策を進めています。

(15)

聖母幼稚園は現在地に建て替えをしています。東中とのことを考えれば、昨年度に撤去した辻口の歩道橋に代わるものを設置することの方が先ではないでしょうか、どのように考えますか。

(回答)

聖母幼稚園は私立幼稚園であり県が設置許可権限を有しています。また、東中の生徒は、一般の青年の方々と同じくらいの体力と判断力を有していることから、走って逃げることを想定しており、現在、東中の移転の考えはありません。また、歩道橋については「明石歩道橋事故」の例にもありますように、一時に多数の人が集まることによる転落事故、圧死事故の懸念があります。

(16)

臼杵小北校舎の耐震補強工事を行うのであれば、併せて校舎の屋根を全て平らにして、屋上を避難場所としても使えるようにしてはどうですか。現在臼杵小周辺在住の高齢者は、近隣のマンションなどが津波避難場所になっている方も居ます。こうした方々も手狭な個人住居であるマンションよりも、公共施設としての小学校の屋上の方が利用しやすいのではないのでしょうか。また、小学校に避難してきた場合には目につきやすいので、周囲の人も高齢者を手助けしやすいのではないのでしょうか。

(回答)

東日本大震災では、沿岸部の小学校等で火災が発生（津波火災）しています。よって現状の臼杵小の位置では、そのリスクを完全に排除することが困難と考えます。また、孤立化による救出の遅れも懸念されます。

(17)

深江や上浦からのバス通学については、登下校道中での避難場所などを決めていますか。

(回答)

現在のところ、スクールバス運行中の避難場所は定めていませんが、沿線の避難場所を指定している防災マップを活用したいと考えています。

(18)

千年に一度、百数十年に一度の津波を想定して移転しても、子供が学校に居る時に地震が発生して津波が来るという確証はありません。子供が学校以外に居る時間の方が遙かに多いですが、そうなる親の気持ちとしては、「必ずしも学校が高台だから安心」とはならないのですが、どのように考えますか。

(回答)

白杵小の移転の提案は、登校日の昼間に津波を伴う大震災が発生した際、少なくとも子どもたちの命は守られている状態にしたいという考えです。

(19)

東北の津波では、高台にいなくても犠牲者を出さなかった保育園幼稚園小学校はいくらでもありました。この助かった子供達は、施設が高台にあるという環境の問題ではなく、危機管理を躰けられて訓練されていたから助かった、というのが理由であることはテレビなどでも紹介されました。親の気持ちとしては、自分の子供がどこに居ようとも、地震が来たらどうするか、判断して行動できる子供でなければならない、と考えます。

従って、最終的には、学校設備がどこにあるかの問題ではない、と考えますが、これについてはどのように考えますか。

(回答)

確かに学校施設の位置だけで子どもたちの命を守ることはできませんが、少なくとも登校日の昼間に津波を伴う大震災が発生した際、子どもたちの命は守られている状態にできるということです。

(20)

小学校が高台にあれば、普通は津波の避難訓練はしないと思いますが、東中が現在地にあるのでは、小学校でそうした訓練経験を持たないまま、進学することになるのではないのでしょうか。それで果たして子供のためだと言えるのでしょうか。どのように考えますか。

(回答)

すべての小学校、中学校において防災教育や避難訓練を行っています。

(21)

もしも移転した場合、放課後の児童クラブも移転することになると思います

が、健全育成協議会との調整や利用している保護者の利便性など、どうなるのでしょうか。そうした放課後の時間帯に何かあった場合に保護者が学校に駆けつける環境も変わりますが、どのように考えますか。

(回答)

白杵小の福良ヶ丘への移転に合意頂ければ、これらに付随する様々な課題の解決に向けて最大限の努力をしていきます。

(22)

辻周辺の道路整備に伴い、新たな一方通行や信号の状況が変わりました。その為、事件発生時や気象状況の急変などで、学校へ保護者が子供を迎えに行くことになった際、今までに無い渋滞混雑が発生しました。このような状況を思うと、現在の平清水周辺から福良小周辺の道路状況では、そうした緊急時のスムーズな対応ができるとは思えません。これについてどのように考えますか。

(回答)

大震災が発生した場合、市民の方々にはできる限り車を使用しないよう働きかけを行っているところです。東日本大震災の状況を見ますと、車での移動が大渋滞を起こして命が奪われることにつながっています。

(23)

親として子供の命を守りたいとは思いますが、いつも親が子供の側に居るではありません。学校が高台で津波に被災しなかったとしても、自宅が流されてしまうことはあります。育った風景が一変するでしょう。先日、津波や原発に被災しなかった子供達は、東北のそうした困難を乗り越えた子供達と、今後は社会に出て競争しなくてはならなくなる、というお話も伺いました。東北の惨状をみると、結局はそうした災害時には、子供の命を守るのは子供自身ではないのか、とも思いました。仮に移転するとして、ならば、移転するまでの2年間に、津波が来ないとの想定をしているのですか。教育環境の整備とは単に施設の整備をいうのですか。そのような考え方では親としては全く安心はできません。このようなことについて、どのように考えていますか。

(回答)

白杵小の移転の提案は、登校日の昼間に津波を伴う大震災が発生した際、少なくとも子どもたちの命は守られている状態にしたいという考えで、合意が頂

ければできる限り早く取りかかりたいと考えています。

(24)

白杵小学校では年に数回の津波避難訓練を行っています。こうしたことを子供の時から訓練することは、社会に出てからも役に立つことだと考えますが、その環境を変えることが、子供にとって本当に良いことなのでしょうか。登下校時や遊びに出ている時、学校の先生や親の目の届かない時、子供達は自分で判断しなければならないと思いますが、こうした人間的な力を付けることが大切かと思いますが、どのように考えていますか。

(回答)

すべての小学校、中学校において防災教育や避難訓練を行っています。

(25)

先日の運動会では、小雨が降る中でも、開会式の前から本部席横のテントに、高齢者の方達が座って開会を待たれていました。結局は雨で延期になりましたが、中には自分のお孫さんなどが出てなくても、楽しみにして訪れた方も居るようです。いつ来るか解らない津波を気にして移転してしまっただけでは、地域の方々に対するこうした場も無くなりますが、どう思われますか。そのような方達がわざわざ福良まで運動会を見に来るのでしょうか。一方で子供は地域で育てよう、とも叫ばれています。これは、その地域に根ざした小学校であればこそできることなのかもしれない、と考えますが、どう思われますか。

(回答)

白杵小の移転の提案は、登校日の昼間に津波を伴う大震災が発生した際、少なくとも子どもたちの命は守られている状態にしたいという考えで、合意が頂ければできる限り早く取りかかりたいと考えています。

(26)

今子供が低学年に在学中の保護者の方、また、これから小学校に進学する子供が居る保護者の方達の意見を良く聞く必要があるのではないのでしょうか。

(回答)

10年、20年先の事を考えて行かなければならないので、関係する方々のご意見を聞いていきたいと思えます。

(27)

臼杵小が移転せずに北校舎の耐震補強工事を行うか、それともどこかに移転するのか、その判断、意思決定等については、臼杵小の PTA 総会で議決しますが、その議決されたことが最も重要な意思決定として位置づけられ、そして最優先に実行される、ということによろしいですね。

(回答)

臼杵小学校保護者の総意を尊重し、最終的には、臼杵市で判断・決定をしていきたいと考えています。

2. 10月5日の説明会会場で保護者から出された意見や質問

※10月8日開催の三役会、10月11日開催のPTA評議員会で整理したもの

(28)

東中学校の耐震工事の計画もあるようですが、東中は移転しないのですか。現在、臼杵小学校に通う子供達は、もし移転すれば、小学校時代は福良に通い、中学校ではこちらに戻ってくる、ということですね。幼稚園も有りますが、これも考えれば、歩道橋が必要なのではないのでしょうか。また、移転して多額のお金を使うよりは、しっかりした歩道橋を作る方が、幼稚園小学校中学校、地域の方々のことまでを含めて、有効ではないのでしょうか。そうすると、対策としては、保護者が常々子供を教育し訓練していけば、わざわざ学校自体を高台に移転させることは、必要ないのではないのでしょうか。

(回答)

- ・中学生は、一般的には青年と同程度の体力、判断力があると考えますので、現状では東中の移転は考えておりません。
- ・一時に歩道橋に多数の人が集まった場合には、転落事故や圧死事故等が懸念されます。
- ・お年寄りや小さな子供は、その危険性がより高いと考えます。
- ・防災教育や訓練は、防災対策の基本で、大切なことと認識しています。臼杵小の移転の提案は、これに加えて、登校日の昼間に津波を伴う大震災が発生した際、少なくとも子どもたちの命は守られている状態にしたいという考えです。

(29)

福良の保護者の方とも話しましたが、今現在、車が離合する場所がないと言われました。現状の福良だけでもそうですが、臼杵小が行くと、さらに大変では。道路の拡張など、できないのではないですか。具体的な案がないのでは。そうした道路拡張にまで予算を使うのであれば、その分で、臼杵小学校の対策や歩道橋、臼杵公園に上がるための確実な対策をやって頂いた方が良いのでは。

(回答)

福良ヶ丘小学校への移転について合意を頂けたなら、この事業は来年度以降、本市の重点事業という位置づけになると考えられます。このような位置づけになれば、福良ヶ丘小へのアクセス道路や駐車場についても本市の重要事業として最大限の努力を行うこととなります。

また、臼杵公園については、津波避難対策のため、3ルートの避難道を新設予定です。

(30)

臼杵公園に4千人の方が避難するようになると言われましたが、そうであればなおさらのこと、臼杵小学校を移転せずに、屋上を改築して避難場所として活用した方が、津波対策で地域住民のためにもなりますし、学校もしっかりしたものになるし、どのように考えますか。

(回答)

東日本大震災では、沿岸部の小学校などで火災（津波火災）が発生しています。また、孤立化による救出の遅れも懸念されます。よって現状の臼杵小の位置では、これらのリスクを排除することが困難と考えます。

(31)

資料の(27)については、どう考えていますか。市役所さんは、こうした場は持たれますが、結局は押し通します。先程から話を聞いていると、移転をするという方向ばかりに話が向かうように聞こえます。どのように考えていますか。

(回答)

何度でも申し上げますが、移転ありきの話し合いではありません。子どもたちの命を守るという観点から、これから臼杵小の保護者とともに協働作業を行いたいと考えおります。

(32)

私は小中学校のことも考えて城北に家を建てました。臼杵市は海岸線にずいぶんと家がありますが、そうした市民を守ることに、どのように考えていますか。市民を守ることが、結果的に学校での子供も守ることになるのではないのでしょうか。これについてもどのように考えますか。

(回答)

市全体の津波対策としては、これまで、防災行政無線の整備、津波避難場所マップ、海拔表示板設置、防災士の育成等を行っています。城北地域付近では、臼杵公園への避難道の整備を行います。

(33)

もし、臼杵小の意見として、合併はしない、移転はしないと意思決定した場合に、どうなるのですか。(3)のようになるのですか。との意見に対して、副市長さんは、「市の意見も聞いたけども、何かあったときは走って逃げることで良い、このままで良い、と言うのであれば、市はそれに従います、強引にやるつもりはありません」と言われましたが、これは、「臼杵小が移転するか否かの市の最終決定については、臼杵小保護者の意思決定に従う」とのこと、よろしいですか。

(回答)

子どもたちの命を守るという観点から臼杵小の福良ヶ丘小学校への移転についてご理解を頂けるよう最大限の努力を行うつもりですので、保護者の皆様におれましても、十分にご検討をいただきたいと存じます。市といたしましては、保護者の意志を尊重し、最終的には市で判断し、決定したいと考えています。

(34)

子供が学校に居る間は、市行政や教育委員会も、子供に対してその監督指導の責任があるでしょうが、保護者としては、子供が学校にいるときだけでは無い、1年365日を考えています。

副市長さんの説明で先程、DVDを見ましたが、この様な悲惨なDVDを見るのであれば、逆に保育園児を一人も死なせなかった保母さん方の取り組みなども、見せなければならぬのではないですか。

保護者としては、子供がどこに居ても、命を守ることができるかが問題であ

り、そうなる、これは、教育の問題です。私は、自分の子供と一緒に臼杵公園のジャングルジムまで走って見ました。「地震があったら、ここに来い、そしてじっと待っていること。必ずお父さんは迎えに来るから」と話しました。その場面を思い浮かべた時に、果たして自分は迎えに来れるのか。母親も父親も流されて、子供だけが臼杵公園に助かっているかもしれない。そういうことも考えての、本当に子供のための教育とは何なのか、です。

ですから、私達保護者は、移転をしないならしない、でも、自分たちが子供を守ることに、強い自覚を持たなければなりません。移転せずにやるならばやる、という強い覚悟をもって子供達を鍛えていかねばならない。このような意見について、どのように考えますか。

(回答)

ご意見のとおり、学校や家庭での防災教育が大切であると市も認識しております。臼杵小の移転の提案は、皆さんの思いに加えて、津波からのリスクを回避するために、登校日の昼間に、津波を伴う大震災が発生した際、少なくとも子どもたちの命は守られている状態にしたいという考えです。

(35)

教育長さんは、中国四川省の地震での被害を引き合いに話をされていました。「10万人の犠牲者の内、子供達が2万人とも言われ、これは学校の倒壊による」との趣旨を話されました。しかしマスコミでも報道されましたが、日本の私達からみれば、あのような手被き工事とも思えるような建築技術の構築物での被害を容易に引き合いにして、日本でも大変だというような説明では、事例の引用に無理があるのではないですか。ですから、いたずらに、また、意図的に、保護者の危機感を増長しているようにも思われます。こうした海外の事例を受けて国が何かを打ち出すのは、国の立場としてはもっともなことでは、地方自治体が直接市民に説明するときに、その被害数字だけを引き合いに出すのは、どのような考えがあつてのことなのでしょう。

(回答)

中国四川省の地震被害の例については、国が全国の学校耐震化を強化することになった理由として説明したものです。

(36)

教育長さんは福良小の耐震工事について、23年度から本格的に検討を始めた、と説明されました。そして、その最中に東日本大震災が発生した、と話されましたが、東日本大震災は平成23年3月11日、これは、22年度の出来事になります。臼杵市内小中学校の耐震化計画や実施実績は、10月5日の説明会で示された市の資料を見ますと、四川省大地震が発生した2008年（平成20年）からの推移が示されていました。

それでは、仮に「23年度ではなく23年から、です」と訂正されるのであれば、なぜ、1年以上も経過して24年度に入り、今のような時期になって、しかも当事者である臼杵小の私達に対して表沙汰になってくるのでしょうか。理由を説明してください。

以上から、臼杵小保護者としては、「東日本大震災の後、23年度には、福良小の耐震工事に併せて臼杵小学校の移転は検討されていた」と認識しますが、よろしいですね。

そして、本来であれば、そのような検討を始める時点で、保護者や地域の自治会などに打診すべきではなかったのかと考えますが、いかがですか。

こうした、小学校が移転するか否かという、学校関係者だけでなく地域の自治会や住民の皆さんの意向も考慮しなければならないような事項について、口頭とはいえ、東日本大震災が23年度に発生したというような説明を教育長さんがするようでは、市民感情としては全く市のやり方に対する不信感はぬぐえません。東日本大震災の発生は、臼杵小が津波対策で移転するか否かを提示した、市や市教委の最大の論拠ではないのですか。10月5日の説明会では、まさに津波対策の一点で説明されたようにも受けとめました。

従いまして、この度の臼杵小移転、福良小との統合の問題に関連して、将来の参考にするため、これまで臼杵市が行ってきた一連の学校の統廃合について、どのような形で市教育委員会として統廃合を進めてきたのか、その地元への打診の前後を含めて、深江小や上浦小の事例を明確に説明してください。これについては、現在深江小や上浦小から統合されて臼杵小学校へ通学されている児童の保護者の皆さんが納得する形で説明すると同時に、文書での説明を求めます。説明の機会は別途、設けますが、よろしいですね。

(回答)

学校施設の耐震化年次計画に添って福良ヶ丘小学校の耐震化を検討していました。

3. 11 の東日本大震災以降、小中学校では津波を想定した避難訓練に取り組んで参りましたが、平成 24 年 3 月 31 日に内閣府が南海トラフの巨大震源について「総合的な津波対策により対応する必要がある。」と発表したことに伴い、その津波対策の一つの案として福良ヶ丘小学校の耐震化による建替えに合せ臼杵小学校を移転することについての検討を始めました。

その検討により「臼杵小学校と福良ヶ丘小学校を統合し福良ヶ丘小学校の位置で建て替えを行なう」、「それぞれの学校で耐震化を行なう」、という 2 案に絞り込みましたが、統合という重要な判断が生じたため、当該校の保護者のご意見を聞くことにしました。

説明の機会を設けていただければ、保護者の皆さんが納得できるように十分説明していきたいと考えていますので、是非その機会の設定をよろしく願います。

(37)

教育長さんの説明では、今年の 4 月 2 日の庁内会議で「福良小は 25 年度の最優先で建て替えを行うという案と、臼杵小が統合して枠を広げた形で建て替えをする、という案に絞り込みました」という趣旨のものでしたが、これは、前者は福良小の建て替えをいつ行うかということで、後者は臼杵小が移転して福良小と統合して福良小を建て替える、という意味で受け取れます。しかし、今臼杵小に示されているのは、移転せずに現在地で北校舎を耐震工事するのか、福良に移転するのか、どちらにするのか、が示されていると認識しています。市と市教育委員会の方針は、明確にはどのようになっているのですか。

これは、すでに臼杵小の移転は保護者の意向は関係なく決まっている、というごときですか。そうした臼杵小と福良小の一連の耐震工事に関しての方針について、何がどのようにいつ決められたのか、どのようなプロセスで決められてきたのか文書で示してください。

7 月 23 日の市教育委員会次長さんが、PTA 三役にされた話では「臼杵小が移転するか否か、まだ決まったわけではない、それで、まずは保護者の意見を伺

いたい」と言うことでした。実際は、結局は市民の気持ち、ましてや当該校の保護者の気持ちや地域住民の気持ちは関係なく方針が打ち出されて、実行されていくのではないですか。

(回答)

臼杵市としては、今回提案した臼杵小学校の津波対策として福良ヶ丘小学校に統合移転する案について、保護者の方々の同意が得られれば、この計画案を進めて行きたいと考えています。しかし、同意が得られなかった場合、その意志を尊重し、最終的には市で判断し、決定したいと考えています。

なお、庁内会議は4月2日ではなく、7月5日に開催しています。

(38)

副市長さんは「津波のリスクを排除するために、市は何ができるか」と話されましたが、学校に子供が居る昼間のことだけを考えればそうなのかもしれませんが、地域の住民としては、小学校が有った方が、防災の観点からは良いのは明白ではないでしょうか、臼杵公園の海拔高度を考えれば、臼杵小学校の屋上と大差ない場所として、避難先を確保できます。このことをきちんと言わずして「子供の命を守る」ということだけで話を進めるのは、子供の両親祖母は別、地域住民は別、という考え方になるのですか。

おおよそですが、子供が通学するのは、年間約200日で年間の55%程の日数です、時間では朝の8時から4時までの8時間ほどですから、1日の3分の1、33%程です。

従って子供が学校に居るであろう時間は、1年間の時間数で見れば、18%にしかなりません。保護者は、1年間365日8760時間のうちの18%だけが問題なのではなく、365日、どこにあっても、自分の命を自分で守れるかが重要なのです。ですから、本当にお金を使うのであれば、避難経路の確保や、今の校舎を改築するというような、より現実的と思われる意見が出されているのではないのでしょうか。この18%の時間に「津波が発生するかもしれない、それを想定してのリスクの排除だ、これが移転する理由です」と市に示されても、保護者として容易に安心できないのは、当然のことかと思えます。これについて、どのようにお考えですか。

(回答)

今回の提案は、津波からのリスクを回避するために、登校日の昼間に津波を伴う大震災が発生した際、少なくとも子どもたちの命は守られている状態にしたいという考えです。

沿岸部に位置する臼杵小学校では、津波火災等のリスクを排除できないと考えています。市では、この地域の方々の避難を円滑に行うために、臼杵公園に、新たに3本の避難道の整備を行うこととしています。

(39)

副市長さんは、「福良小周辺の道路事情が悪く、住宅事情などからみて現実的に拡張などできないのではないか」との質問に対して、「私はそうは思わない、もし移転するとなれば、来年度以降、市としては最重要課題の事業になる、大きな一大事業として取り組みますからそういうことも真剣に考えていきます、具体的には今は言えないですが」と言われました。普通車も離合できないような道路状況ですから、臼杵小が移転せずに福良小の規模だけ建て替えるとしても、今時の工事車両の都合など考えれば、大変なことかと思います。つまり、副市長さんの話では、福良小周辺の道路拡張などは、臼杵小が移転することだけが前提での一大事業であり、福良小のみでの建て替え工事をするのは、考えていないということですか。

現時点で移転するか否かの選択肢を提示された私達としては、「臼杵小が福良へ行かなくても、福良小建て替え工事の都合がありますから、工事車両の関係で道路拡張などは検討しています」とでも回答されるのかと思いました。関連して保護者から「奥歯に物が扶まったような言い方だ」とも意見が出ましたが、実際はどのように考えているのですか。

(回答)

福良ヶ丘小学校は、築後55年が経過しており、建て替えの方向で検討しています。今般、提案しました臼杵小の福良ヶ丘小学校への移転について、皆様から合意頂ければ、この事業は来年度以降、本市の重点事業という位置づけになると考えられます。このような位置づけになれば、福良ヶ丘小へのアクセス道路や駐車場についても、本市の重点事業として最大限の努力を行うこととなります。

(40)

上記(39)に関連しますが、現状の福良小周辺は、普通車での離合がままならないような状況です。これは、地域としては特に地震などが発生しなくても、日常生活の中で緊急車両の通行などに不便が生じていることになりませんか。つまり、臼杵小が福良へ移転するか否かに関わらず、市としては何らかの対策を講じなければならない問題ではないのですか。そうであるならば、福良小の建て替えに併せて福良地区のそうした問題を解決するのは、なお一層、臼杵小の移転に関係なく実施する必要があるのではないですか。

(回答)

福良ヶ丘小学校は、築後 55 年が経過しており、建て替えの方向で検討しています。今般、提案しました臼杵小の福良ヶ丘小学校への移転について、皆様から合意頂ければ、この事業は来年度以降、本市の重点事業という位置づけになると考えられます。このような位置づけになれば、福良ヶ丘小へのアクセス道路や駐車場についても、本市の重点事業として最大限の努力を行うこととなります。

よって、現状においては、福良ヶ丘小学校への移転を中心に福良地区の道路改良の問題を捉えていきたいと考えています。

(41)

コミュニティ防災課長さんは、地域の防災について、施設の建て替えなどについて、「地域のコンセンサスやお金の問題など、大きな課題である」との趣旨を話されました。ところで、臼杵小学校の屋上を整備すれば高さは 4 階程になりますが、これは臼杵公園の海拔高度に匹敵します。移転する程のコストを要しないと思いますが、この地区で地震や津波の避難場所として有効と思われる小学校を移転させるという計画が、市の防災計画の中でいつどのようにして、地域のコンセンサスを得たというのか、明確に示してください。

(回答)

まち全体の高台移転などを考える場合、多くは私有財産の問題が関係するため、地域のコンセンサスを得ることはたいへん困難な問題であるという主旨での発言でございます。今回は、市の公共施設（市有財産）である小学校の移転について、「子どもたちの命を守りたい」という思いから、まず、最初に保護者

の皆さんに提案をしたところで、これからの話し合いの中で保護者の意志を尊重し、最終的には市で判断し、決定したいと考えています。また、沿岸部に位置する臼杵小学校では、東日本大震災でもありましたように、津波火災、孤立化等のリスクを排除できないと考えています。

(42)

上記(41)に関連して、コミュニティ防災課長に伺います。津波からの避難は迅速が第一と考えるのは、論を待たないと思います。であれば、臼杵小の移転が防災対策の中で子供を津波から守ることだけの理由で行われるのであれば、地域住民の一時避難先として十分に機能しうるものをわざわざ無くし、明らかに地区住民のリスクは高めているとしか思えません。これについて市の防災の観点からどのように考えますか。小学校の屋上は当然子供の避難先としても機能するのですが、それでも福良に移転というのであれば、子供達は助けるが大人に対して、特に高齢者にはリスクを背負いなさい、とのことですか。

臼杵小がIS値などを考慮して明らかに全面的に建て替えかけなければならないのであれば、もちろん話は別だと考えますが、そうであれば、住民のコシセンサスも得ずに、わざわざ住民のリスクを高めた上に、移転事業に大きなコストをかけようとする、自語相違のような説明が理解できません。

小学校を移転させない方が地域住民の命を守ることとなり、さらに、子供の命を守ることに繋がりませんか。加えて、365日の内80%に及ぶ、子供が学校の外に居る時間の津波リスクを、大きく軽減させることとなりますが、これについて、考え方を明確にしてください。

(回答)

このたびの提案は「子供たちの命を守りたい」という思いから、まず、保護者の皆さんに提案をいたしました。沿岸部に位置する臼杵小学校では、東日本大震災でもありましたが津波火災や孤立化のリスクが排除できないと考えています。

市では、臼杵公園を地域住民の重要な避難場所と位置づけており、高齢者の方々、障害をお持ちの方々も守りたいという思いから、3本の避難道を新設します。

(43)

上記(42)に関連して、コミュニティ防災課長さんからは、今回の場合であれ

ば福良小の建て替えに併せて、そうした防災対策の市の考え方、選択肢を示している、そして、さらに検討していきたい、と受け取れる趣旨の話をされました。しかし私達としては、そうした案や方針が出来上がるまでのプロセスにおいて、なぜ、地域住民や当事者である臼杵小 PTA などの意見が、反映もされずに方針が作られていくのか、不思議でなりません。何らかの方法で行ったのであれば、その経過など、明確にしてください。

(回答)

沿岸部に位置する臼杵小学校について、津波からのリスクを回避するために、「子供たちの命を守りたい」という思いから、保護者の皆さんに移転の選択肢もあるということを示しましたことについて、ご理解を賜りたいと存じます。この後の議論においては、保護者の意志を尊重し、最終的には市で判断し、決定したいと考えています。

(44)

説明の中で、「小学校移転した場合に、その後、中学生については、もしもの場合は走って逃げてください」という趣旨の説明がありました。東中に通う息子に話すと、「俺たちには死ねというのか」と言っておりました。臼杵公園への避難対象者が 4 千人と言われておりましたが、津波が到達するまでの時間を考えれば、今の臼杵公園へのアクセスでは、4 千人の避難は困難が予想されます。やはり、聖母幼稚園をはじめとする児童生徒、臼杵公園北側の地域住民のことを考えて、やはり、歩道橋が必要になるかと思えます。

(回答)

臼杵公園へのアクセスについては、現在 3 本のルートを新設することとしており、避難を円滑に行う取組みを急いでおります。歩道橋については、一時に避難者が殺到することによる事故等が懸念されます。中学生につきましては、一般的には小学生より、体力、判断力が勝ることから、現状では東中の移転は考えておりません。

(45)

聖母幼稚園について、市の管轄ではないからとの趣旨の説明があり、その後に、何かあった時は、市の職員が駆けつけるようにしています、との説明でした。津波の発生するような地震では、市役所の中も相当なダメージを受けるか

と思いますが、その様な対応が具体的にはどのような仕組みになっているのか、説明してください。また、市の管轄では無いと言われると、本当に市民、子供のことなど考えていないのか、と思いましたが、これについて、どのように考えていますか。

(回答)

管轄については、私立幼稚園の設置許可権限については、大分県が管轄しているということを申しました。大災害時には当然に市役所も相当なダメージを受けますが、市庁舎から職員が避難する際には、聖母幼稚園の子供の避難について援助するよう意識づけを行っているところです。

(46)

教育長さんは、(27)に関連して「学校の統廃合は、保護者の総意で決定します」と言われましたが、これは「今回の臼杵小学校が移転するか否かについて、臼杵市としては、臼杵小学校 PTA の総会議決結果に従う」と解釈してよろしいですね。

(回答)

保護者の意志を尊重し、最終的には市で判断し、決定したいと考えています。

(47)

臼杵小 PTA の意思決定結果については、正式に臼杵小学校 PTA として公文書でお伝えしますが、その文書の日付をもって、正式回答の日時としますが、よろしいですか。

(回答)

お見込のとおりです。

以上

資料 11 47 項目の市の回答に対する意見

平成 24 年 10 月 22 日

臼杵小学校 PTA 会員 各位

臼杵小学校 PTA 会長 塩崎洋一

臼杵小学校の移転問題に関する意見や質問についての市長と教育長からの回答について

PTA 会員の皆様におかれましては、平素から PTA 活動に御協力頂き、ありがとうございます。また、先般来、臼杵小学校の移転問題につきましては、色々と御協力を頂き、重ねてお礼を申し上げます。

さて、先般、10 月 12 日に、私達臼杵小学校 PTA として、移転問題に関する意見や質問を「臼杵小学校北校舎耐震工事に併せて提示された福良ヶ丘への移転問題について」と題して、臼杵市教育委員会を通じて、臼杵市長宛てに送らせて頂きました。

そして、これに対する臼杵市長、臼杵市教育長からの回答が来ましたので、PTA 会員の皆さんへお知らせします。

なお、保護者の皆さんにおかれましては、まずは、先日、アンケートの願いをした際に私からお配りした、質問事項と照らし合わせながら、市長からの回答を見て頂き、市長からの回答書の意見や質問の文言が PTA から送ったものと相違ないか、自ら確認して頂きたいと思います。

その上で、PTA からの意見や質問に対する市長、教育長の回答が、納得のいくものであるか、また、保護者の立場や子供達の立場に立って考えて回答が筋違いなもので無いかなど判断して頂き、別紙により、10 月 29 日（月）までに意見や更なる質問をお寄せください。

臼杵小学校 PTA からの意見や質問に対する市長・教育長からの回答に対する意見や質問

1. 子供の学年は (1年 2年 3年 4年 5年 6年)
2人以上在学の場合は、それぞれの学年に○をしてください

2. 御自宅の住所 臼杵市 () 番地などは不要です

3. 市、市教育委員会からの回答について、以下のとおり意見や質問があります。

※必ず、(1)～(47)までの意見や質問の番号を記入してください。いくつでも構いません。

■PTA 会長へ直接メールでも受け付けます。 xxxx@yahoo. co. jp

資料 12 47 項目について何を協議したいのか市への質問

平成 24 年 10 月 26 日

臼杵市長 中野五郎 殿

臼杵市教育委員会 教育長 吉田純雄 殿

(教育委員会気付)

臼杵小学校 PTA 会長 塩崎洋一

臼杵小学校北校舎耐震工事に併せて提示された福良ヶ丘への移転問題について

標記の件に関しまして、平成 24 年 10 月 12 日付けで臼杵小学校 PTA からの意見や質問を送付しました。

そして、平成 24 年 10 月 19 日付け臼教委総第 1019006 号で、これに対する臼杵市長、臼杵市教育長からの連名の回答を頂きました。

その際に、要請のあった、市からの回答についての協議とアンケートに関する協議について、10 月 25 日に PTA 三役会を開催して協議した結果、下記のとおり回答します。

記

(1) 臼杵市からの回答についての協議

- ① 回答の何について協議するのか、明確にしてください。
- ② 上記、10 月 19 日付けの市からの回答に補足説明があれば、10 月 30 日までに臼杵 小学校 PTA 事務局へ、市長名の公文書で送付してください。

(2) アンケートの集約結果についての協議

- ① アンケート集計結果については、10 月 31 日の評議員会で協議し、その後、市へ送らせて頂きますので、その上で御検討くださいますようお願いいたします。

資料 13 平成 25 年 10 月 29 日付け『臼杵小学校と周辺地域とを併せた観点からの防災についての意見』

臼杵小学校と周辺地域とを併せた観点からの防災についての意見

臼杵小学校 PTA 会長 塩崎洋一

平成 24 年 10 月 29 日

1. はじめに

平成 24 年 7 月 23 日に、臼杵小学校の耐震補強工事に関連して PTA 三役に対し、臼杵市教育委員会から二つの提案がありました。

一つには、福良小が耐震強度の関係から、建て替えをするので、津波対策として臼杵小学校が福良へ移転、統合するということ。二つには、移転せずにそのまま現在地で耐震補強工事を行う、というものでした。

これを受けて、PTA 会長から各学年毎に保護者へ状況等の説明を行い、さらには、保護者からの要望も有り、10 月 5 日に市、市教委を招いての説明会を行ったところです。

そして、その後、10 月 12 日には、PTA 評議員会でまとめ上げた、市に対する意見や質問を送らせて頂き、19 日にはその 47 項目に対する回答を頂いた次第です。

また、10 月 12 日から全 PTA 家庭を対象に移転に関するアンケートを行い、現在集計している状況にありますが、同時に、19 日付けの市からの回答を、全 PTA 家庭に配布し、再度、これに対する意見を求めているところです。

そうした取り組みを進める中、先般、10 月 25 日には、臼杵小学校区児童生徒健全育成協議会の会合があり、その中で、上記のような経過を報告させて頂きました。また、その場で、東日本大震災に関する中央防災会議からのデータなどを紹介し、今回の臼杵小学校の移転問題に関連して、校区内の地域住民の皆さんにも、防災、特に津波対策について、訴えた次第です。

2. 東日本大震災のデータ

10月25日の健全育成協議会でも紹介しましたが、中央防災会議の出している、東日本大震災のデータを見ると、岩手・宮城・福島の3県での被災者の死因、その年齢階層別構成比において、

①死因において、92.4%が「溺死」

②死者数において、高齢者を含む成人者が90数%を越えている

と読み取れるデータがあります。

つまり、この溺死はほぼ全てが津波と考えられ、しかも、死者のほとんどが成人者である、ということでしょう。

3. 10月19日付けの市からの回答へのお願い

現在、臼杵小学校PTA家庭に対するアンケートの集計を見ますと、地域の防災拠点としての臼杵小学校が必要だという意見が寄せられています。具体的には、耐震補強工事に併せて、屋上の利便性を確保し、津波からの1次避難場所とする、というものです。

そして、19日付けの市からの回答では、こうした意見に対しては、「津波火災」と「避難者の孤立化」を理由に、臼杵小学校は津波の避難場所としない旨がありました。

そこで、以下の理由から、再度、私達PTA保護者や地域住民も一緒に検討したいと考えます。

(1)

上記の東北3県のデータでは、溺死が92%を越えており、これを考えれば、津波からの避難では、先ずは高台への避難が第一で、津波による溺死を回避しないことには、次の状況対応は無い、と言えそうです。津波火災は津波の2次的な災害であり、しかも、臼杵小学校周辺の状況から、どれだけ発生しうるのか、そのリスクは小さいのではと考えます。すると、地域住民にとって、臼杵小学校や東中学校は、特に高齢者に対しては、有効な津波の1次避難場所となり得るのではないのでしょうか。杖をつき、乳母車を押してやっと歩く高齢者が、果たしてどのような避難行動がとれるのでしょうか。地域住民が協力し合い、高齢者も助けやすい、という状況では、まずは避難者が人目につきやすい場所

に避難できるか、がとても重要な事と考えられるからです。

(2)

東日本大震災での津波火災の発生について、その原因を明確にし、現在臼杵小学校が置かれている状況から、どれだけの津波火災の発生が想定されるのか。例えば、臼杵港周辺の条件などを検証し、現実的な想定を再度検討してはどうかと考えます。大きな津波火災が発生した東北の港湾状況と比べれば、臼杵の港や臼杵小学校周辺の住宅事情などから、火災発生の直接原因となる可燃物の流出がどれだけになるのか、と考えます。

(3)

避難者の孤立化による救助の遅れについては、避難場所としての中心である臼杵公園までの距離を考えれば、あるいは、市街中心部であるということを考えれば、どのような形で孤立化が起こるのか、これについては私達もイメージができません。沿岸部で道路が寸断されて、集落が孤立化するような場所でもありません。生きるか死ぬかの状況下で、地理的、物理的な臼杵小学校における、避難者の孤立化について、再検討の必要があるのではないのでしょうか。

以上のようなことから、PTA 保護者と地域住民までを含めて、臼杵小学校を核とした、特に津波に対する地域防災のより万全な検討を行いたいと考えています。

4. PTA 活動と防災対策

臼杵小学校では、東日本大震災以来、津波対策の防災訓練の頻度を増やし、昨年度から実施しています。

また、先日は宇佐市P連が仙台の教育委員会の方を招いて、震災の教訓を講演してくれると聞き、副会長に参加して頂きました。そこでは、全校あげての訓練も良いが、学級単位での訓練が有効であることや、保護者をまじえての訓練が有効であることなど、情報を得たところです。

さらには、保護者からの意見として、地域も一緒になった夜間の避難訓練や、PTA の授業参観などで保護者も一緒に避難訓練してはどうかとの意見が出ております。

以上のような事から、臼杵小学校 PTA としては、健全育成協議会や自治体組

織などと一緒に子供達の命を守るために、より万全な防災体制を構築していきたいと考えております。しかしながら、こうした市民の活動に対しては、やはり、市の指導助言や支援が必要であり、また、PTAとしては、学校での取り組みであれば教育委員会などの協力も必要であると考えております。

そしてこうした、地元行政、学校現場、地域住民が一体となった防災への取り組みが、特に、訓練の積み重ねなど身体を動かしてのソフト面での充実こそが、緊急時の的確な行動をもたらし、結果的には子供達の命を守り、市民の命を守ることにになると考えている次第です。

以上

資料 14 平成 24 年 11 月 3 日 PTA 臨時総会議事録

平成 24 年 11 月 3 日 PTA 臨時総会 議事録

書記 ○○ △△

書記 □□ ◇◇

【 開会 】

●司会

ただ今から、臼杵小学校 PTA 臨時総会を行います。まずは、総会が成立しているか、資格審査をお願いします。

【 資格審査 】

●資格審査員

ただ今、受付を集計した結果、会員数 247 名の内、参加 122 名、委任状 55 名の計 177 名です。臼杵小学校 PTA 規約第 6 条により、成立していることを報告します。

【 会長あいさつ 】

●塩崎会長

皆さん、こんにちわ。校長先生はじめ各先生方には、平素から子供達を鍛えて頂き、ありがとうございます。また、今日は忙しい中で総会の場を持たせて頂きますことを、お礼申し上げます。

さて、かねてからお知らせのとおり、今日の臨時総会は、重要な議題があります。これにつきましては、先日来、PTA 会員の皆様にはアンケートの御協力などを頂き、ありがとうございました。

本日は、時間も限られた中ですが、御協力をよろしく申し上げます。

【 議長選出 】

●司会

それでは、議長を選出します。立候補される方は、いますでしょうか。

いなければ、事務局案を回りたいと思いますがよろしいですか。

それでは、1 年〇組の△〇さん をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

【 議長あいさつ 】

●議長

不慣れですが、よろしく申し上げます。

【 第1号議案 】

●議長

それでは、第1号議案についてです。事務局申し上げます。

●事務局

第1号議案は、規約改正についてです。別紙を御覧ください。

そこにありますように、副会長の人数についての規約改正です。現行で副会長4名、とありますのを、4～5名、といたします。

●議長

それでは、これについて質疑を行います。質疑のある方は、挙手をお願いします。

●議長

それでは、決を採ります。第1号議案について、賛成の方、挙手をお願いします。

挙手（ 多 ）数。1号議案は（ 可 ）決されました。

【 第2号議案 】

●議長

続いて、第2号議案です。これについて、会長から説明をお願いします。

●塩崎会長

第2号議案についてですが、これは、臼杵小学校の防災対策に対する取り組みについてです。現在、市の防災マニュアルや学校で定めた防災マニュアルなどがありますが、こうしたものを、将来に向けてより十分なものにするために、更なる検討を重ねて、また、実際に訓練を重ねていくような取り組みを、PTAとして今まで以上に積極的に行っていくことを、皆さんの了解を得たい、というものです。具体的には、三役会や評議員会で検討し、進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

●議長

ただいま、会長から提案のあった件について、質疑を受けます。

●議長

ただいま、会長から説明がありましたが、第 2 号議案の臼杵小学校の防災対策についての提案について、賛成の方は挙手をお願いします。

挙手（ 多 ）数。2号議案は（ 可 ）決されました。

【 第 3 号議案 】

●議長

第 3 号議案は、その他となっておりますが、会長から説明をお願いします。

●会長

これは、緊急動議になるかもしれませんが、昨夜、緊急で三役会を開催しました。その中で協議したことを申し上げます。

一つには、アンケートの意見にもありましたが、今回の件について、進み方が性急であるということです。考えてみれば、私達 PTA の組織の中では、アンケートでの意見集約を除いて、十分に話し合う場が持っていない、ということです。

二つ目には、移転するかしないかの意思決定をする以前に、肝心な市の方から、どのような対策があるのか、移転する場合はどうなのか、しない場合はどうなのか、こうした議論、話し合いが 10 月 5 日の説明会の以外は、全くされていない、ということです。

これは、当初、移転するかしないかを決めて欲しい、というような二者択一のような提案が有りましたので、これまでの経過としては少々、やむを得ないのかとも思いました。

しかしながら、市からは一応は、説明させて欲しいということも言われている中で、そうした場を十分に設けていないのは事実です。また、そのように感じている方も多いかと思います。

つまり、市とのやりとりの中で、移転するか否かの前に、市がどのような考えでいるのか、そうした話を聞きもせずに反対を叫んでも、仮に、移転するかしないかのどちらになったとしても、その後の私達の要望等が、どうなるのか、よくよく考えれば、今の時点では、ほとんど具体的には解らないままなのです。これも確かにそうだと思う方は多いのではないのでしょうか。

そうは言っても、あのような市の回答文では、何を言っても決まっているのではないか、何を言っても無駄では無いか、と言う方もいるかもしれませんが、市の話をよく聞いてはいないという意味において、確かに、明確に聞いてはいると思いますが、いかがでしょうか。

そこで、昨夜も緊急で三役会を開催して相談しました。市の方からは、1月末までに結論を、と文書でも回答は頂いておりますが、先程述べたような、何か肝心な部分の話し合いなどを、していないような状況で、PTAの組織としての意思決定をしてもよいか、ということになりました。

従いまして、本日、移転賛成か反対かの意思決定をすることは、PTA三役としては控えたほうが良い、と決定した次第です。

●議長

ただ今会長から、説明がありましたが、この会長からの提案でよろしいでしょうか。

挙手多数にて、4号議案は可決されました。

今後のスケジュールは、話し合いを重ねて進めていく、年内に数回、話し合いをもつ。

●議長

それでは、ただ今、会長から提案のあったとおり、4号議案については、後日決議することとします。

以上をもちまして、全ての案件を終了します。

不慣れな議長でしたが、皆さんの御協力が無事に終えることができました。

ありがとうございました。

【 閉会 】

●司会

以上をもちまして、臼杵小学校PTA臨時総会を終了します。

以上

平成24年11月3日開催の臼杵小学校PTA臨時総会議事録について、総会の内容と相違ないことを認めます。

平成24年 11月 3日

議事録署名員 ○□ △△ 印

議事録署名員 ×○ ◇△ 印

資料 15 意見交換会終了後のアンケート

臼杵小学校移転に問題について、臼杵市との意見交換会に対する感想などのアンケート結果について（平成 25 年 1 月 8 日～11 日で実施）

件数	用紙 No	学年	10/5	11/23	11/28	12/7	12/20	全欠	参加回数	参加回数	意見
1	1	1		○					1	3	<p>どんどん論点がずれている、保護者の意見は「移転反対」これは話を聞いていても明確だが、だんだん地域の話などの方が大きくなってきた。保護者としては反対だけど、それを強くいえる程この地に学校があることについて全面的に安心というのではない。市が移転しない時の案を出さないから話がずれるのか</p>
2	2	2		○		○			2	2	<p>12月7日の市長説明では、福良への移転が決まっているように聞こえた。これからもこの問題は見ていかねばと思う。</p>
3	3	2		○			○		2	2	<p>市側の説明は、何を聞いても津波の恐ろしさしか説明しない印象、もっと具体的な、例えば津波だけでなく総合的な災害に対する対策、市中心部を含めた災害対策、福良ヶ丘の地盤強度の具体的な数字、移転する場合の安全な通学路の計画などを聞き取った。一応の説明はされたが、</p>

																					納得のいく話を聞かせて欲しい。
16	16	5	1					○					○	2	4						最終的な移転有無の決定は市が決める、ということであれば、意見交換会の必要性について疑問がある。PTA 側の移転反対の意見は反映されないと感じた。
17	17	5						○					○	2	4						福良小に移転した場合の具体的な案をもう少し出して欲しかった。そしてもう少し詳しい内容の中身の濃い話し合いをして欲しかった。
18	18	5	3					○	○	○				3	2	4					市は移転を進める方向だが、保護者が心配している道路の問題や防災について、具体的に回答がなかったと思う。判断するには曖昧な回答で残念だった。移転に反対の気持ちは変わらなかった。白杵小の建て替えが何年後かにとか言っていないで、すぐに耐震性のある 4 階建ての校舎を建てて欲しい。津波はいつ来るか解らないので、早く建て替えるべきです。
19	19	5	3	1				○	○	○	○	○		5	4						移転しない場合の安全対策を、市はどのように考えているのですか、具体的に教えてください。
20	20	5								○			○	2	2	4					市からの意見は防災のことばかりで、移転の話は不十分で終わり、5 回の話し合いは同じ話ばかりで、会長が言っていたように、私達との話が噛み合わなかったのが残念。
21	21	6	3					○						1	2	4					とにかくほとんどの方が反対なのだ

																はあまり無く、臼杵小の補強には期待が持てず、移転ありきのように感じられた。
50	129	5					○	○		○			3	2	4	毎回同じような説明で、納得できるものではなかった。最終的には市の判断で決めるとのこと、保護者の意見（反対の）は、本当に意見が伝わるのか、不安です。皆の前では保護者の意見を尊重すると言いましたが、信じられない。反対です。
51	130	5						○	○	○			3	2	4	毎回進展は無く、同じ事の繰り返しで、交換会の意味があるのか、疑問だけが残る
52	131	5					○			○			2	2		何度かの説明を聞いても、毎回ほぼ同じ答えで、保護者の意見を聞いてからも同じ答えというのが、本当に市が保護者の意見を聞いているのかと疑問になる。
53	132	5	1				○			○			2	2	4	納得がいく説明が全くなく、参加した人達のほとんどが反対意見でしたが、この問題がどうなるのか、心配です。
54	133	5					○		○	○			3	1	3	臼杵小ほどの人数の統合となると、市長、副市長までも対応してくれるんだなと思った。子供と災害時はどうすればいいのか、改めて話し合うことができた。
55	134	5								○	○		2	2	4	全て移転してから解決される問題が多く、納得できる交換会ではなかつ

90	67	3						○				1	2		
91	68	3				○	○		○			3	2	4	
92	69	3						○				1			
93	70	1						○	○	○		3	2	4	
94	71	1				○	○		○	○		4	2	3	
95	72	1					○					1	1		
96	73	1				○	○		○			3	3		
97	74	1								○		1	2	3	
98	75	4	2				○		○	○		3	2	4	
99	76	4				○	○					2	4		
100	77	4	1					○				1	2	4	
101	78	4						○				1			
102	79	2					○			○		2	4		
103	80	2				○		○	○	○		4	2	4	
104	81	3						○				1	2		
105	82	1					○					1	4		
106	83	6				○		○		○		3	4		
107	84	6					○			○		2	2	4	
108	85	1				○						1	4		
109	86	3								○		1			
110	87	2				○		○	○			3	2		
111	88	2					○					1	1		
112	89	2					○					1	2		
113	90	2				○	○		○			3	2	4	
114	91	4	2			○	○		○			3	4		
115	92	4	2								○	0			1月に転居してきたため
116	93	5	3								○	0			中学と小学校と役員をしており、何 度となく集まりがあり、家のことが 何もできないため。役員の集まりの

回答者のうち子供の在学状況

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
長子	21	15	17	27	42	28	150
次子	10	8	14	2	2	0	36
三子	1	1	0	1	0	0	3
四子	1	0	0	0	0	0	1

合計 190

回答者のうち、意見交換会に参加した方の子供の在学状況

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
長子	16	12	13	22	33	18	114
次子	9	7	8	1	0	0	25
三子	1	1	0	0	0	0	2
四子	0	0	0	0	0	0	0

合計 141

結果概略

- (あ) 配布数 247 に対して、回収は 150、このうち、1 回以上、意見交換会に参加した方は 114 人。
- (い) 114 人のうち、④の回答が一番多く 64%、②が 58.8%と、市からの説明で十分な理解は得られていないと思われる。
- (う) ③を回答した中には、判断ができない、という判断をするためには十分材料になった、と解せるものがある。
- (え) 同様に、納得がいくものであったのも、どのような意味での納得かが明確ではない。
- (お) 全く参加されなかった中では、家庭事情によるものが多く、参加者の多少で認識の厚薄を判断はできない。
- (か) 一方、全く参加していない理由に、参加しても結局は結論ありき、と思いい参加していない方もいる。

参加した回答者の感想など

	人数	%
① 意見交換会は納得のいくものだった。	9	5.5
② 意見交換会は納得がいかなかった。	67	41.4
③ 臼杵市からの説明は、保護者として十分に判断材料になる、 と思った。	13	8
④ 臼杵市からの説明は、保護者として十分に判断材料にはなら ない、と思った。	73	45.1
合計	162	100

資料 16 臼杵小学校の移転に関して、津波被害に対する危機管理上の一考察

平成 25 年 1 月 11 日

臼杵小学校 PTA 会員 各位

臼杵小学校 PTA 会長 塩崎洋一

平素から PTA 会員の皆様には、PTA 活動について御協力を頂き、ありがとうございます。昨年来、臼杵小学校移転に関する様々な意見などが交わされてきましたが、標題のような考え方についてのものは提議がされていなかったと思いましたが、まとめてみた次第です。そして、先般行われた、1 月 9 日の防災研修会でも紹介しましたので、参加できなかった PTA 会員の皆様にも紹介させて頂きます。

記

危機管理は、『万が一』が発生して『最悪の事態』となることを想定して行うのが大原則です。臼杵小学校の保護者にとって、この『万が一』が発生して『最悪の事態』となるのは、どの様なストーリーをいうのでしょうか。津波が襲来することが『万が一』で『最悪の事態』でしょうか。

津波については「いつ」とは解りませんが、地球上での地震発生メカニズムから考えれば、日本の場合はいつか、必ず発生する事は確実です。つまり、津波が襲来することは『万が一』ではなく、いつか確実に起きる事です。ですから備えておくことはできます。そして、備えることより「子供が命を亡くす」という『最悪の事態』は必然ではなくなります。この備えていく行動が危機管理といえます。

では、どのくらいの津波が来るといのでしょうか。また、10mなら危なくて、2mなら危なくないのでしょうか。違います、襲来すれば 2mでも危ないでしょう。それでは、臼杵小学校の保護者にとって、『万が一』が発生して『最悪の事態』が起きる、その可能性が大きいのは、どのような『時』でしょうか。

言うまでもなく『万が一』は、「子供が親の目の届かない、先生の日も届かない状況にある時、地震が発生して津波が襲来した時」でしょう。例えば、登下校中です。また、放課後や休日に友達同士で家の外や学校外で遊んでいる時、

逆に自宅に子供だけで留守番している時、などです。

そんな時に、立ってられないような地震が発生し、津波が襲来する場面を想像してみてください。そうした『万が一』が起きて、『最悪の事態』となることを想定し、移転した場合としない場合での、危機管理上のリスクの増減を表にまとめて比較してみました。

できれば考えたくない想定場面		授業中に津波が襲来する確率	登下校中、子供が学校外や自宅外に居る時津波が襲来する確率	登下校中に交通事故に遭う確率	緊急時に家族が学校に向かい、子供を受け入れることになる確率
移転した場合	確率	変わらない	増加	増加	変わらない
	リスク	軽減	増加	増加	増加
なぜそうなのか、理由など		授業中や学校敷地内に居る時間は同じ。従って、1年の中で津波避難しなければならぬリスクは軽減する。移転したら、その時に津波が襲来した場合は安全だということにはなる。しかし、『万が一』が発生して『最悪の事態』となる確率がゼロになるのではない。移転しなくても、備えることで学校滞在中の『最悪の事態』を避けることは不可能ではない。	学校が遠くなったり、子供の活動範囲が広がっていく場合は『万が一』が発生して『最悪の事態』となる確率は増加する。よって、リスクも増加する。例えば、登下校の時間が増加した親にとって津波襲来による『最悪の事態』が発生するリスクは増加する、と考えられる。	近年、国内で交通事故に遭い死亡する人は毎年数千人に及ぶ。これにより命を亡くす確率は津波被害の比ではない。歩道を歩いても車が突っ込んでくる事故の確率はゼロではない。つまり、登下校中に『万が一』が発生して『最悪の事態』になる危険性は明確に存在している。しかも、津波被害遭遇よりも、リスクは大きい。	緊急事態が発生する確率は移転しても同じ。しかし、親が子供を受け入れに行く場合、平清水の上がり口から学校までだけが拡張されても、意味をなさない。平常時でも平日の通勤時間帯などは土橋から伊予銀行周辺まで渋滞が発生する。これが有る限り、リスクは移転した方が増加することは、十分考えられる。

この比較検討は、移転すれば、当然、校区は拡大し、また、登下校距離と登下校の所要時間が増加する家庭が増える、つまり、親と先生の目の届かない時間と空間が増加する状況になる子供が増えるのが事実である、ということに基づきます。移転した方が学校が近くなる、という場合でも、校区が広がれば、子供の行動範囲、活動する空間は広がります。仮に移転して一緒になった後、遠い旧福良ヶ丘小校区内では遊ぶな、とは、またその逆も、教育上は言えないでしょう。

そうした環境になった場合、『最悪の事態』とは、『万が一』が発生して、我が子が命を絶たれる事態であり、その様なことになる確率は大きくなることを、真剣に考えなければなりません。

ところで、『安全』と『安心』は異なります。『安全』は、計数的な根拠や科学的な理論があって示されます。『安心』は、その安全であるという状況が信頼できて初めて感じ取れる心理状態、感情です。つまり、津波に対して安全か否かは、科学的に検討されなければなりません。そして、危険がゼロになるのか、軽減されるだけなのか、などを客観的に明確にした上で危機管理を行うことです。

それがなされずに、『安心』だから、だけが理由で行動するのは、最初から何かの結果を期待している意図的なものであり、危機管理上の本当のリスク回避にはなっていないかもしれない、と考えられます。すなわち、危機管理上想定しなければならない『万が一』や『最悪の事態』を最初から考えずに排除して、これを考慮していない何かの希望的なストーリーを作っていることにもなりません。

そうすると、『万が一』が発生し『最悪の事態』となってしまうても、『想定外』でした、と言われて終わりです。3.11 に学ばなければならないのは、単に津波の恐怖ではなく、このことではないでしょうか。要は、移転しない場合は、「地震発生があり津波が襲来するから、避難しなければならない」ということは『想定内』のことであり、逆に、移転した場合は、もしも何かがあっても『想定外』と言われる可能性は高くなる、ということではないでしょうか。

子供の命を守るために、何をしなければならないか、何に対して責任を持って、自覚と覚悟をもって進んでいかねばならないか、ということでしょう。併せて、もし、学校のある地域に危機管理上の明確な仕組みが無く、あるいはあったとしても、これを適切に運用する明確なリーダーが位置づけられていない場合は、私達保護者は、子供達を守るために、何をしなければならないのでしょうか。

単に「津波が来たら大変だ、怖い、どうしよう」という感情だけを起点にこれからの考えたのでは、将来に向けた、子供達に対する肝心な何かを置き忘れたことになるかもしれません。この置き忘れをしないためには、どのような状

況になっても、自分の子供に対する責任は自分たち親や家族にある、と、どれだけ真剣に受けとめられるか、ということではないでしょうか。

単に恐怖心だけでは対策にはならない、単にハードの整備だけでも対策にはならない、とは、これまでの研鑽の場でも習ったとおりです。

【 参 考 】

■危機管理（ききかんり、英：Crisis management）

組織の意思決定者や紛争の当事者が直面している危機に対する手段の使用である。日本語ではクライシスマネジメント(Crisis management)とリスクマネジメント(Risk management)の2つは「危機管理」として一本化されて扱われていることがあるが、両者の概念には重なる部分もあるが以下の違いがある。

■クライシスマネジメント

危機事態の発生後の対処方法に関する点が概念の中心である。

■リスクマネジメント

危機事態の発生を予防するためのリスクの分析方法等が概念の中心である。リスクを組織的にマネジメントし、ハザード（危害:harmの発生源・発生原因）、損失などを回避もしくは、それらの低減をはかるプロセスをいう。

●このほかにも「リスクコントロール」「リスクコミュニケーション」など、色々あるかと思います。

平成 25 年 1 月 24 日

臼杵市長 中野五郎 殿

臼杵小学校 PTA 会長
塩 崎 洋 一

「臼杵小学校の移転に関して、津波被害に対する危機管理上の一考察」について

平素から、私達 PTA の活動について御理解と御協力を頂き、ありがとうございます。

さて、臼杵小学校の移転に問題に関しては、昨年来協議を積み重ねて参りました。しかし、標記に関するような内容が、私達 PTA 組織の中でも検討をされていませんでしたので、会長としてとりまとめ、先般、各 PTA 会員の皆様に配布し、参考にして頂いたことをお伝えいたします。

つきましては、こうした防災対策に対する危機管理の上からの検討会などを、地域の自治会なども含めて検討していくことも考えておりますので、御指導御協力を頂きますようお願いいたします。

平成 25 年 1 月 24 日

臼杵市中央区長会長 高西久邇孝 殿

臼杵小学校 PTA 会長
塩 崎 洋 一

(公印省略)

「臼杵小学校の移転に関して、津波被害に対する危機管理上の一考察」などについて

平素から、私達 PTA の活動について御理解と御協力を頂き、ありがとうございます。

さて、臼杵小学校の移転に問題に関しては、昨年来協議を積み重ねて参りました。しかし、標記に関するような内容が、私達 PTA 組織の中でも検討をされていませんでしたので、会長としてとりまとめ、先般、各 PTA 会員の皆様に配布し、参考にして頂いたところです。

また、1 月 17 日の臨時総会の結果などについては、先日お知らせしましたとおりですが、その後、24 日には今後行っていくことなどに関して、臼杵市長との協議を行いました。

つきましては、別添のとおり、協議の際に当方から提示した資料などを送らせて頂きますので、御査収ください。

また、こうした防災対策に対する検討会などを、健全育成協議会など地域の皆様とも一緒に検討し、具体的な行動を起こしていきたいと考えておりますので、御協力をお願いいたします。

平成 25 年 1 月 24 日

白杵市長 中野五郎 殿

白杵小学校 PTA 会長
塩 崎 洋 一

「白杵小学校の移転に関して、津波被害に対する危機管理上の一考察」
について

平素から、私達 PTA の活動について御理解と御協力を頂き、ありがとうございます。

さて、白杵小学校の移転に問題に関しては、昨年来協議を積み重ねて参りました。しかし、標記に関するような内容が、私達 PTA 組織の中でも検討をされていませんでしたので、会長としてとりまとめ、先般、各 PTA 会員の皆様に配布し、参考にして頂いたことをお伝えいたします。

つきましては、こうした防災対策に対する危機管理の上からの検討会などを、地域の自治会なども含めて検討していくことも考えておりますので、御指導御協力を頂きますようお願いいたします。

写

平成 25 年 1 月 18 日

臼杵市長 中野五郎 殿

(総務部気付)

臼杵小学校 PTA 会長 塩崎洋一

臼杵小学校移転に関する保護者の意向について

この度、平成 24 年 7 月以来検討を重ねてきました、津波対策としての弊校の移転問題について、平成 25 年 1 月 17 日に臨時総会を開催して、下記のとおり保護者の意向をとりまとめましたので、お知らせいたします。

なお、

- ①これまでの意見交換会などで、臼杵市からは「保護者の皆さんの意向を尊重して、最終的には市が判断する」という説明がされているということ。
- ②臼杵市からの紹介で大分大学から講師を招いて行った講演や研修会において、単に施設が移転するだけでは、津波に対する防災対策とはならないこと、などを伺い、まだ十分な検討もされていないとの意見があること。
- ③保護者へアンケートを行ったところ、説明会や意見交換会に参加したが、保護者として判断をするに十分な説明がされなかった、市からの説明内容に納得できない、という意見が多数あったこと。

などの理由から、臼杵小学校 PTA としましては、保護者の意向をお知らせするだけとしますので、今後は臼杵市として判断されますよう、お願いいたします。

記

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| (1) 白杵小学校 PTA 会員数 (家庭数) | 247 戸 |
| (委任状を含めて、2/3 (165 戸) 以上の参加で総会が成立) | |
| (2) 臨時総会に参加をして投票した総数 | 117 票 |
| (3) 臨時総会会場での結果に従うこととする委任状 | 81 通 |

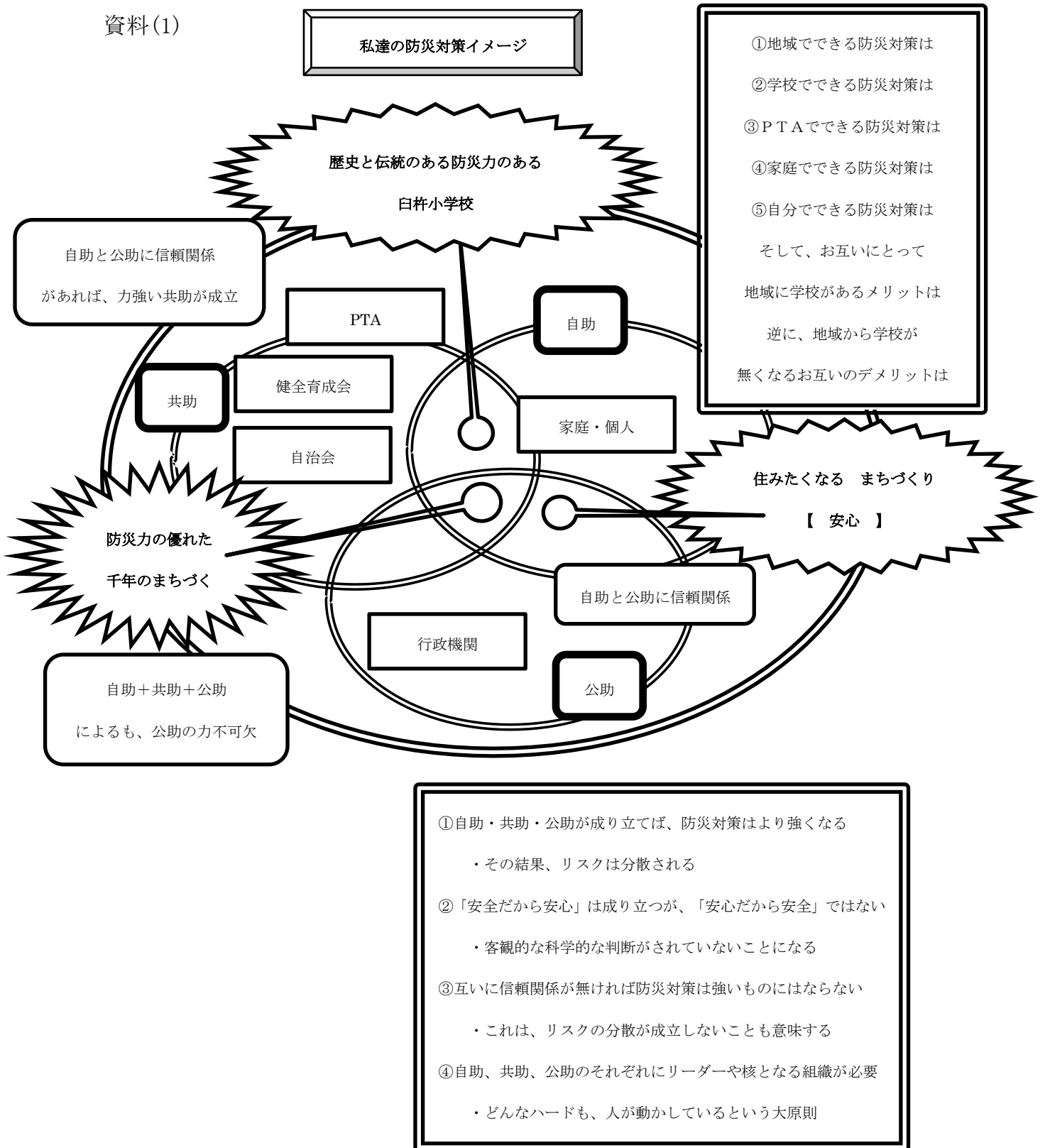
【 上記の状況で投票した内訳 】

- | | |
|--------------------------|-------|
| (4) 白杵小学校は、移転しても良い とした数 | 8 票 |
| (5) 白杵小学校は、移転しなくて良い とした数 | 107 票 |
| (6) 白紙で無効とされた数 | 2 票 |

以上

資料 18 1月24日付けで市長へ手渡した、PTAの取り組み(1)(2)(3)

資料(1)



臼杵小学校 PTA の防災対策取り組み（案） 資料(2)

すぐに取り組むこと、できること、など

⑤自分でできる防災対策は

避難経路確認、イメージトレーニング、研修会や資格取得と言った自己研鑽……

子供は子供なり、大人は大人なり

④家庭でできる防災対策は

同上、避難後の待ち合わせ計画、持ち出し袋など整備、家の中の耐震対策、家族での避難訓練、など

③PTA でできる防災対策は

PTA として防災意識の確立と継承、学校への働きかけ、健全育成会など地域組織への働きかけ、防災対策予算計上

① 校でできる防災対策は

先生・生徒の防災に対する異体同心した訓練実施、その継続、学校内の耐震対策、先生方の防災士取得、など

① 域でできる防災対策は

学校やPTA、子供会からの行動を連携させる、行政との連携活動、

防災対策を進めて、具体化する上での留意点

① 自助・共助・公助が成り立てば、防災対策はより強くなる

■その結果、リスクは分散される

自助としての個人や家庭、共助としての地域や学校関係組織、公助としての地元行政との連携を進めていく上で、それぞれの立場でやらねばならないことをできることからでも、きちっとやっていくことが、結果的に地域全体の防災

力を高めて、リスクを分散することになる。

リスクの分散は、結果的に最悪の事態が生じるリスクを軽減させることになる。お互いが責任回避を前面に出すと、そのことが、ボトルネックになって万が一の事態を引き起こすきっかけとなる。

②「安全だから安心」は成り立つが、「安心だから安全」ではない

■客観的な科学的な判断がされていないことになる

安全には基準がある。安心は感情的なもの。危機管理は、最悪の事態を想定して、万が一の起きる要因を減らすことが大原則。そのためには、何らかのためにする筋書きでの安心論では、安全とはいえないことを明確にしていく。上記①の互いの負担とそれを実行する責任は必ず車の両輪として存在する。その責任から逃れては、そこから対策に漏れが生じることとなる。

③互いに信頼関係が無ければ防災対策は強いものにはならない

■これは、リスクの分散が成立しないことも意味する

防災に向けた共働が成立しない、やっても、互いに信頼関係が無ければ、自分勝手な動きになってしまう。立場によっては、果たすべき役割が果たせなくなる。特に、復興段階では、個人と地域の関係や個人と行政の関係性が、これによって明確になってくる。

④自助、共助、公助のそれぞれにリーダーや核となる組織が必要

■どんなハードも、人が動かしているという大原則

逆に言えば、ハードだけ整備されていても、人が動かなければ、そのハードはいざという時に役に立たない。ハードだけでは防災対策にならない、これは、講演会などでも伺ったとおりである。現在示されている計画は、ハード対策のみの感が強いのではないか、私達は何をしなければならぬか。

資料(3)

これまで出された意見や、今後の検討材料となる考え方や意見について

1. 全体的なことについて

- (1)当初、今回の件が提案された段階では、移転の賛否についての二者択一的なイメージが強かった。これを受けてのアンケートでも保護者の8割以上が移転反対。
- (2)防災対策については、津波に限らず検討していく必要がある、という認識を保護者も強めてきた中で、11月3日には、賛否の決を採らず、色々な議論などを始めた。
- (3)そうして議論を重ねてきたが、保護者の意向としては、先般1月17日の臨時総会のようになった。
- (4)上記(3)については、1月上旬には、これまでの意見交換会などで、十分な判断材料が得られていない、とのアンケート結果が出ているなど、理由がある。
- (5)市役所の紹介で大分大学の先生を招いて研修会なども行ったが、その中では、移転に関しては行政側の対策の一つでしかないことなど、再三話があった。
- (6)こうした経過を受けて、会長の立場としては、客観的な危機管理の上からの意見を保護者には提示した。市にも提出している。大分大学の先生にも意見を頂いている。
- (7)昨年10月29日の段階では、アンケート結果の状況を受けて、移転しない場合の防災対策を、このように考えるとの旨、総務部長に提出している。

① ■以上のような経過の中で、移転しない場合にはどうするのか、という具体的議論はされていない、移転するとしても、保護者が移転するとなったら、市はこうします、という意味合いでの話しか伺っていない。移転しない場合の具体的な検討は、実行しやすいと考えられる。これは、研修会でも伺ったとおりである。

② ■市として津波対策の危機管理はどのように考えているのか、明確な具体的な考え方は示されていない、会長の意見のような形で示して、大分大学の先生などをまじえて、危機管理の上からの防災対策を、地域住民も

まじえてオープンにして検討する必要があるのではないか。

- ③ ■今回の臨時総会では、「移転しても良い」「移転しなくて良い」というかたちでとりまとめている。これは、単に反対か賛成かでは無く、移転しなくて良い、その一方では保護者としては、このようにする、という意向であると考えている。だからこそ、市への伝達方法も、総会で了解を得ることができた。
- ④ ■意見交換会で市からのアンケート用紙に記入したが、これについての回答は得られるのか、という意見が寄せられている。こうした意見に対して回答していかないと、保護者の意見を伺いたい、として始まった今回の件は、保護者としてまた、臼杵市民としての不信感や不安感を持ったまま進んでいることになる。大分大学の先生からも、今回の件は地域の防災対策としては、スタートが最悪だとの意見を伺っているが、どう考えるか。

2. 具体的な対策に繋がると思われるもの

- (1) 一昨年の歩道橋撤去の話があったが、例えば、あの歩道橋は耐震的に問題があるから、地震発生時には壊れて使用できない恐れがある、との意見があった。であれば、歩道橋が壊れれば、そこを車が通れなくなるから、道路を横断して避難する者には都合が良いのでは、というような考え方。
- (2) 臼杵公園に車で避難する者がいる、ということについては、地域の方々が、車が上がれないようにしてください、というような意見があった。今時であれば、消防署からの操作で、臼杵公園の上がり口に、ポールが突き出て、車が上がれなくなるような仕掛けはできないのか。転じて、歩道橋の代わりに、そうした事態が発生した際、道路を遮断するポールが突き出て、車の往来を止める仕掛けはどうか、というような考え方。
- (3) 臼杵公園には、4000人が避難する想定で進められているが、ならば、4000人に対する備蓄があるのだろうか、〇〇について2000人分を備蓄、というような話を伺った。想定というのは、自分たちの何らかの都合によるものではなく、最悪の事態を想定するのではないか、そうならないのでは。

- (4) 3.11 のデータを見ると、犠牲者の 9 割以上が溺死になっている。まずは水から逃げるのが第一だと考えるが、二次災害の津波火災を考慮して、臼杵小学校は津波避難場所台帳から外されたとの話であるが、一方で自治会指定の避難ビルは周囲にある。マップを見ても、市指定は臼杵公園と福良小であるが、水から逃れるのが第一だとする考えに立ったとき、こうした考え方が危機管理上、妥当か否か、明確には伺っていないが、どうなのか。
- (5) 昔、深田の石仏まで津波が来た、という話について、当時の臼杵湾の地形は、河川の堤防なども含めて明らかに異なるが、その歴史的事実を、どのように引用するのかなど、危機管理上はどうなのか。同様に、臼杵小学校の現在の埋め立ては、いつなのか、その後大地震などが発生しているのかなど、移転しなくても良い根拠となる様々な理由は検討されて示されないまま、話が進められている感がある、その様な状況で意向を問われても、どうかと考える。
- (6) 「まちづくり」という考え方を取り入れずに、臼杵小学校の移転のみ、是非を検討するのか、否か。臼杵市からの提案には、この「まちづくり」という意味合いは非常に希薄な話のような印象が強いが、どうか。保護者の意見の中で津波については「臼杵市に住んでいる以上は当然のこととして受けとめる」という意味合いに受け取れる意見がある。そうすると、大分大学の先生の話にもあったが、市は移転というハードのことしか考えていないように思われる、という考え方にもなる。しかし、これでは、防災対策にならない、というのは明白ではないか、と考えられるが、どうか。大学の先生まで招いて行ったことは、何だったのか。

資料 19 四者協定書

確 認 書

臼杵小学校を現状の位置（臼杵市大字臼杵 65 番地）に存続するにあたり、臼杵市中央区長会、臼杵小学校及び臼杵小学校 PTA 並びに臼杵市は、下記に掲げる「子どもたちの命を守るとりくみ」をそれぞれが責任をもって行い、相互に連携し、協力しあうことを確認します。

記

「子どもたちの命を守るとりくみ」

臼杵市中央区長会

中央区長会は、「防災意識の強い地域づくり」を目指します。また、臼杵小学校及び臼杵小学校 PTA 並びに臼杵市と協調・連携し、「地域防災検討会（仮称）」を早急に創設し、臼杵小学校を含めた地域の防災力向上並びに地域コミュニティの活性化に努め、将来に向けたその継続性を確保します。

臼杵小学校

臼杵小学校は、臼杵小学校 PTA とともに、学校防災計画の立案・見直し及び防災教育に積極的に取り組みます。また、地域並びに臼杵市と協調・連携し、防災教育、防災訓練などの防災活動の実施と将来に向けたその継続性を確保します。

臼杵小学校 PTA

臼杵小学校 PTA は、家庭における子どもへの防災教育を行います。また、臼杵小学校が定める学校防災計画及び防災教育の取り組みに積極的に参加します。更に、地域並びに臼杵市と協調・連携し、防災教育、防災訓練などの防災活動の実施と将来に向けたその継続性を確保します。

臼杵市

市は、臼杵小学校やこれを含めた防災対策について、地域コミュニティの再生、地域防災力の向上及び学校防災教育の推進の観点から、市の関連施策を総合的に推進するとともに、臼杵市中央区長会、臼杵小学校及び臼杵小学校 PTA と協調・連携して、強化していきます。

以上について、平成 25 年 4 月 1 日から施行される「臼杵市まちづくり基本条例」に基づいてとりくむこととし、その決意を表すため、次の宣言を臼杵市中央区長会、臼杵小学校及び臼杵小学校 PTA 並びに臼杵市のそれぞれにおいて行うものとします。

なお、将来において社会情勢や環境が変化し、地域を含めて何らかの課題が生じた場合には、4 者が協議して対策を行うこととする。

宣 言

今を生きる私たちは、未来の世代に対する責任として、「子どもたちの命を守る取り組み」を自覚ある行動によって継続していくことを宣言します。

この確認を証すため、本書 4 通を作成し、臼杵市中央区長会長、臼杵小学校長、及び臼杵小学校 PTA 会長並びに臼杵市長が署名押印の上、各自その 1 通を保有します。

平成 25 年 2 月 19 日

臼杵市中央区長会長	高西久邇孝
臼杵小学校長	黒枝徳幸
臼杵小学校 PTA 会長	塩崎洋一
臼杵市長	中野五郎

あとがき

最後に、平成 24 年度および 25 年度の臼杵小学校 PTA 役員の皆さんや臼杵小学校の教職員の皆さん、また、臼杵市役所や臼杵市教育委員会、及び地元自治会をはじめ多くの皆さんとともにこうした PTA 活動が出来たことに衷心より感謝申し上げる次第である。

平成 26 年 4 月 30 日

臼杵市立臼杵小学校 前 PTA 会長 塩崎洋一

本資料作成に当たり、事前閲覧にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

平成 26 年 4 月 30 日

立命館アジア太平洋大学 准教授 淵ノ上英樹